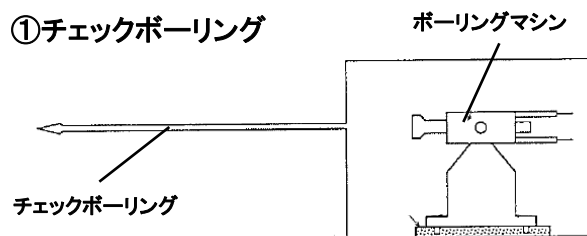


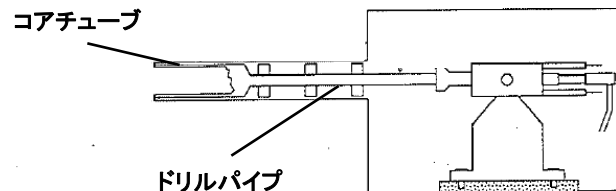
3. シームの活動性

初期地圧の測定方法(概要)

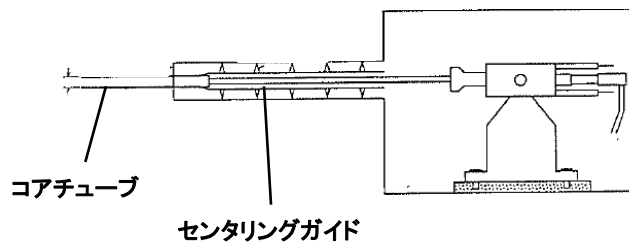
①チェックボーリング



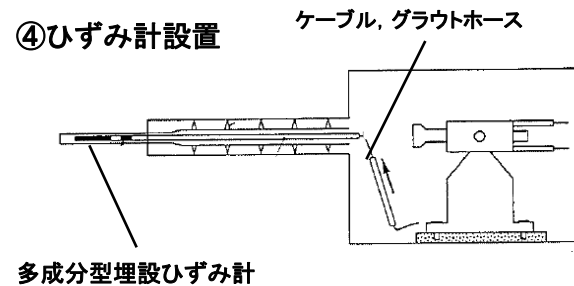
②カットボーリング



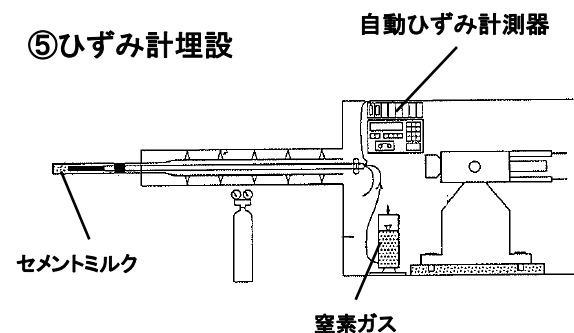
③パイロットボーリング



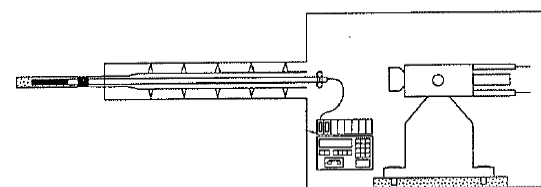
④ひずみ計設置



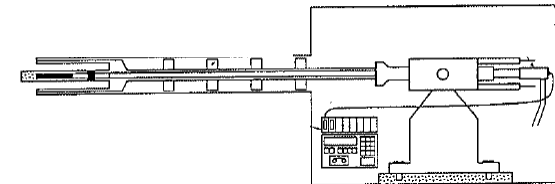
⑤ひずみ計埋設



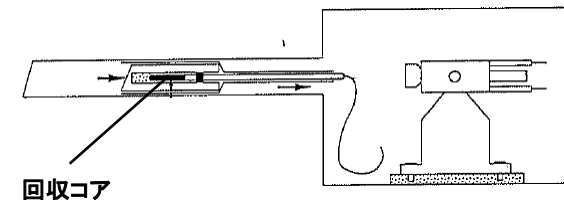
⑥セメントミルクの養生



⑦オーバーコアリング



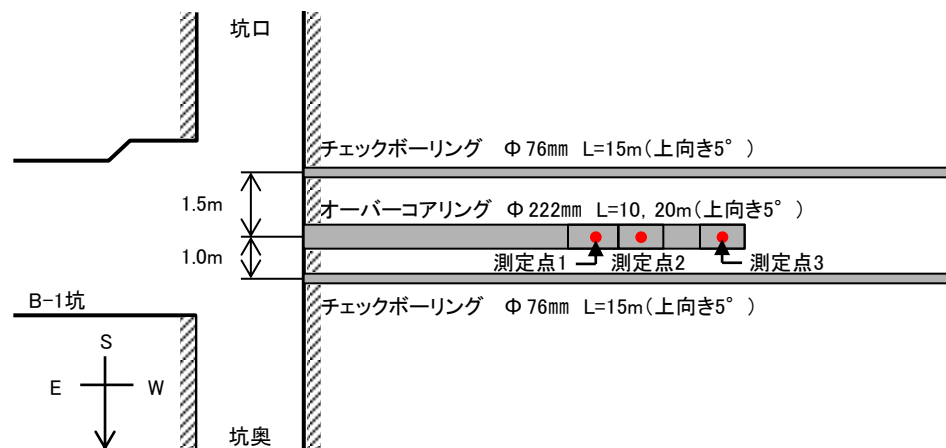
⑧コアの回収



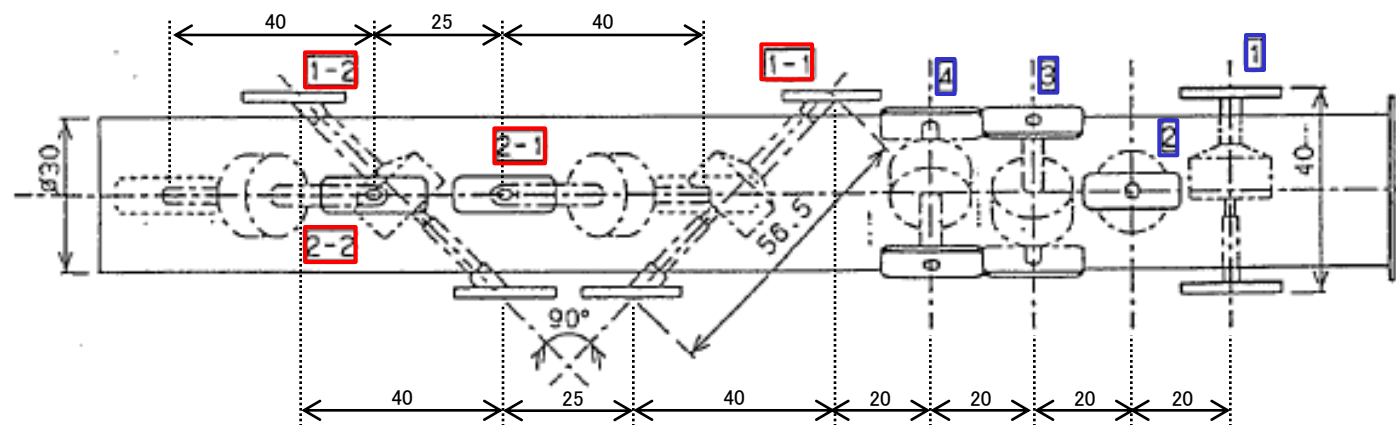
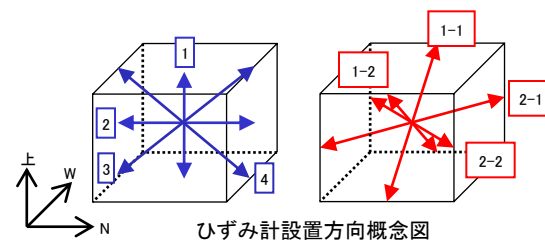
- ・多成分型埋設ひずみ計を測定用ボーリング孔内にセメントミルクで埋設・固着させる。
- ・大口径オーバーコアリングによる応力解放時の変位を測定し、その変化量に対応する応力を弾性論によって求める。

3. シームの活動性 (1) 応力場及びシームの形成に関連したずれの方向に着目した活動性評価 ① 初期地圧の測定方法

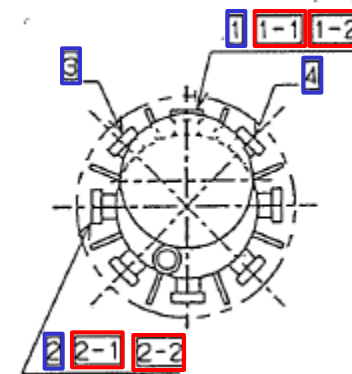
初期地圧の測定方法(測定点及びひずみ計設置位置)



初期地圧測定点平面位置図



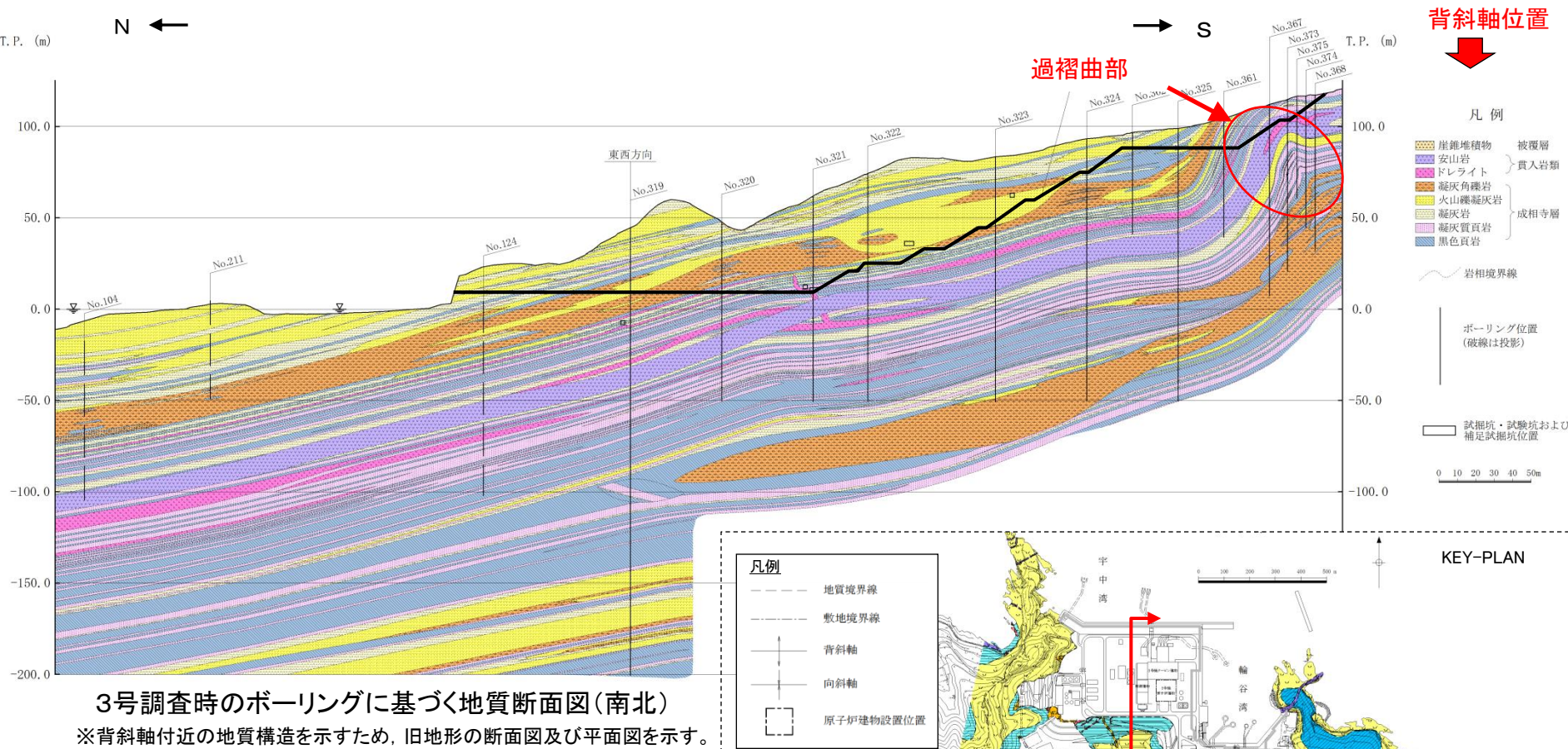
ひずみ計設置 側面透視図



ひずみ計設置 正面図

・測定点は3箇所とし、ひずみ計は8方向のひずみを測定できるようにそれぞれの測定点に設置した。

背斜軸付近の地質構造

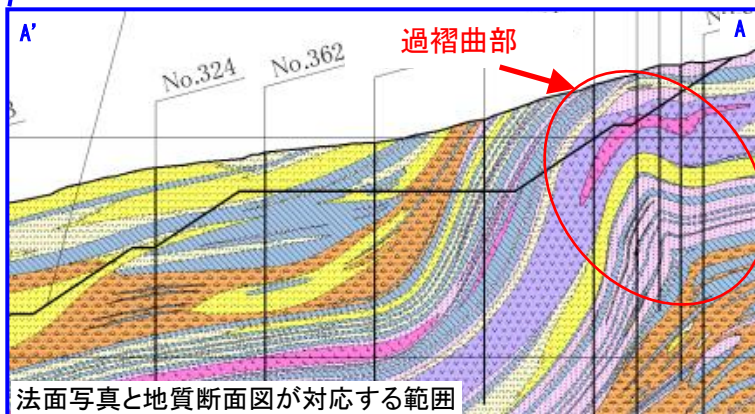
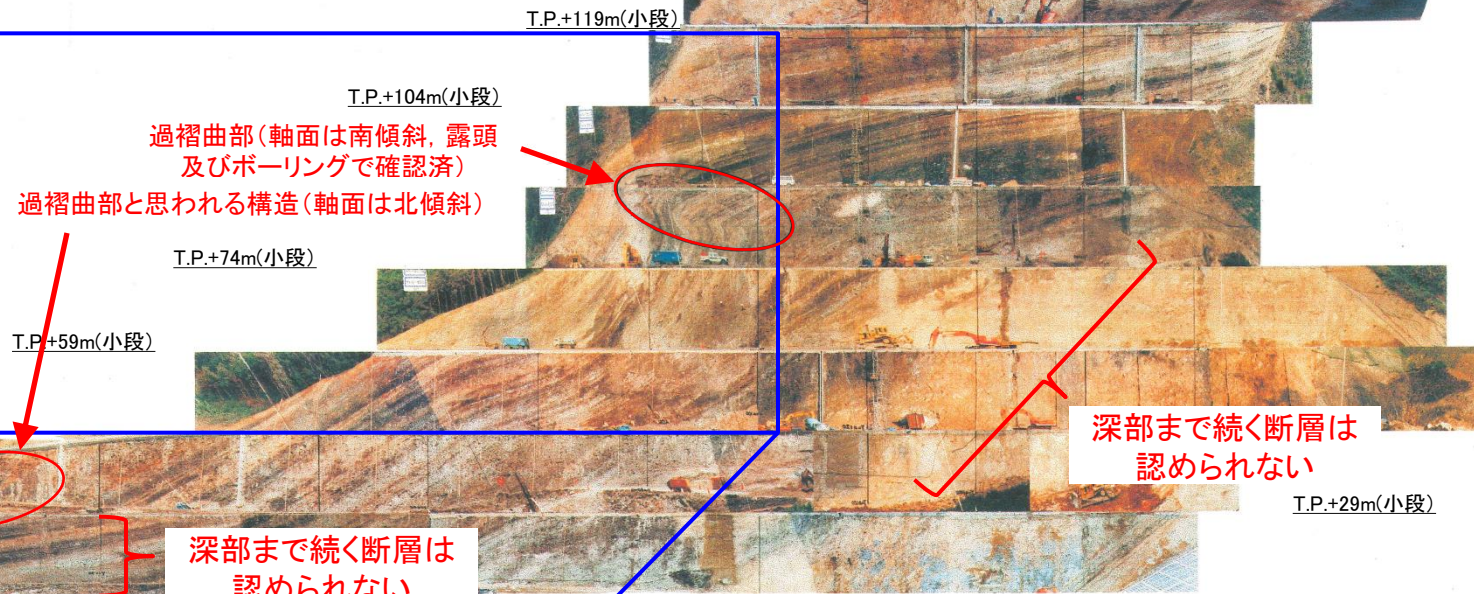
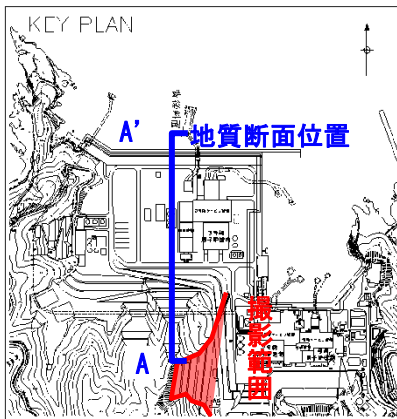


・ボーリング調査の結果、背斜軸の北側において、過褶曲部が確認された。

凡 例					
地質時代		地 層 名		主 要 構 成 地 質	
新 生 代	第四紀	被覆層	盛 土	礫混り砂質土・礫混り粘性土	
		崖堆積物	礫混り砂質土・礫混り粘性土	▲ ▲ ▲ ▲	
	第三紀	中新世	貫入岩類	安山岩	▼ ▼ ▼ ▼
				ドレライト	■ ■ ■ ■
		成相寺層	上部頁岩部層	黒色頁岩	■ ■ ■ ■
			火砕岩部層	凝灰岩・凝灰角礫岩	▼ ▼ ▼ ▼
	下部頁岩部層	黒色頁岩・凝灰質頁岩	■ ■ ■ ■		

過褶曲部の法面写真

2号炉増設時に各法面毎に撮影した写真を接合した。なお、撮影時期、撮影位置等の撮影状況が法面毎に異なるため、写真に記載された座標位置が整合するように画像処理を行うとともに、地質断面図との対比のため、画像を反転した。



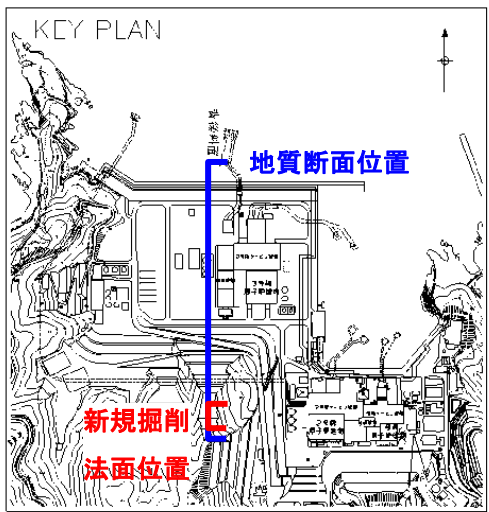
※背斜軸付近の地質構造を示すため、旧地形の平面図及び断面図を示す。

- ・2号炉増設に係る敷地造成時の法面写真では、ボーリング調査において確認された過褶曲と同様の構造が認められる。
- ・当該写真の法面北側付近でも、過褶曲と思われる構造が認められる。
- ・上記二つの構造の下位の地層はゆるやかな傾斜を示し、深部まで続く断層は認められないことから、断層運動に起因する構造ではないと評価した。
- ・上記二つの構造の褶曲の軸面は、北傾斜及び南傾斜を示すことから、これらの構造の変形の開始時期は、未固結～半固結時と評価した。

地質調査結果(過褶曲部の新規掘削法面 現地写真)



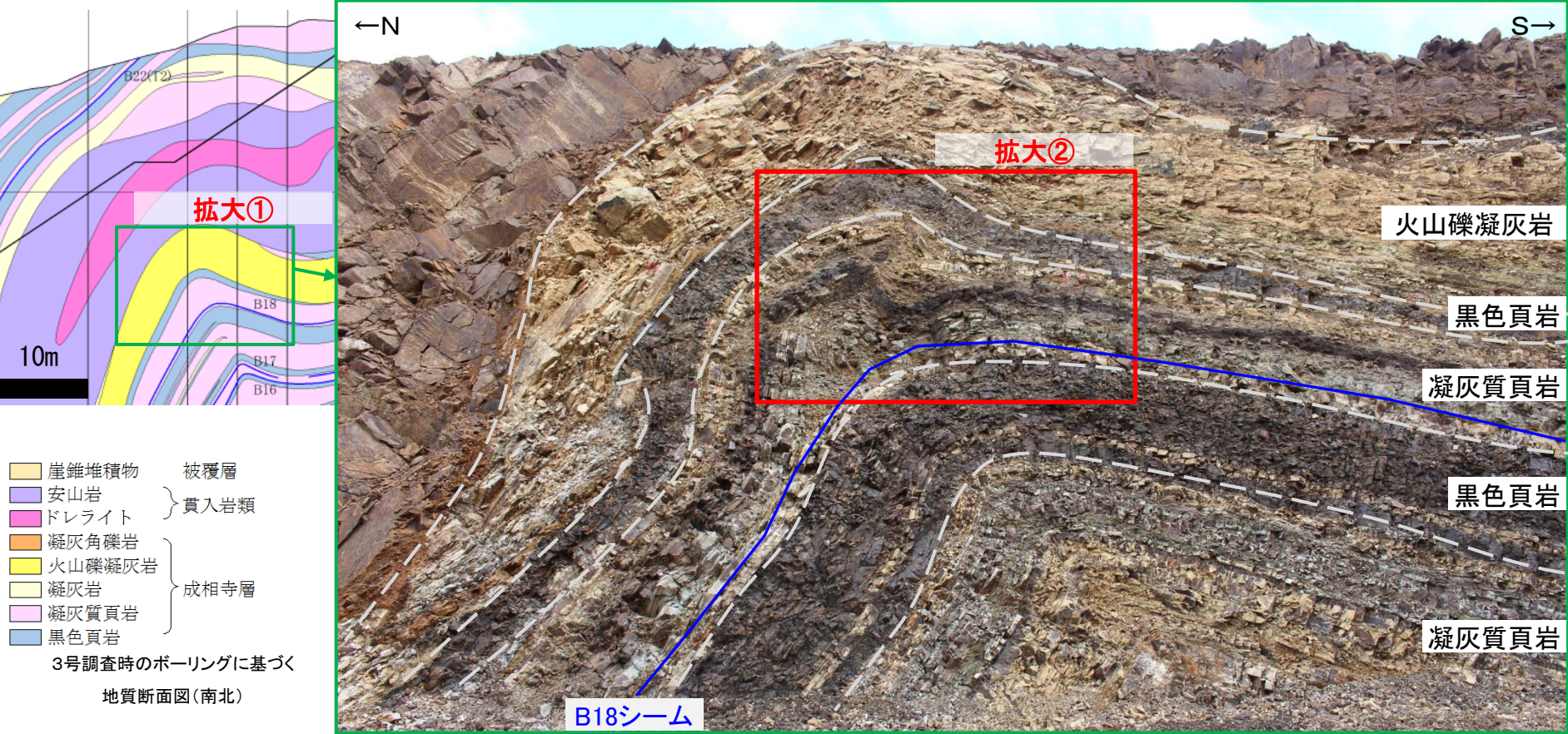
現地写真(新規掘削法面における過褶曲構造) 平成27年10月撮影



・過褶曲部の地質状況を詳細に観察するため、地質断面図(南北)作成位置と同位置において、関連施設の敷地造成工事に合わせて法面整形を行った。

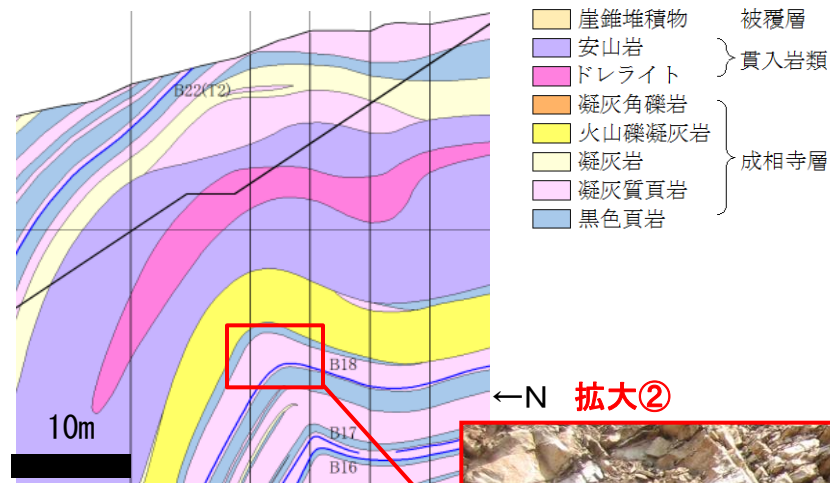
※背斜軸付近の地質構造を示すため、旧地形の平面図を示す。

地質調査結果(過褶曲部の新規掘削法面 現地写真 拡大①)

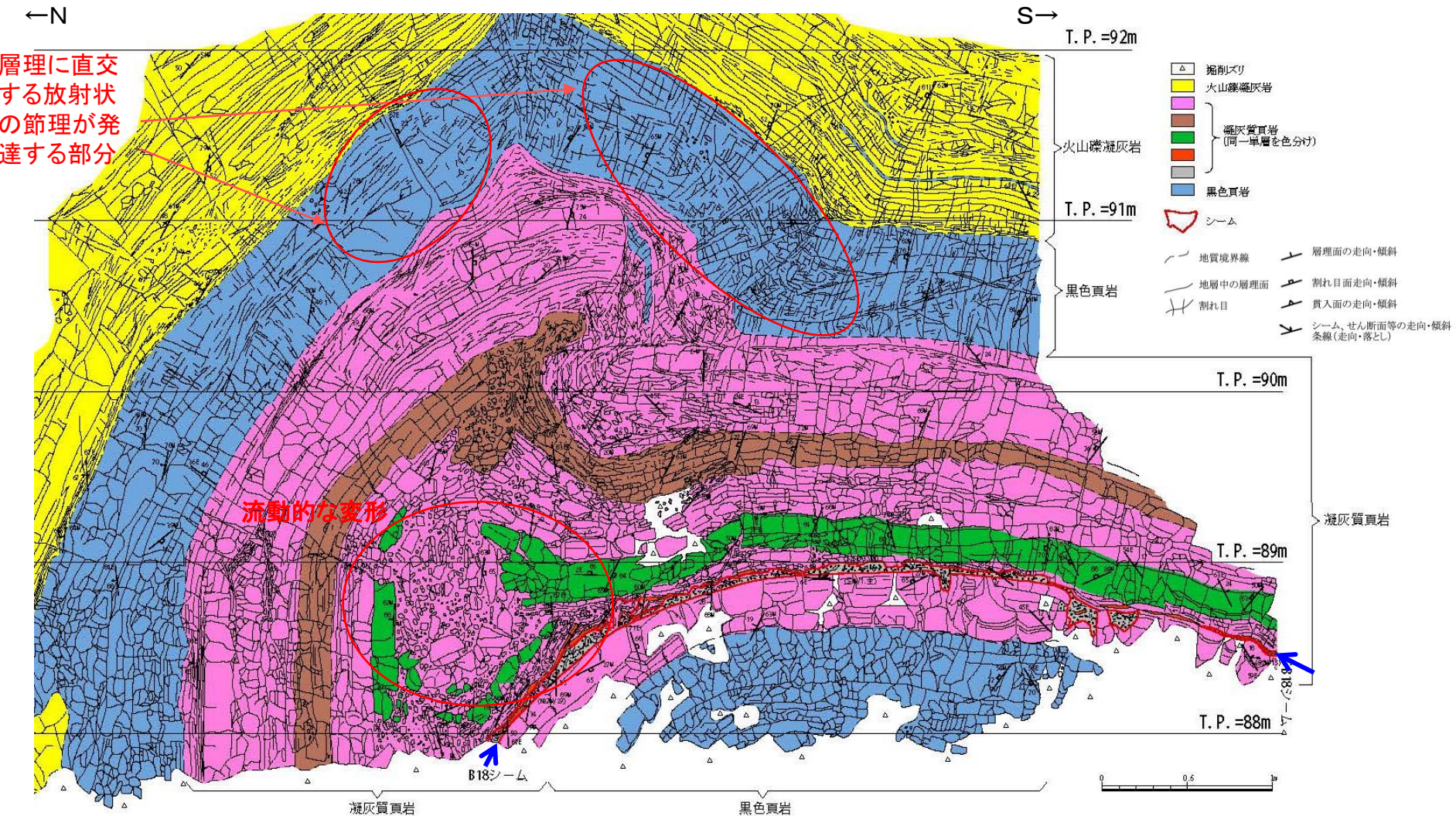


・頁岩層等の層厚変化が認められること、及び過褶曲の軸面の直線性が低いことから、変形の開始時期は未固結～半固結時であると評価した。

地質調査結果(過褶曲部の新規掘削法面 現地写真 拡大②)

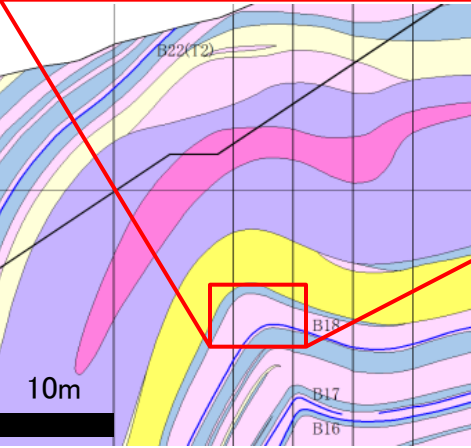
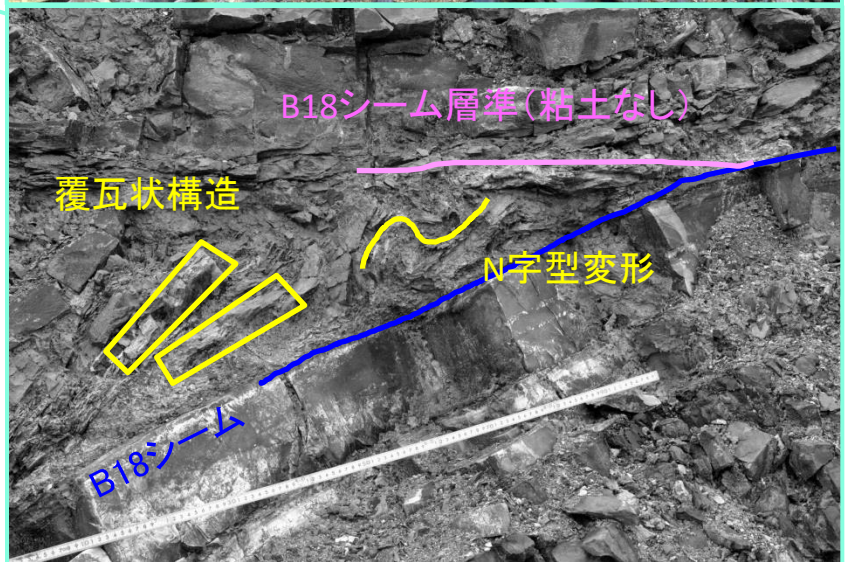
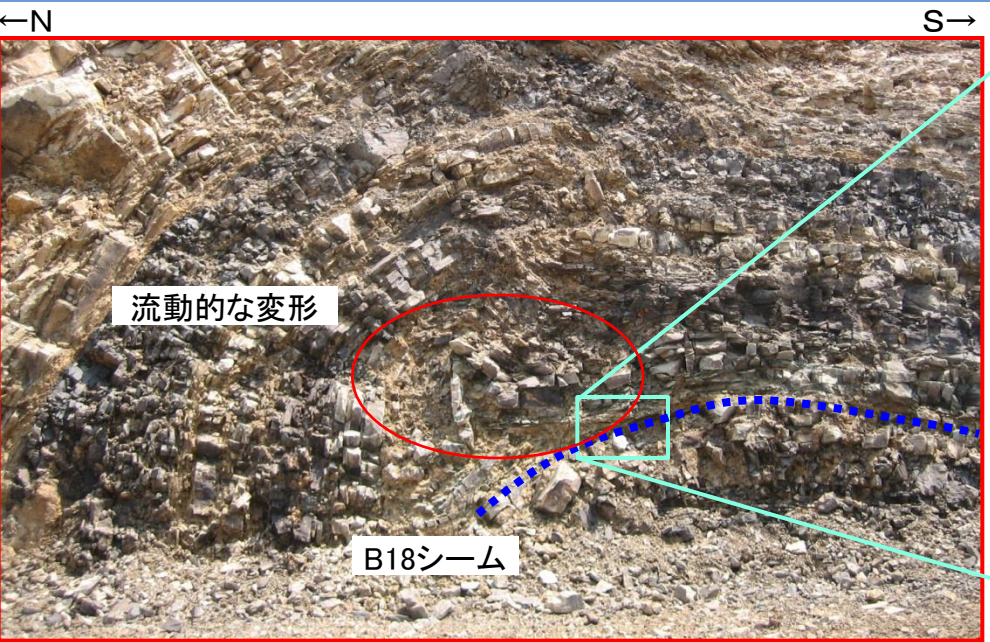


【拡大写真】 過褶曲部 近接写真



- ・凝灰質頁岩中に、未固結～半固結時の流動的な変形を示唆する構造が認められる。
- ・黒色頁岩、凝灰質頁岩等には、半固結～固結時の脆性的な変形を示唆する層理と直交する放射状の節理が認められる。
- ・凝灰質頁岩中の層理面に沿って、B18シームが分布している。

3. シームの活動性 (1)応力場及びシームの形成に関連したずれの方向に着目した活動性評価 ②過褶曲とシームの形成過程
地質調査結果(過褶曲部の新規掘削法面 B18シーム付近)

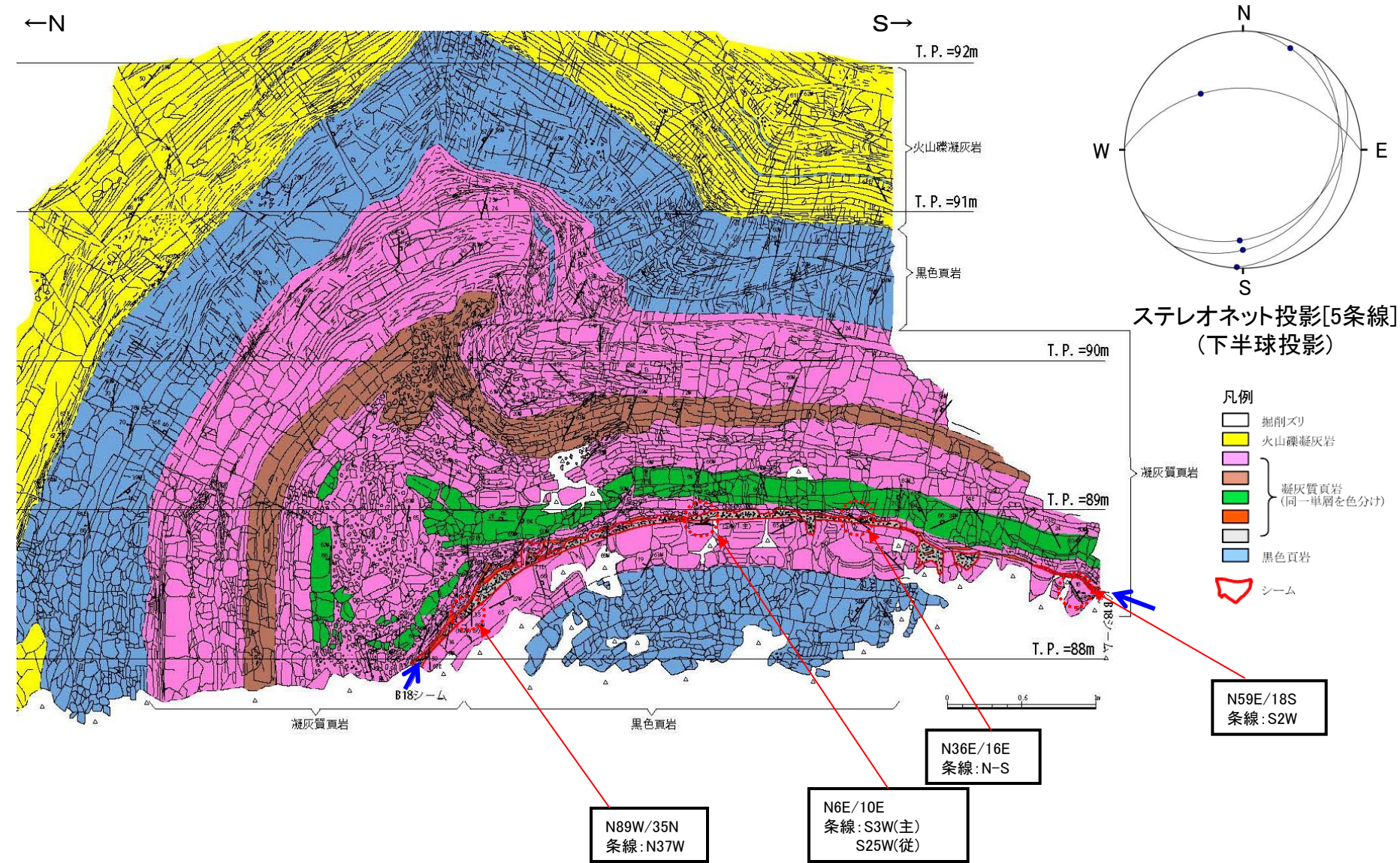


- | | |
|--------|------|
| 崖錐堆積物 | 被覆層 |
| 安山岩 | |
| ドレライト | 貫入岩類 |
| 凝灰角礫岩 | |
| 火山礫凝灰岩 | 成相寺層 |
| 凝灰岩 | |
| 凝灰質頁岩 | |
| 黒色頁岩 | |

3号調査時のボーリングに基づく地質断面図(南北)

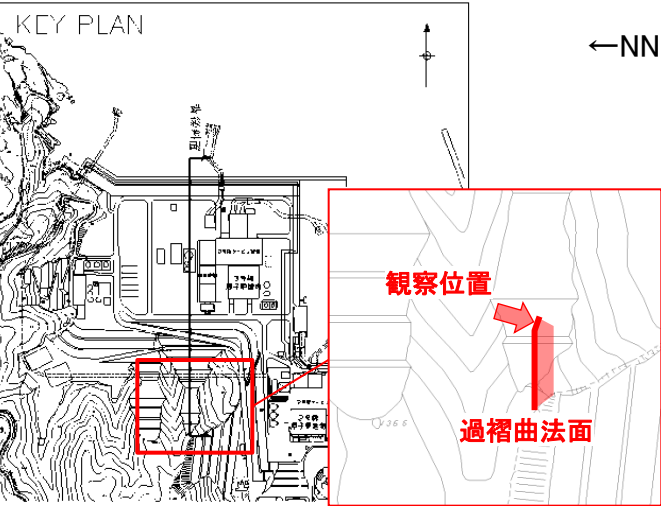
- ・凝灰質頁岩中の流動的な変形部分には、B18シーム層準が食違ってY分岐する正断層センスと、N字型変形及び覆瓦状構造から成る逆断層センスが認められる。B18シーム層準の食違い部は粘土化していない。
- ・B18シームの層厚は、数mm～10cmとばらつきはあるが、平均で約3cmである。

地質調査結果(B18シーム条線観察)



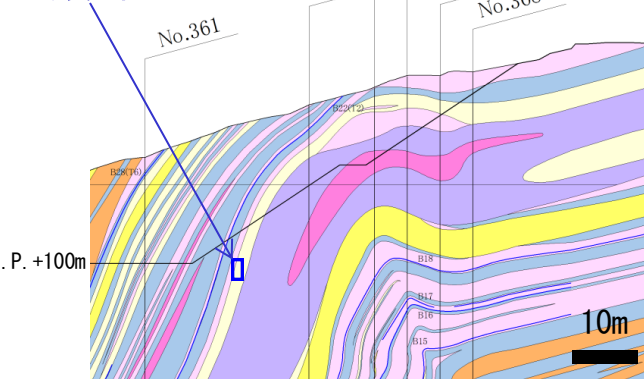
・B18シームの条線観察の結果、概ね南北方向を示し、南北圧縮応力場に伴う褶曲運動に調和的である。

地質調査結果(過褶曲北側の法面 スケッチ)



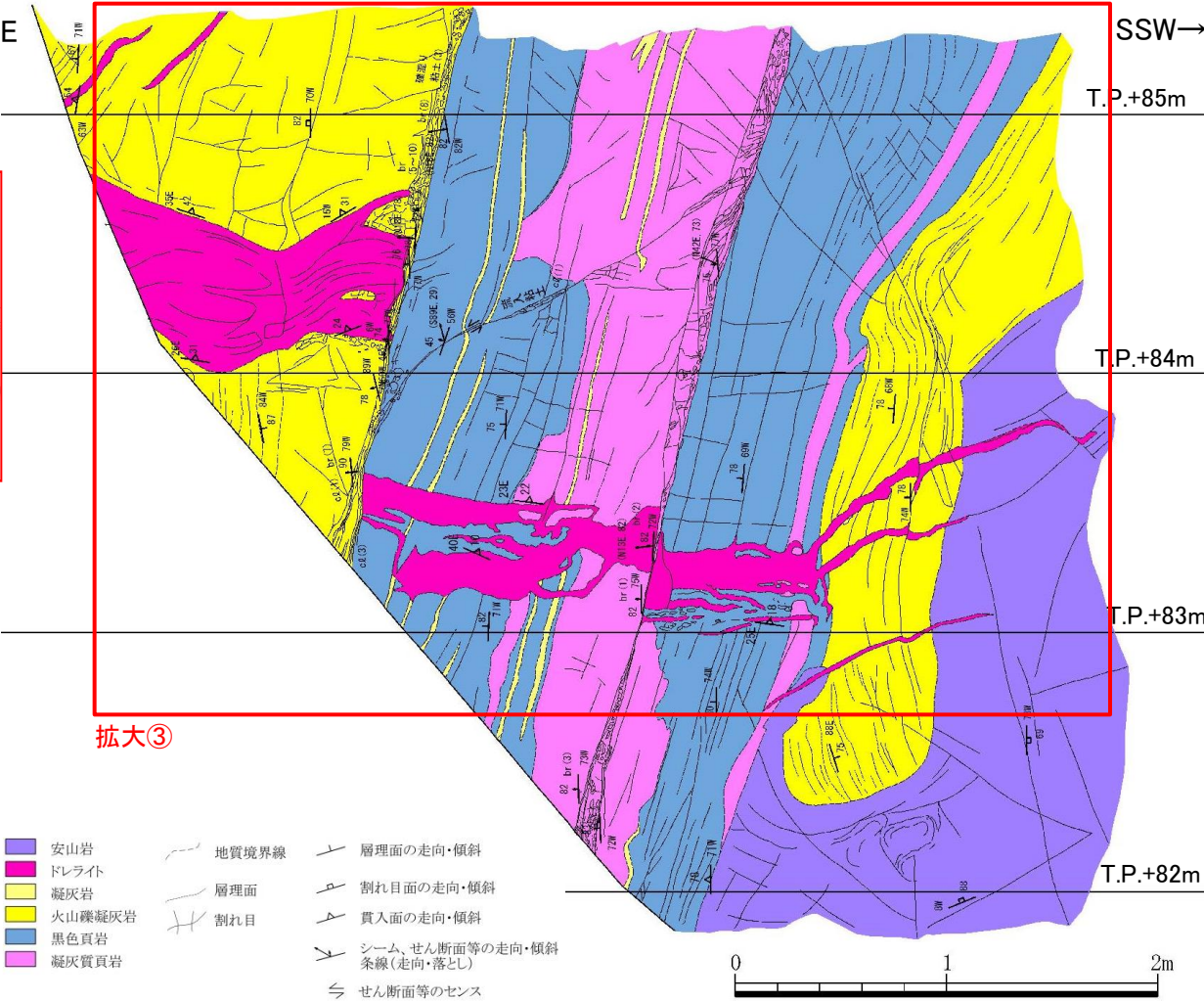
※背斜軸付近の地質構造を示すため、旧地形の平面図及び断面図を示す。

現地写真真位置



- | | |
|--------|------|
| 崖錐堆積物 | 被覆層 |
| 安山岩 | |
| ドレライト | 貫入岩類 |
| 凝灰角礫岩 | |
| 火山礫凝灰岩 | 成相寺層 |
| 凝灰岩 | |
| 凝灰質頁岩 | |
| 黒色頁岩 | |

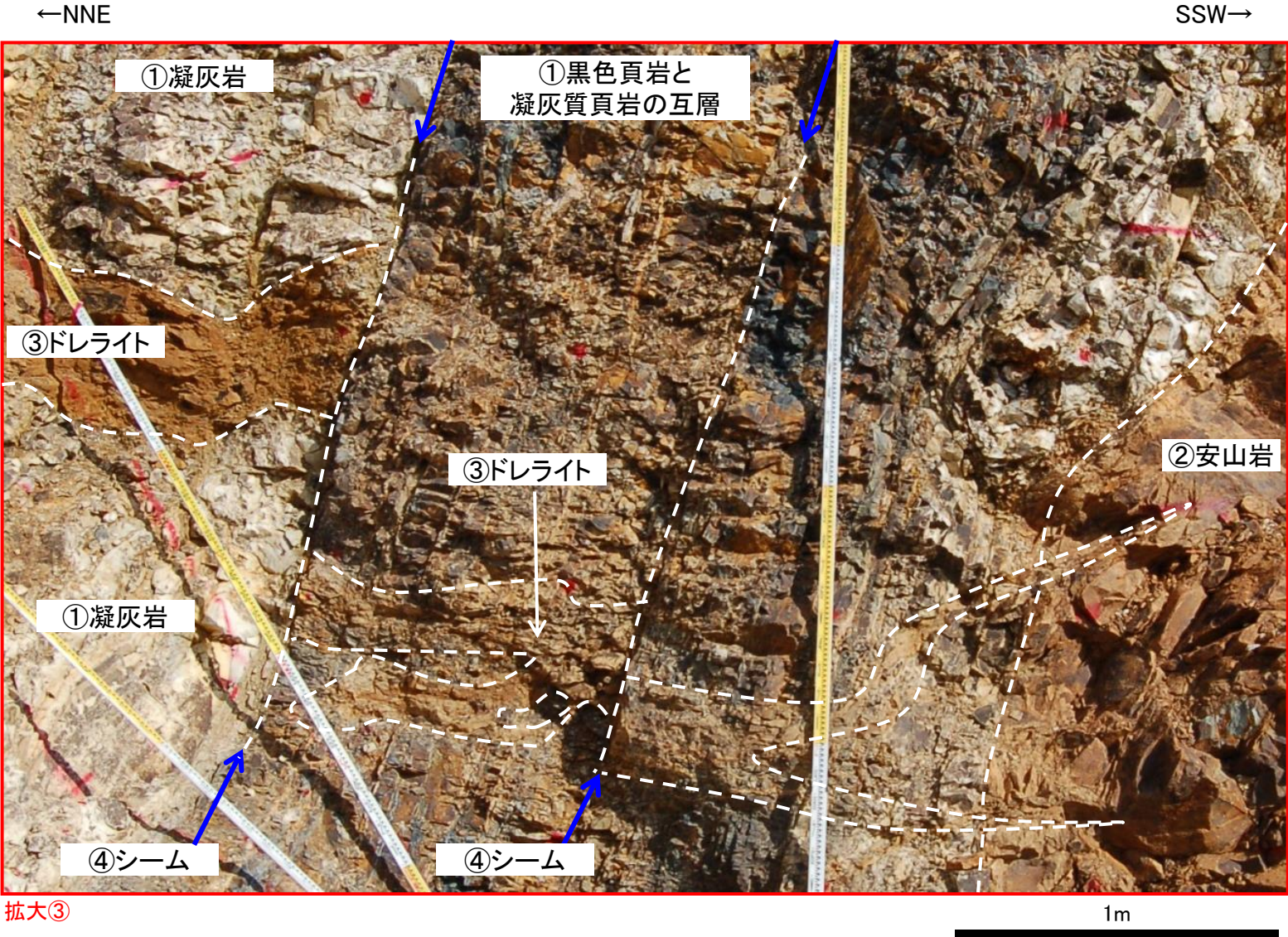
3号調査時のボーリングに基づく地質断面図(南北)



過褶曲北側 北北東-南南西の法面のスケッチ図

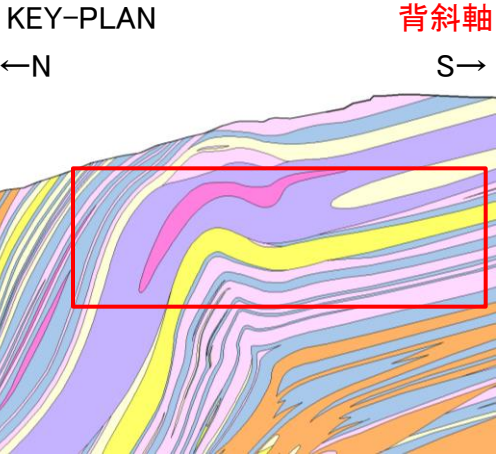
・ドレライトは安山岩に脈状に貫入している。
・シームはドレライトを切断しており、その変位方向は逆断層センスである。
以上のことから、安山岩の貫入、ドレライトの貫入、層面すべりによるシームの形成・ドレライトの切断の順であり、安山岩貫入後も褶曲運動は続いていたと評価した。

地質調査結果(過褶曲北側の法面 現地写真)

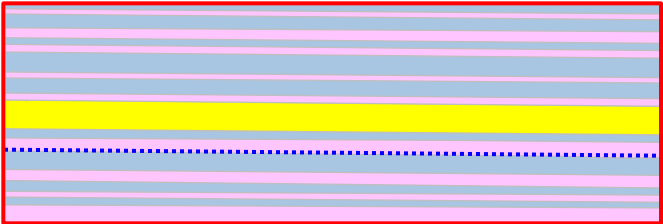


シームがドレライトを逆断層センスに切断する箇所の現地写真

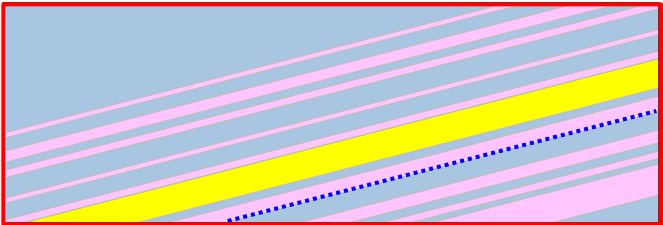
(参考) 過褶曲部とシームの形成過程 (イメージ)



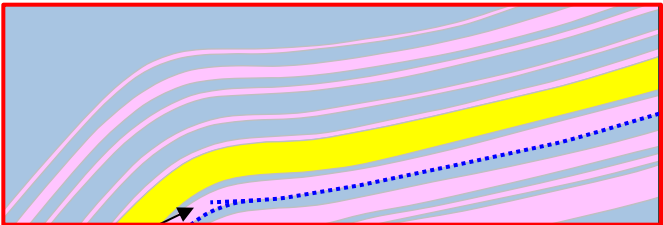
- 崖錐堆積物
 - 安山岩
 - ドレライト
 - 凝灰角礫岩
 - 火山礫凝灰岩
 - 凝灰岩
 - 凝灰質頁岩
 - 黑色頁岩
- 被覆層
- 貫入岩類
- 成相寺層



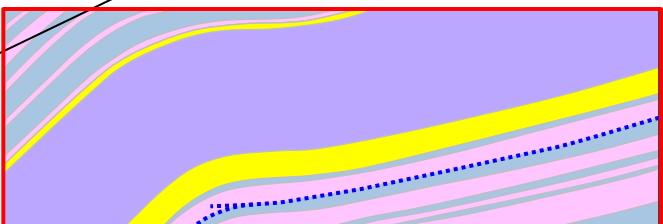
- 【ステージ1】
- ・15Ma頃、深海域において、泥、火山灰等が堆積する層境界等には、凝灰質な薄層が堆積する。(青点線部分)



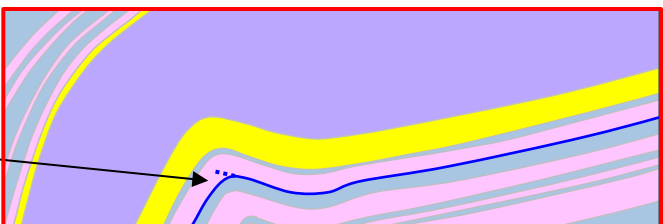
- 【ステージ2】
- ・概ね同時期から、南北圧縮応力による褶曲運動が開始し、地層がゆるやかに傾斜し始める。



- 【ステージ3】
- ・未固結～半固結状態において、海底地すべり等による変形が生じ、スランプ褶曲が形成される。
 - ・2号増設時の法面北側においても、同時期にスランプ褶曲が形成される。



- 【ステージ4】
- ・14Ma頃、安山岩がスランプ褶曲の構造沿いに貫入する。

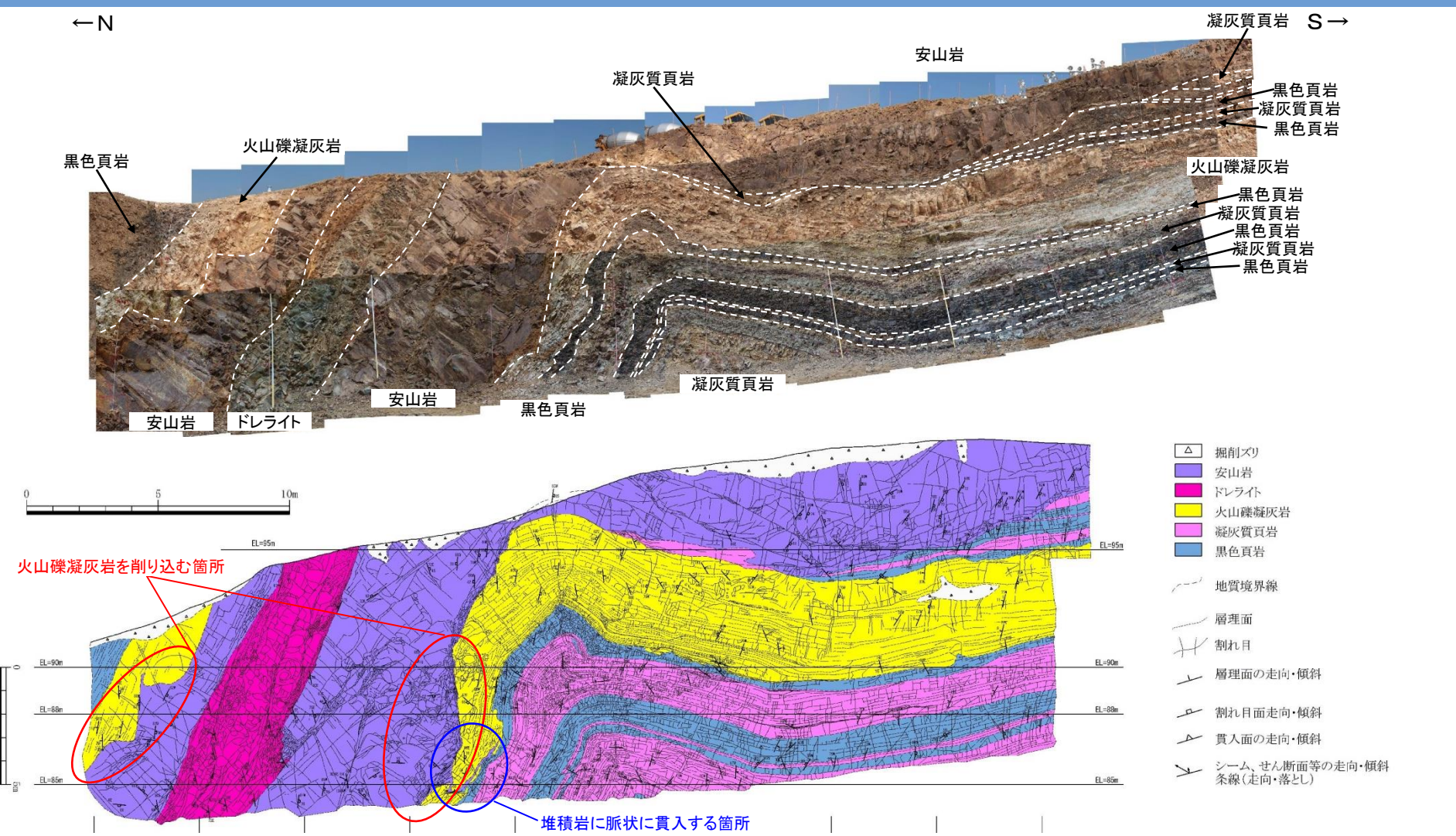


- 【ステージ5】
- ・南北圧縮応力場において、固結が進む過程においても変形が進展し、固結度が高い層では脆性的な変形(層理に直交する節理等)が生じるとともに、過褶曲構造が形成される。
 - ・凝灰質な薄層の一部が層面すべりにより粘土化し、シームが形成される。
 - ・6Ma頃までに、南北圧縮応力による褶曲運動が完了する。

地すべり等の変形により、局所的に単層の食違いが生じる

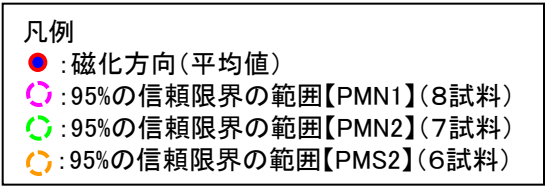
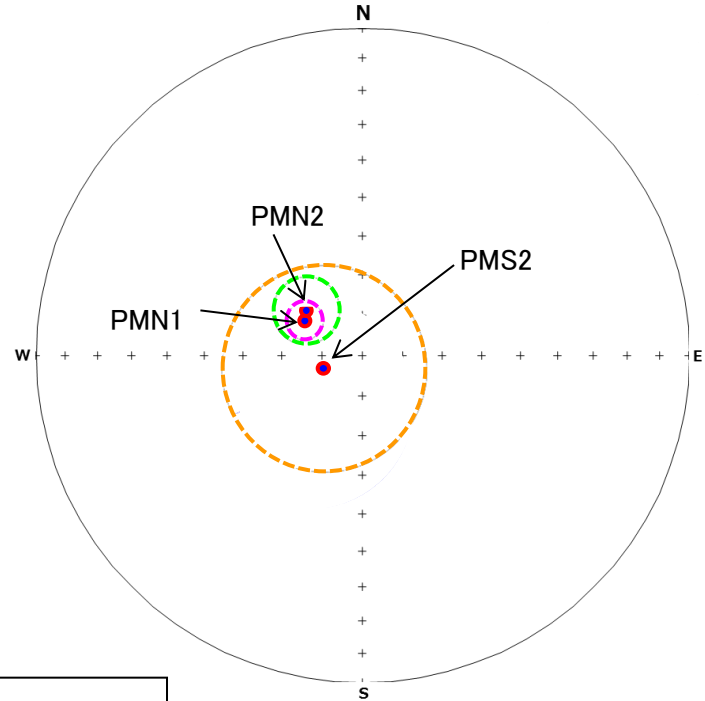
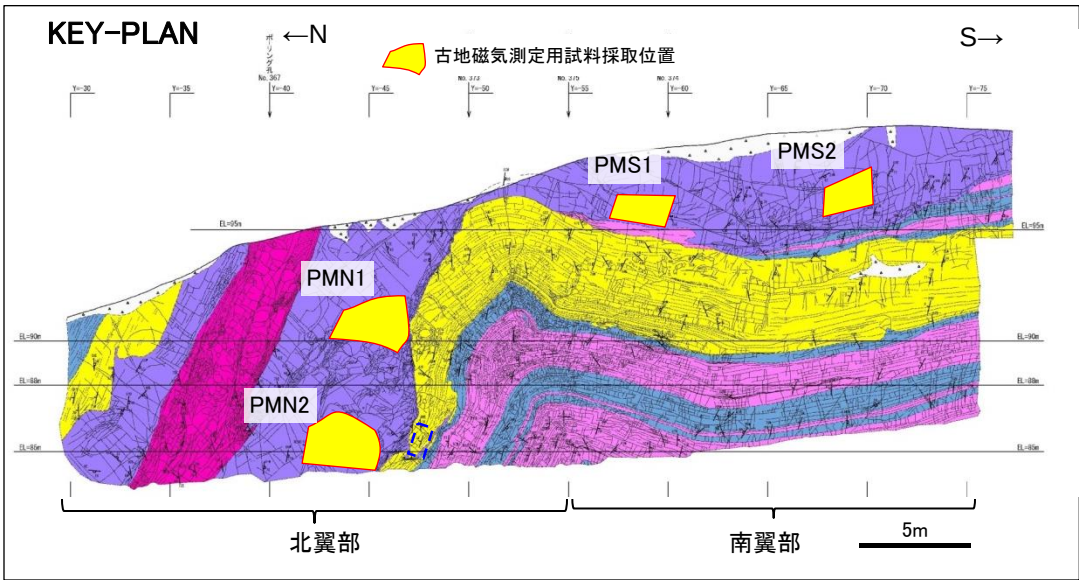
層面すべりにより、食違い部分を除くシーム層準が選択的に粘土化する

(参考)地質調査結果(安山岩の性状)



・安山岩は、周囲の火山礫凝灰岩を一部削り込みながら、過褶曲の構造沿いに湾曲して貫入している。
・一部、堆積岩に脈状に貫入する箇所も認められる。
・貫入後の冷却に伴う柱状節理が認められるが、凝灰質頁岩等の堆積岩中に認められる過褶曲軸付近に密集する節理と同様の節理は認められない。

(参考)地質調査結果(古地磁気測定結果)

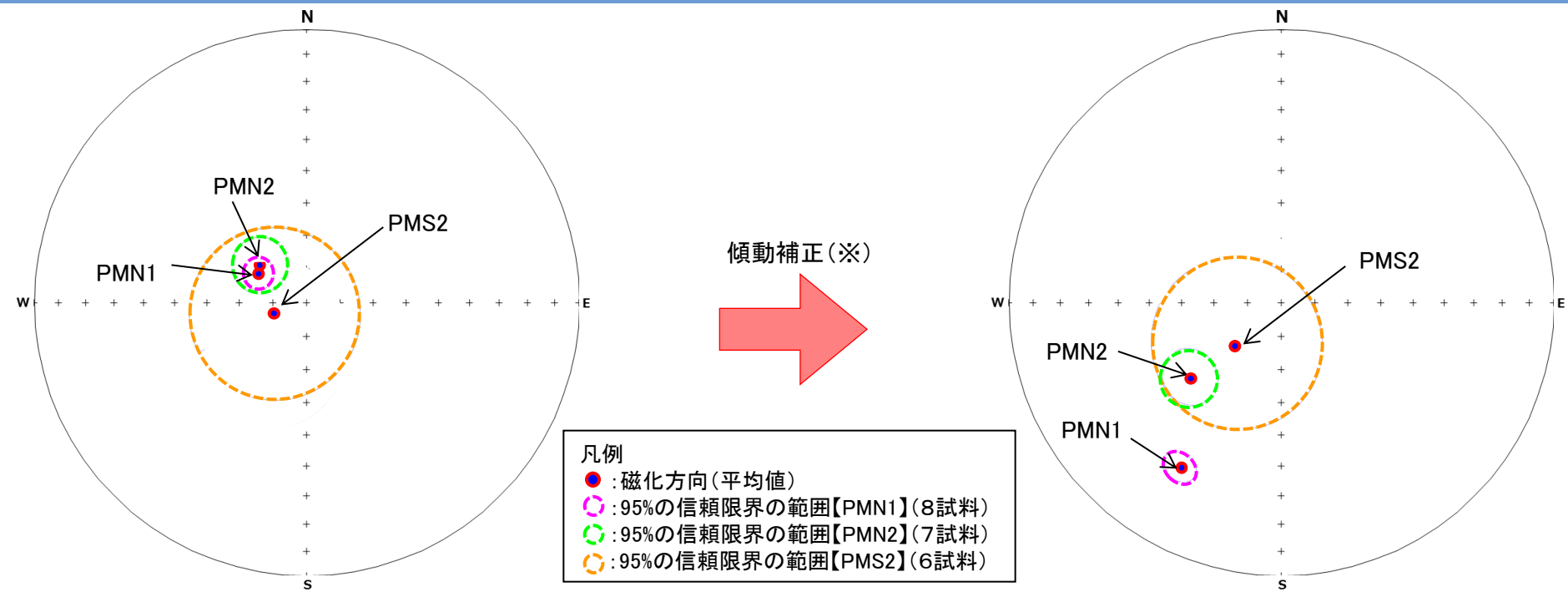


安山岩における磁化方向のステレオネット(上半球投影)

※ PMS1は、10試料のうち8試料の自然残留磁化強度が低いことから、測定対象から除外した。

・安山岩への褶曲運動等の影響の有無を検討するため、安山岩中の岩石試料を採取し、古地磁気測定を行った。
・古地磁気測定用試料は、北翼部で2箇所(PMN1, PMN2)、南翼部で2箇所(PMS1, PMS2)、1箇所あたり10試料を採取した。
・古地磁気を測定した結果、その磁化方向は、北翼部及び南翼部で概ね同様である。

(参考)地質調査結果(古地磁気測定結果)



傾動補正前の磁化方向のステレオネット(上半球投影)

傾動補正後の磁化方向のステレオネット(上半球投影)

※ 傾動補正(小玉(1999)⁽⁵⁾)

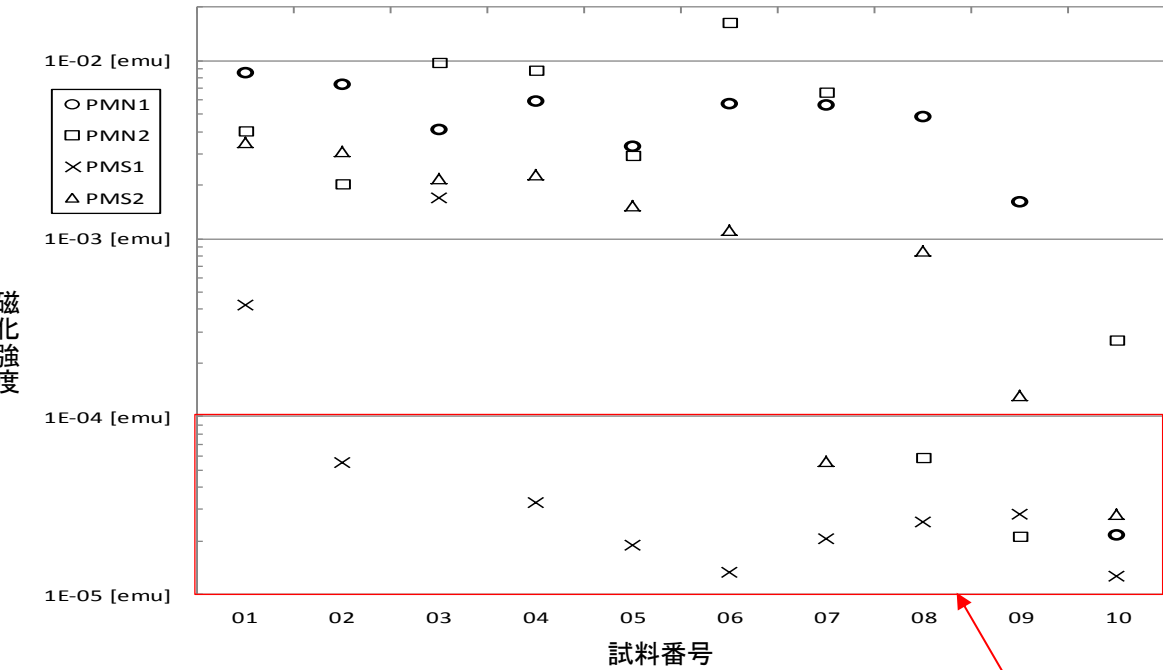
磁化方向を層理面に対して固定したまま、地層を水平に戻す補正のことであり、以下の手順により行う。

- ①各試料採取地点近傍の堆積岩の層理面の走向・傾斜から、過褶曲のプランジ角を求め、プランジ角がゼロとなるように磁化方向を補正する。
- ②各試料採取地点近傍の堆積岩の層理面の走向・傾斜から、当該層理面が水平面となるように磁化方向を補正し、地層が水平なときの磁化方向を復元する。

・安山岩貫入後に過褶曲部の構造が形成されたと仮定し、安山岩貫入時の磁化方向を傾動補正により求めた結果、傾動補正前の磁化方向の方が一方向にまとまっている。

現地写真安山岩の性状及び古地磁気測定結果より、安山岩は、大規模な変形を受けていないことから、過褶曲の原型となるスランプ褶曲が概ね形成された後に貫入したと評価した。
過褶曲北側の法面の観察結果より、安山岩貫入後も褶曲運動は続き、シームや過褶曲が形成されたと評価した。

(参考) データ棄却及び磁気獲得時期の考え方



段階熱消磁における磁化方向の測定結果

地点		温度範囲(℃)	偏角(°)	伏角(°)	試料数
北翼側	PMN1	100℃-260℃	62.5	71.8	9
		420℃-580℃	-59.3	-73.2	8
	PMN2	100℃-260℃	18.8	57.9	7
		420℃-580℃	-51.7	-72.0	7
南翼側	PMS1	残留磁化強度が低いため測定対象から除外			
	PMS2	100℃-420℃	62.0	72.8	8
		420℃-580℃	-109.1	-79.6	6

高温側の磁化方向を採用

磁力計の定量下限値(1×10⁻⁵)のオーダーの試料は
評価対象から除外

- ・南翼部で試料採取したPMS1については、10試料中8試料の残留磁化強度が1×10⁻⁴emu以下であり、測定対象から除外した。
- ・二次的に獲得した磁化を消磁して初生磁化を取り出すため、段階熱消磁を実施しており、二次的な磁化が消磁された高温側の磁化方向を採用している。

まとめ

[既往地質調査結果]

- ・ボーリング調査の結果、背斜軸の北側において、過褶曲部が確認された。
- ・2号炉増設に係る敷地造成時の法面写真では、ボーリング調査において確認された過褶曲部や、さらに北側に過褶曲と思われる構造が認められるが、両者の下位の地層はゆるやかな傾斜を示し、深部まで続く断層は認められない。
- ・上記二つの構造の褶曲の軸面は、北傾斜及び南傾斜を示すことから、これらの構造の変形の開始時期は、未固結～半固結時と評価した。

[新規に掘削した法面の観察結果]

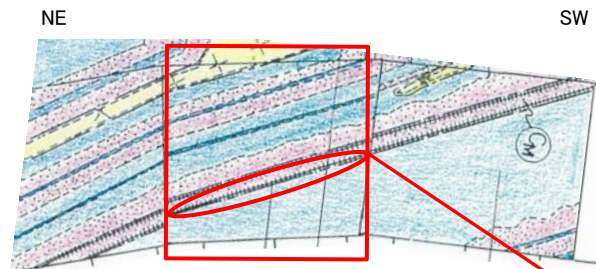
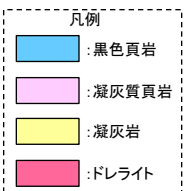
- ・新規に掘削した法面には過褶曲が認められ、その地質・地質構造は、ボーリング調査結果に基づく地質断面図と概ね整合している。
- ・頁岩層等の層厚変化が認められること等から、変形の開始時期は未固結～半固結時であると評価した。
- ・凝灰質頁岩中の流動的な変形が認められる部分には、B18シーム層準が食い違ってY分岐する正断層センスと、N字型変形及び覆瓦状構造から成る逆断層センスが認められる。B18シーム層準の食違い部は粘土化していないことから、南北圧縮応力に伴う褶曲運動により、凝灰質頁岩の層理に沿う部分のみ、シームが形成されたと評価した。
- ・B18シームの条線は概ね南北方向を示し、南北圧縮応力場に伴う褶曲運動に調和的である。
- ・過褶曲法面北端部に認められるドレライト岩脈は、シームによって切られており、その変位方向は逆断層センスである。

以上のことから、過褶曲は、断層を示唆する構造ではなく、南北圧縮応力に伴う褶曲運動の開始後に、未固結～半固結時に地すべり等の変形によりスランプ褶曲が形成され、その後、固結が進む過程においても引き続き南北圧縮応力に伴う変形が進展して形成されたものと評価した。

試掘坑における薄片観察(試料採取位置)

第223回審査会合
資料2-1 p.69 再掲

試料名:B23-DR-NE-SW



D坑R部 北西壁スケッチ図

○ サンプル位置

B23シーム



試掘坑写真(平成9年撮影)

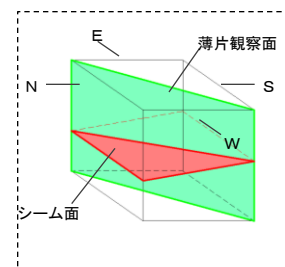
○ サンプル位置



ブロック試料写真(平成15年採取)



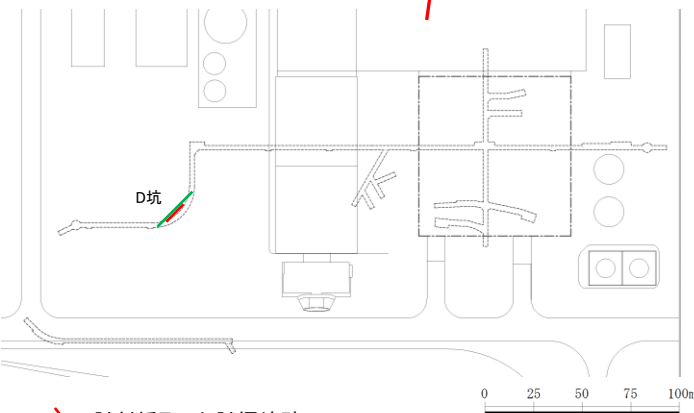
薄片写真(平成15年作製, 平成26年撮影)



薄片観察概念図



試掘坑サンプリング位置(平成15年撮影)



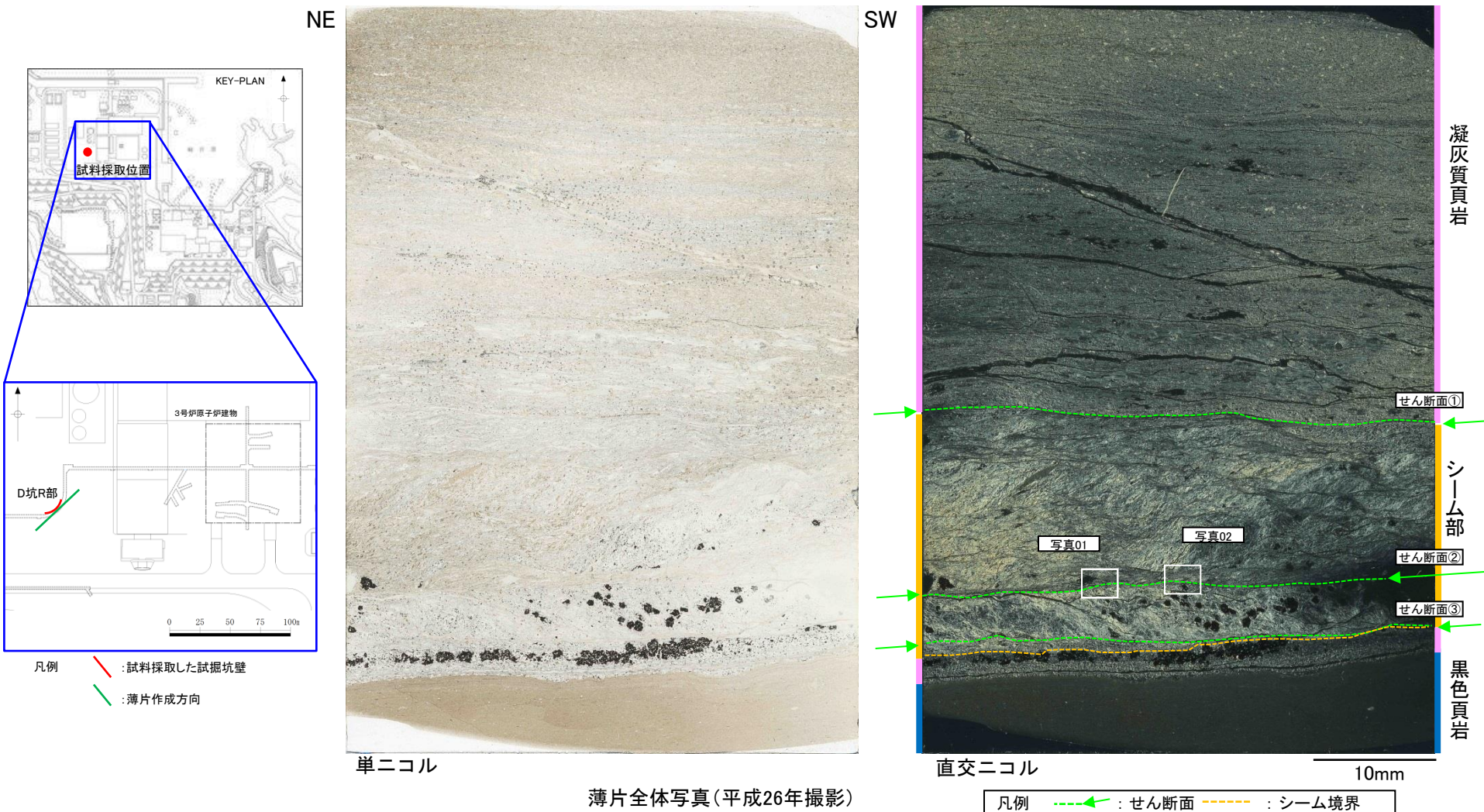
/: 試料採取した試掘坑壁

/: 薄片作成方向

薄片観察結果 B23-DR-NE-SW(せん断面の認定)

第223回審査会合
資料2-1 p.62 加筆・修正

113



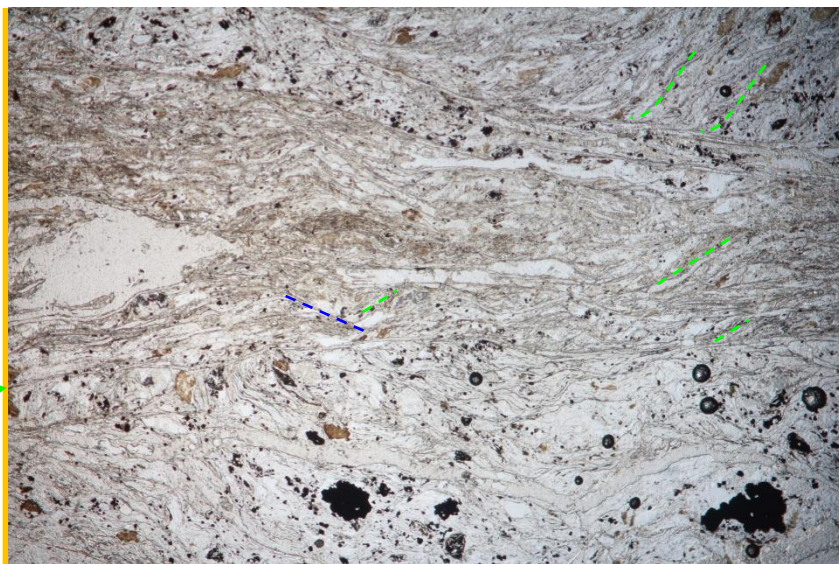
- ・肉眼観察及び鏡下観察による詳細観察の結果、3条のせん断面を抽出した。
- ・複合面構造が確認されるが、いずれのせん断面も直線性・連続性に乏しい。
- ・このうち、シーム中央部のせん断面②が比較的直線性・連続性を有する。

薄片観察結果 B23-DR-NE-SW(せん断面②)

第223回審査会合
資料2-1 p.71 加筆・修正

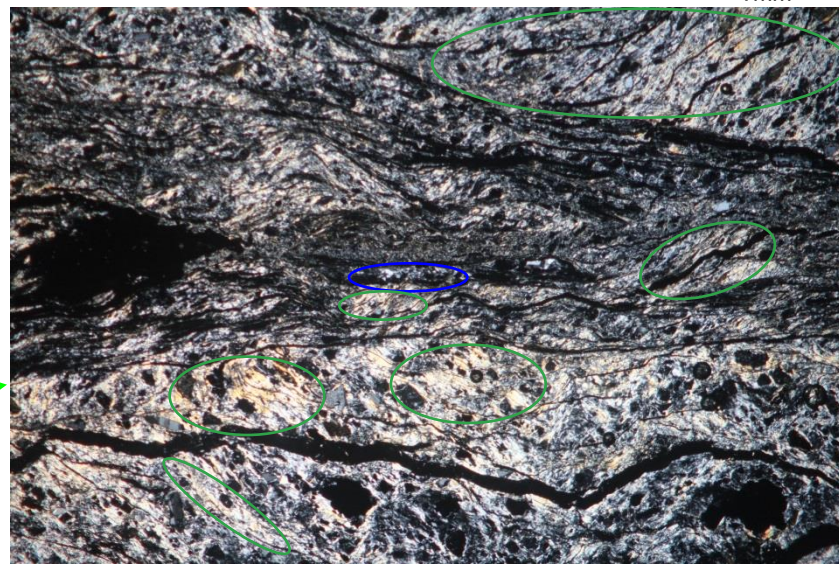
114

シーム部



単ニコル

1mm



直交ニコル

1mm

【写真01】

・複合面構造(P面, R面)及び薄片作製方向から, せん断面は逆断層センス(見かけ右横ずれ)であると評価した。

凡例
 せん断面
 濁沸石
 イライト／スメクタイト混合層鉱物
 P面
 R面

(平成27年撮影)

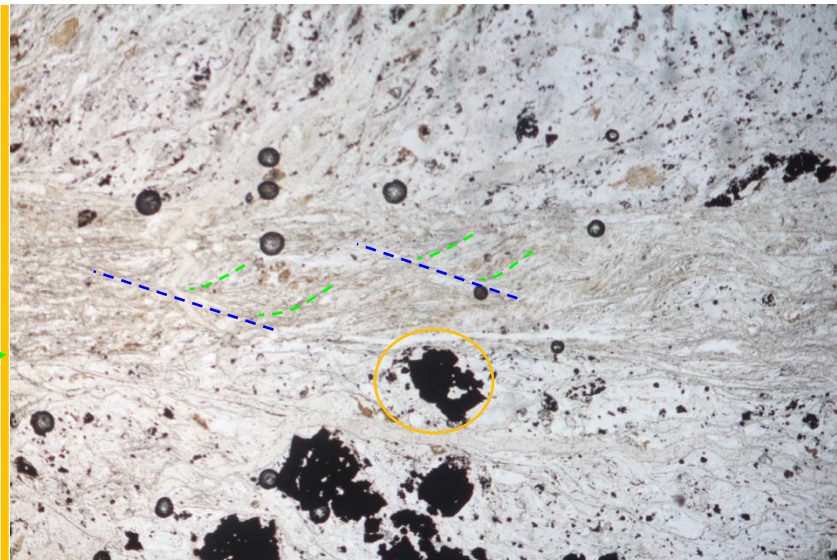
薄片観察結果 B23-DR-NE-SW(せん断面②)

第223回審査会合
資料2-2 p.44 加筆・修正

【写真02】

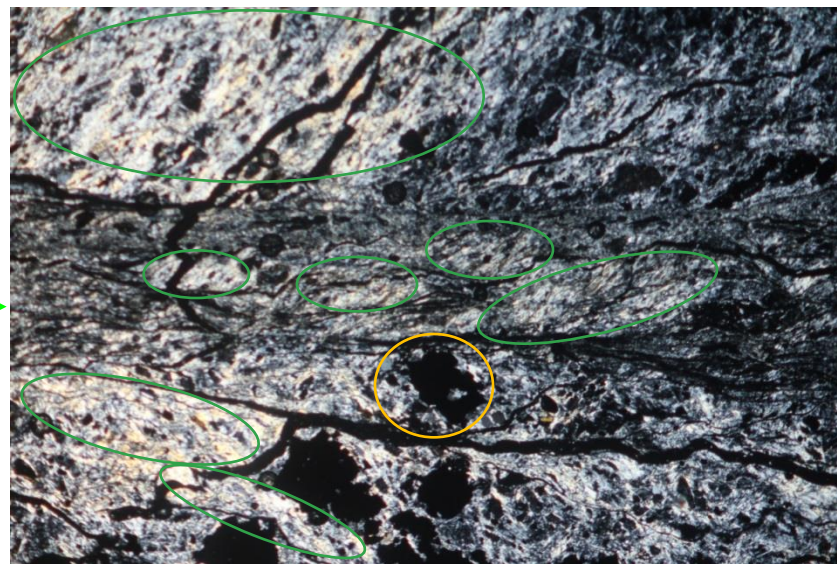
・複合面構造(P面, R面)及び薄片作製方向から, せん断面は逆断層センス(見かけ右横ずれ)であると評価した。

シーム部



単ニコル

1mm



直交ニコル

1mm

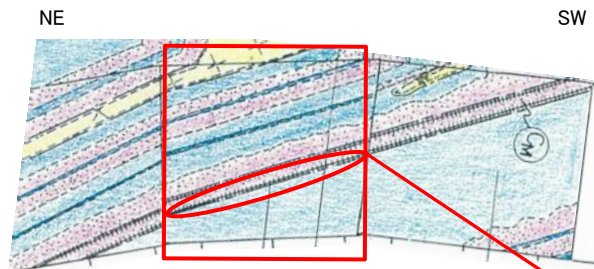
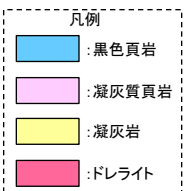
凡例
← : せん断面 ○ : 黄鉄鉱
○ : イライト/スメクタイト混合層鉱物
- - : P面 - - : R面

(平成27年撮影)

試掘坑における薄片観察(試料採取位置)

第223回審査会合
資料2-2 p.47 再掲

試料名:B23-DR-NW-SE



D坑R部 北西壁スケッチ図

○ サンプル位置

B23シーム



試掘坑写真(平成9年撮影)

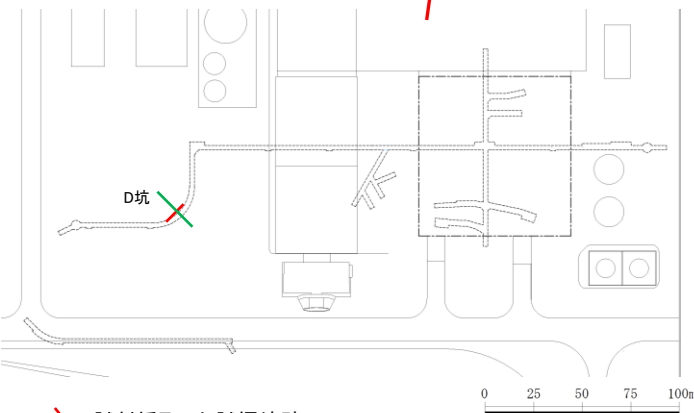
○ サンプル位置



ブロック資料写真(平成15年採取)

上

下

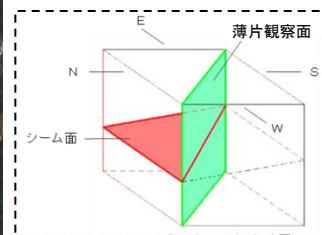


/: 試料採取した試掘坑壁

/: 薄片作成方向



試掘坑サンプル位置(平成15年撮影)



薄片観察概念図



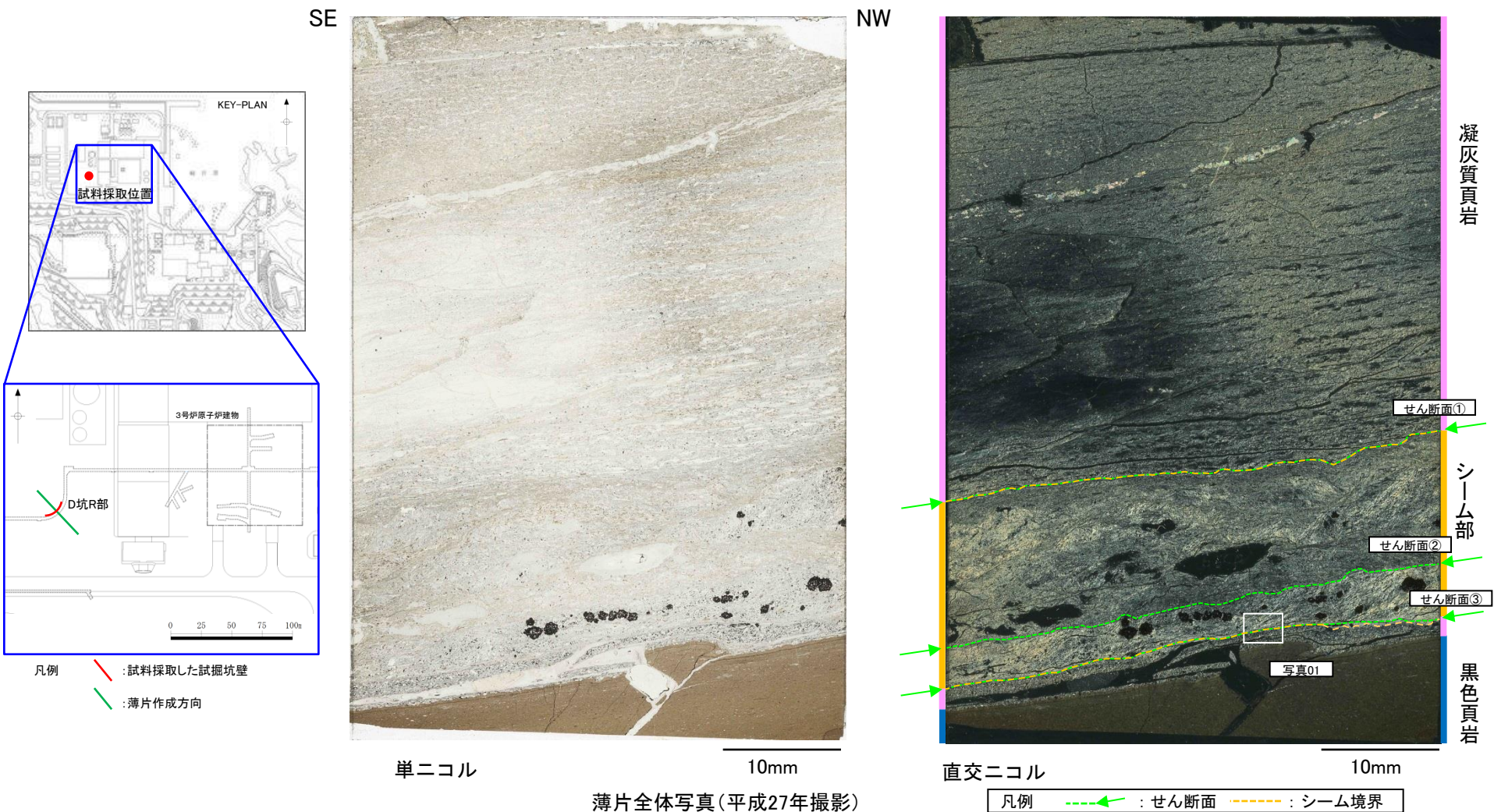
薄片写真(平成15年作製, 平成26年撮影)

上

下

薄片観察結果 B23-DR-NW-SE(せん断面の認定)

第223回審査会合
資料2-2 p.48 加筆・修正



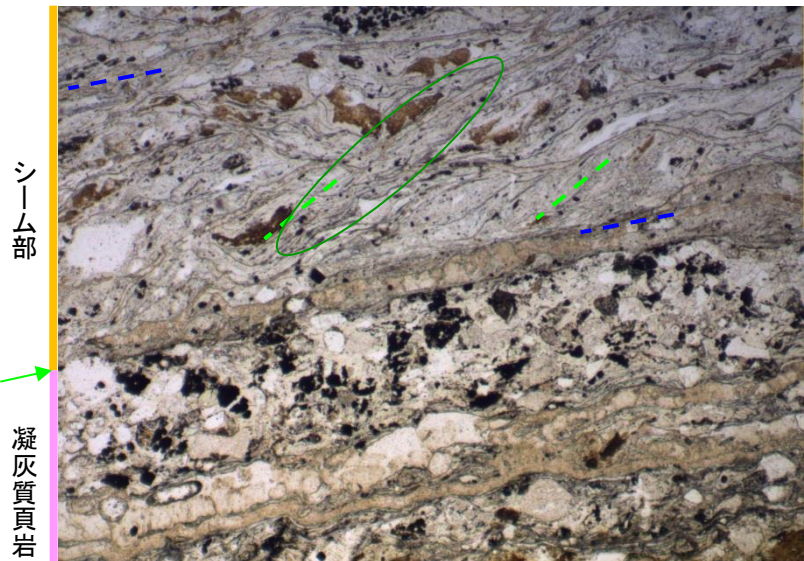
- ・ やや不明瞭ながらも部分的に複合面構造が認められる。
- ・ いずれのせん断面も連続性に乏しく、不明瞭である。

薄片観察結果 B23-DR-NW-SE(せん断面③)

第223回審査会合
資料2-2 p.53 加筆・修正

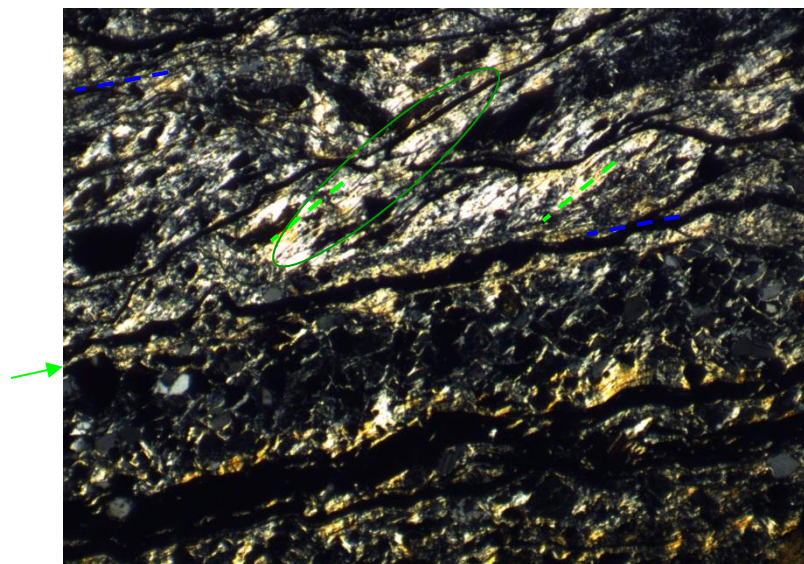
【写真01】

- ・せん断面近傍に自形鉱物が広く晶出している。
- ・単ニコルで無色、直交ニコルで高次の黄色であることから、X線回折分析結果を踏まえ、これらの鉱物は、イライト/スメクタイト混合層鉱物と**同定した**。
- ・複合面構造(P面、Y面)から、見かけ右横ずれであると**評価した**。



単ニコル

1mm



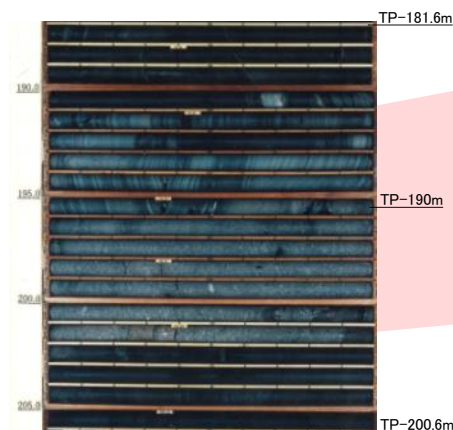
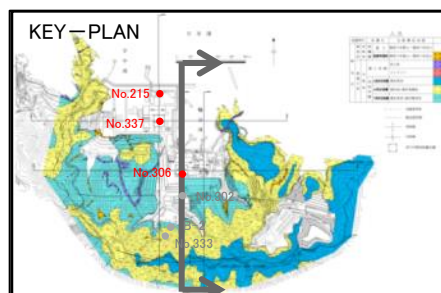
直交ニコル

1mm

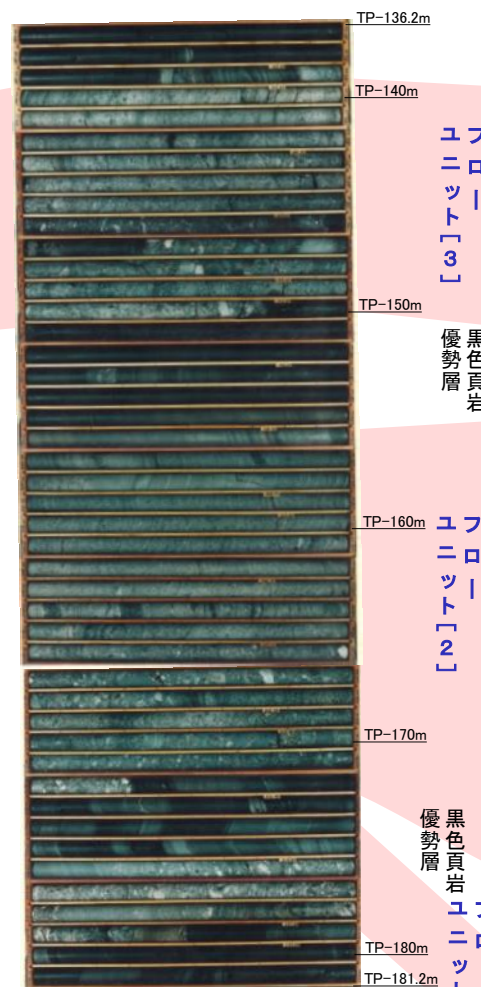
- 凡例
- ← : せん断面
 - - : P面
 - - : Y面
 - : イライト/スメクタイト混合層鉱物

(平成27年撮影)

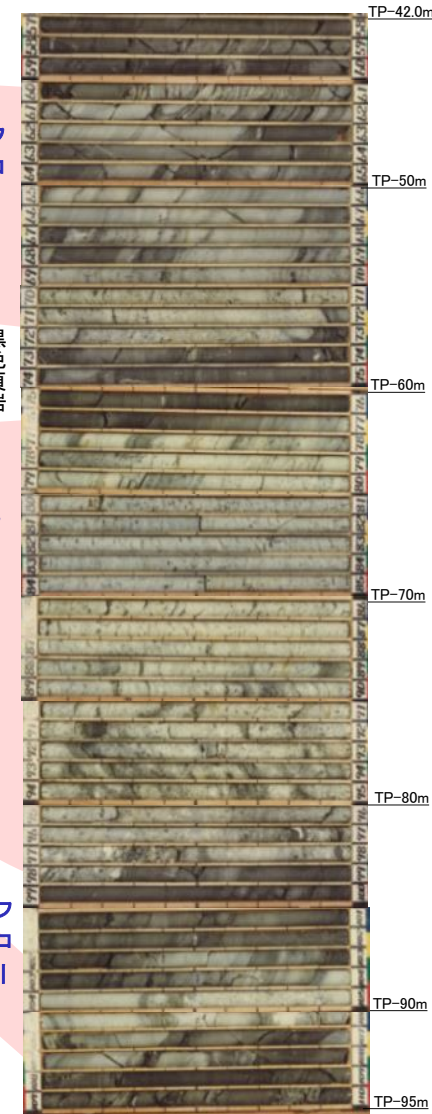
敷地に分布する鍵層①



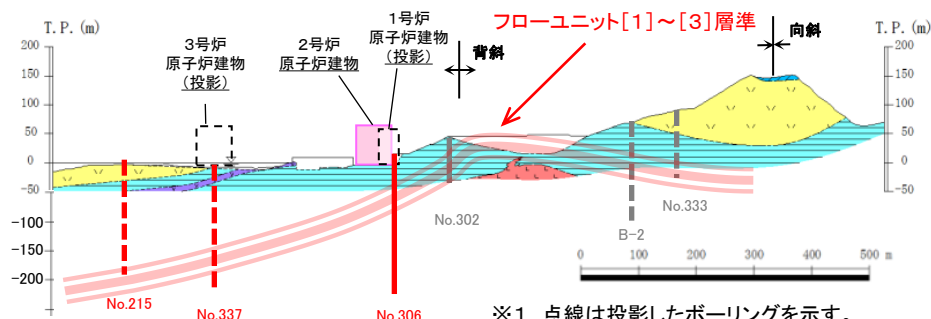
No.215コア写真



No.337コア写真



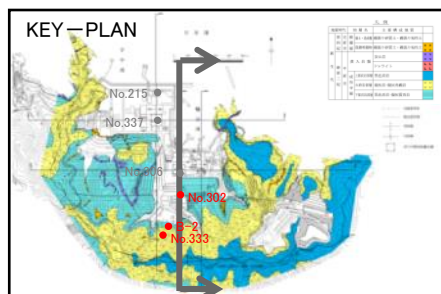
No.306コア写真



※1 点線は投影したボーリングを示す。
※2 フローユニット分布検討時の旧地形の平面図及び断面図を示す。

- ・2号及び3号炉原子炉建物設置位置付近におけるボーリング調査の結果、下部頁岩部層中において、連続性が高い堆積層が確認された。
- ・当該堆積層は、凝灰角礫岩主体で黒色頁岩優勢層を挟在し、級化層理を示す等の特徴を有することから、水中火砕流により堆積したものと考えており、フローユニットと呼称している。
- ・当該フローユニットは、地層の対比がし易いため、敷地の地質構造把握において鍵層となる。

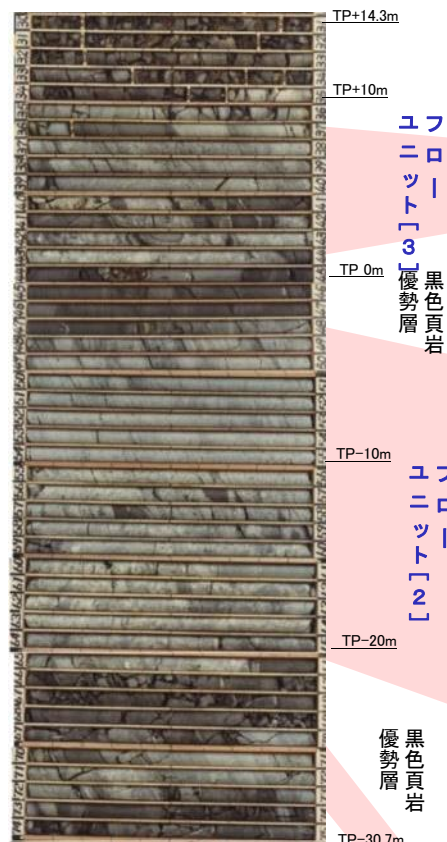
敷地に分布する鍵層②



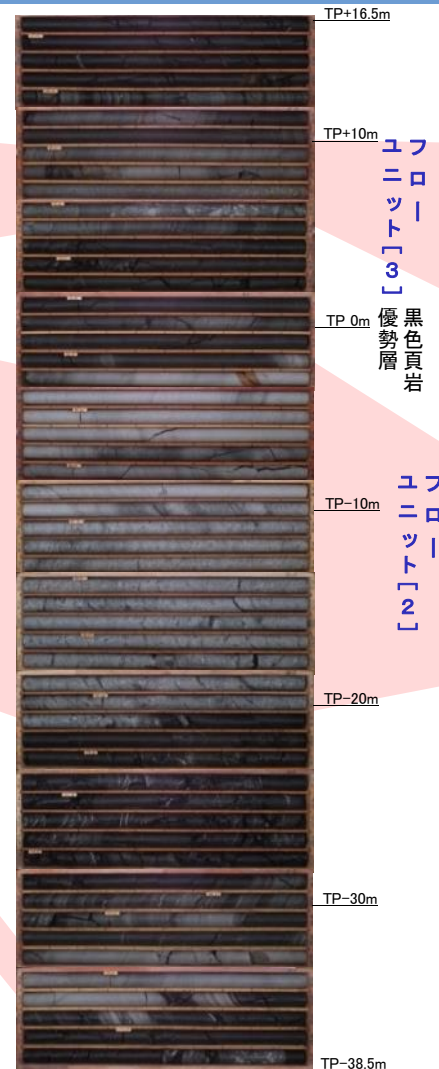
凡 例

地質時代		地層名	主要構成地質	
新 生 代	第四紀	表層	礫混り砂質土・礫混り粘性土	
		崖線堆積物	礫混り砂質土・礫混り粘性土	△△△
	新第三紀	中 新世	安山岩	▽▽▽
			ドレライト	▽▽▽
		成相寺層	上部頁岩部層	■ ■ ■
			火砕岩部層	▽▽▽
			下部頁岩部層	■ ■ ■

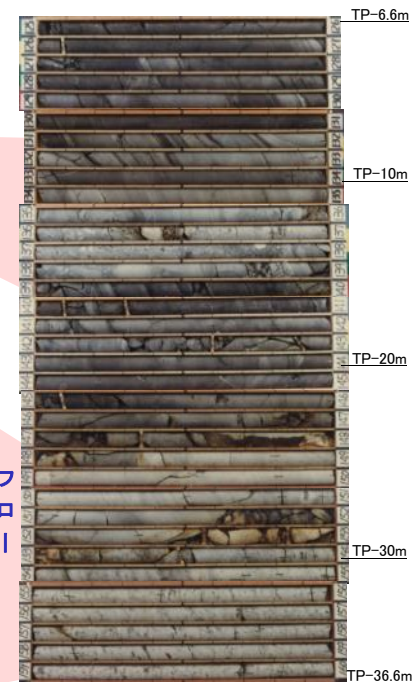
----- 地質境界線



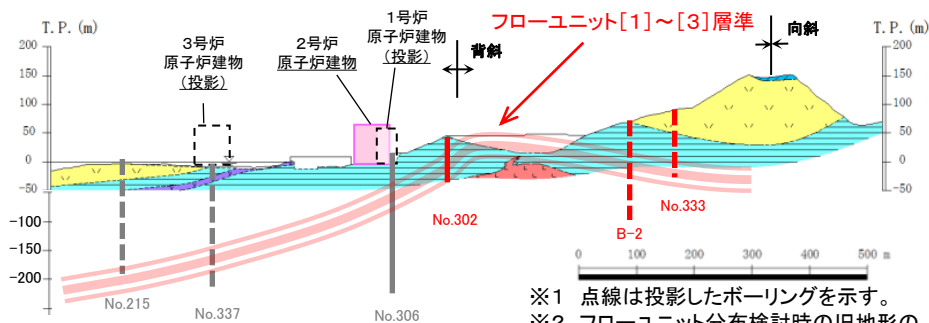
No.302コア写真



B-2コア写真

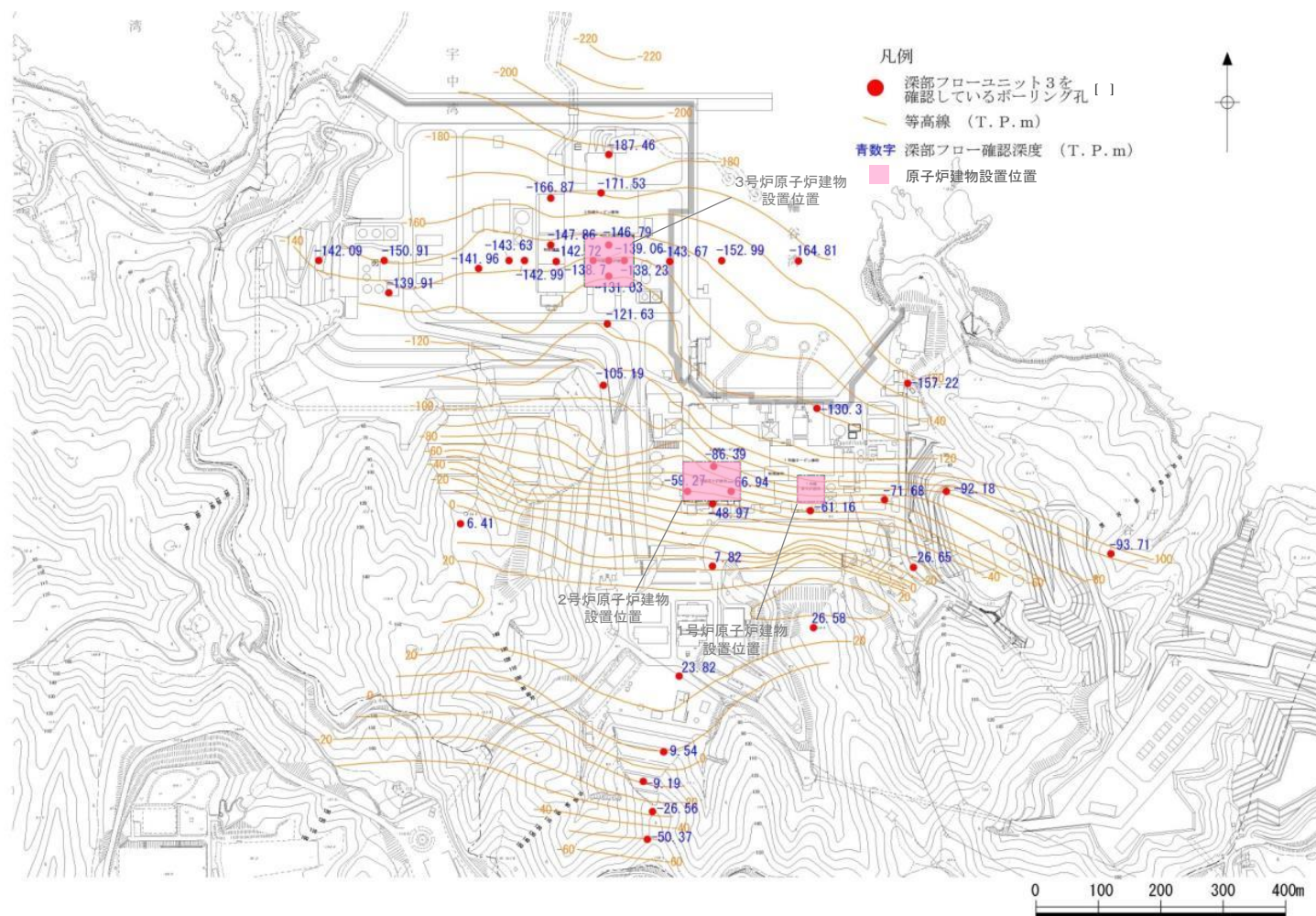


No.333コア写真



- ※1 点線は投影したボーリングを示す。
 ※2 フローユニット分布検討時の旧地形の平面図及び断面図を示す。

鍵層の連続性

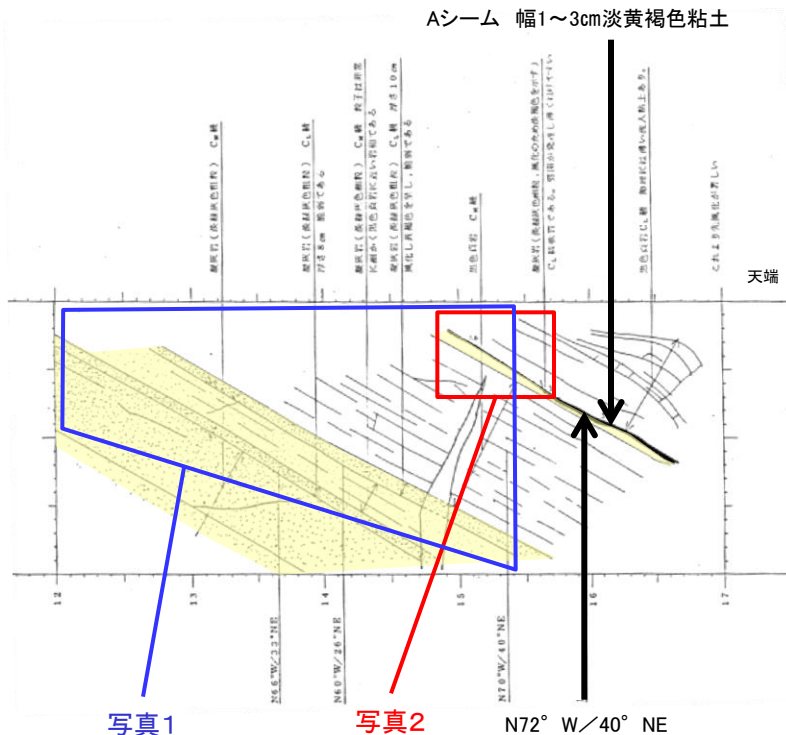


ボーリング調査によるフローユニット[3]上面の等高線図 ※フローユニット分布検討時の旧地形の平面図を示す。

- ・フローユニットの分布等に基づき敷地の地質構造を検討した結果、下部頁岩部層中の同一層準は、2号及び3号炉原子炉建物設置位置付近に連続的に分布すると評価する。
- ・上記の検討結果に基づき、2号及び3号炉原子炉建物設置位置付近のシームについて、分布及び性状の比較を行う。

余白

2号炉原子炉建物基礎底面に分布するシームの性状



Aシーム付近のスケッチ(試掘坑H坑西壁)

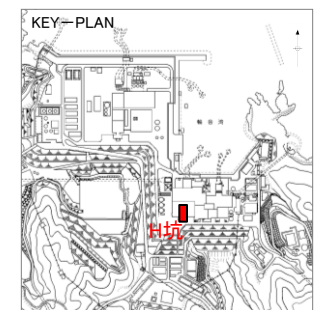


写真1 淡緑灰色粗粒凝灰岩



写真2 Aシーム

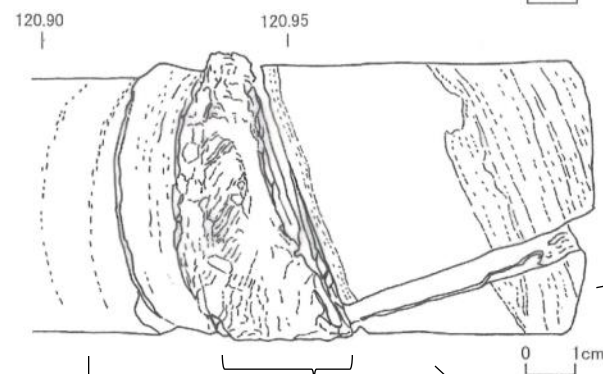
- ・2号炉原子炉建物基礎底面には、連続性を有するシーム(最大層厚約5cm程度)が分布しており、2号炉調査当時では「Aシーム」と呼称していた。
- ・Aシームは、淡緑灰色粗粒凝灰岩層の上位に分布する。



3号炉原子炉建物基礎地盤に分布するB8シームの性状



B8シーム近接写真



B8シームスケッチ

凝灰岩
葉理の明瞭な
細粒凝灰岩。

シーム

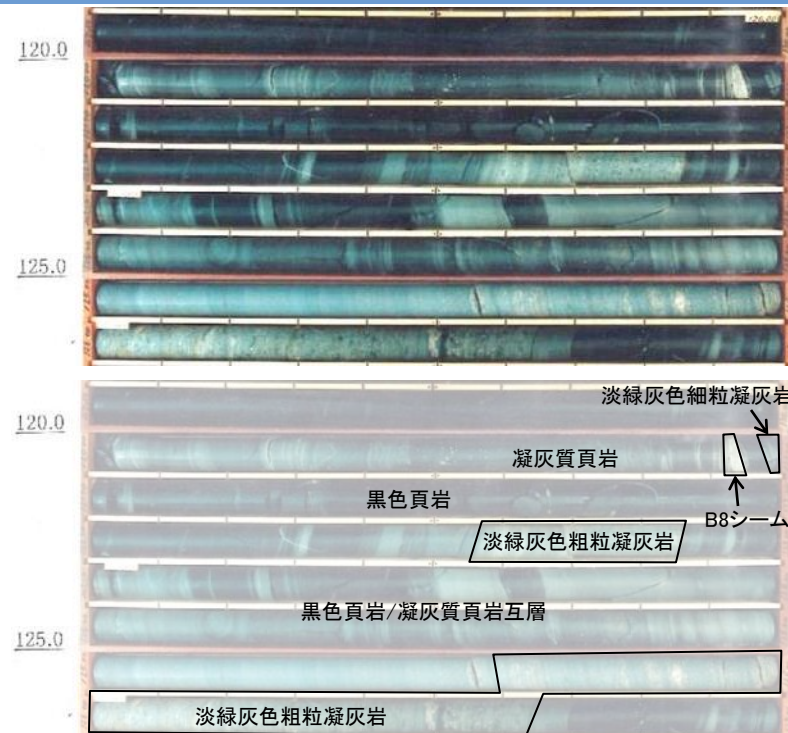
N79E 22N

(孔壁画像観察による)

黑色頁岩

高角の割れ目が見られる。
シームより上位の連続性は不明。

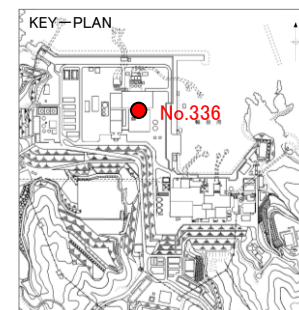
凝灰質頁岩
ほぼ水平な葉理を有し、
葉理に平行な割れ目が
発達する。



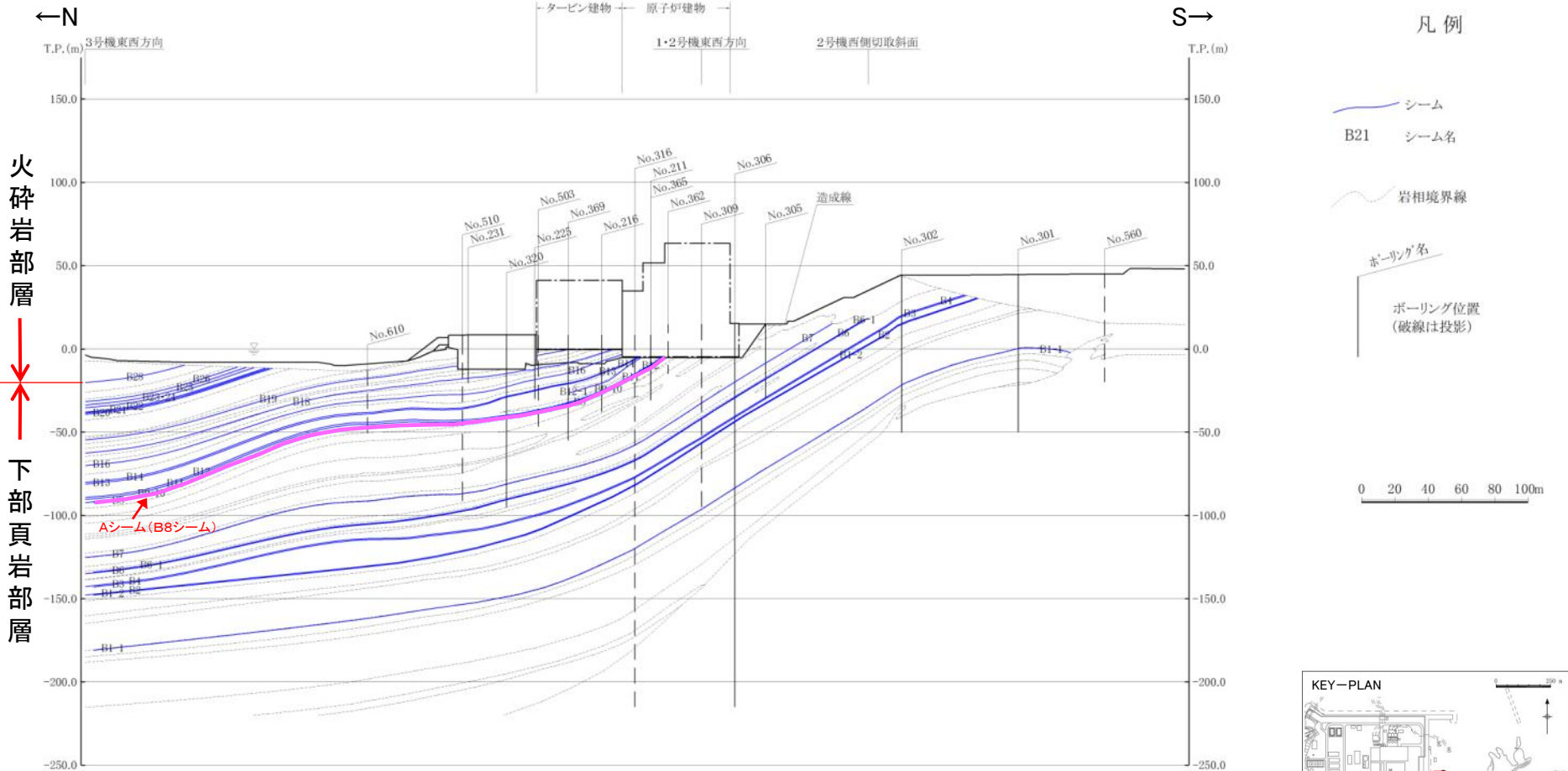
3号炉No.336コア写真

・3号炉原子炉建物基礎地盤において認められるB8シーム(最大層厚約6cm程度)は、淡緑灰色粗粒凝灰岩から成る火砕流堆積層の上位に位置すること等から、2号炉原子炉建物基礎底面で認められたAシームと同一のシームと**同定した**。

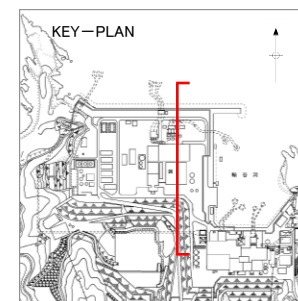
・2号及び3号炉原子炉建物設置位置付近において、下部頁岩部層の同一層準が連続すること、及びシームが地層を切ることなく層理と調和的に分布することから、シームの活動性評価に当たり、3号炉原子炉建物設置位置付近の地質データに基づく検討を行う。



シーム分布鉛直断面図(2号炉原子炉建物基礎地盤(南北))



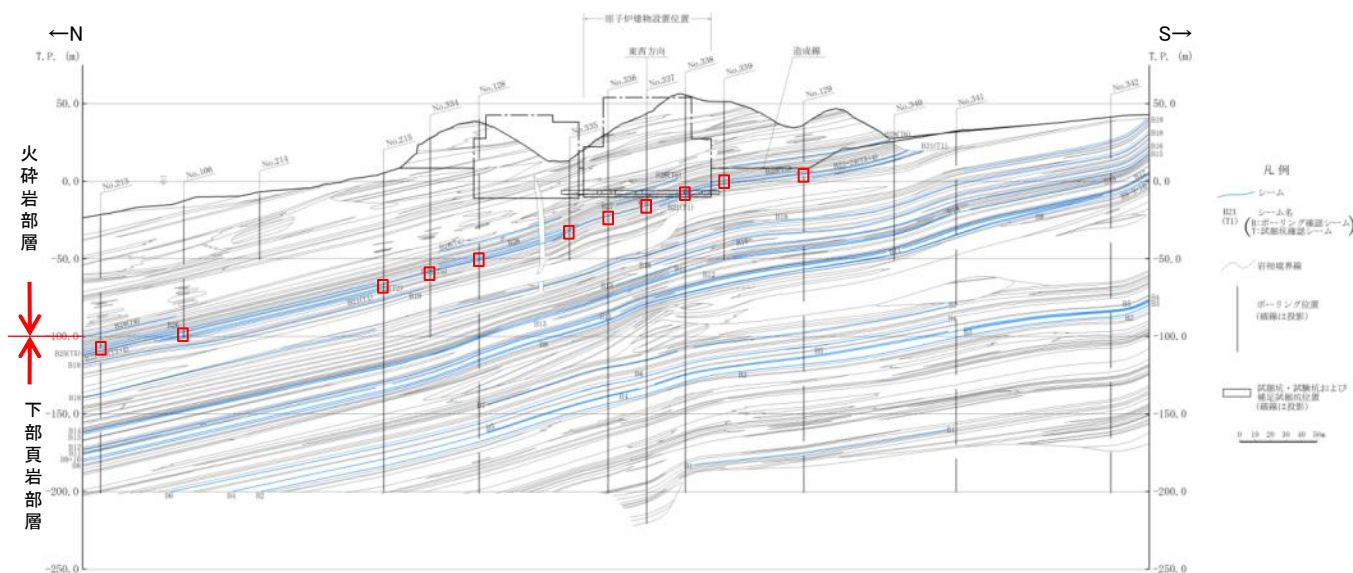
・シームは、地層の走向・傾斜と同一で、緩やかな北傾斜を示す。



3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性 B23シームの類似性(ボーリングコアの観察, 南北方向)

第223回審査会合
資料2-2 p.15 加筆・修正

127



北から順に→

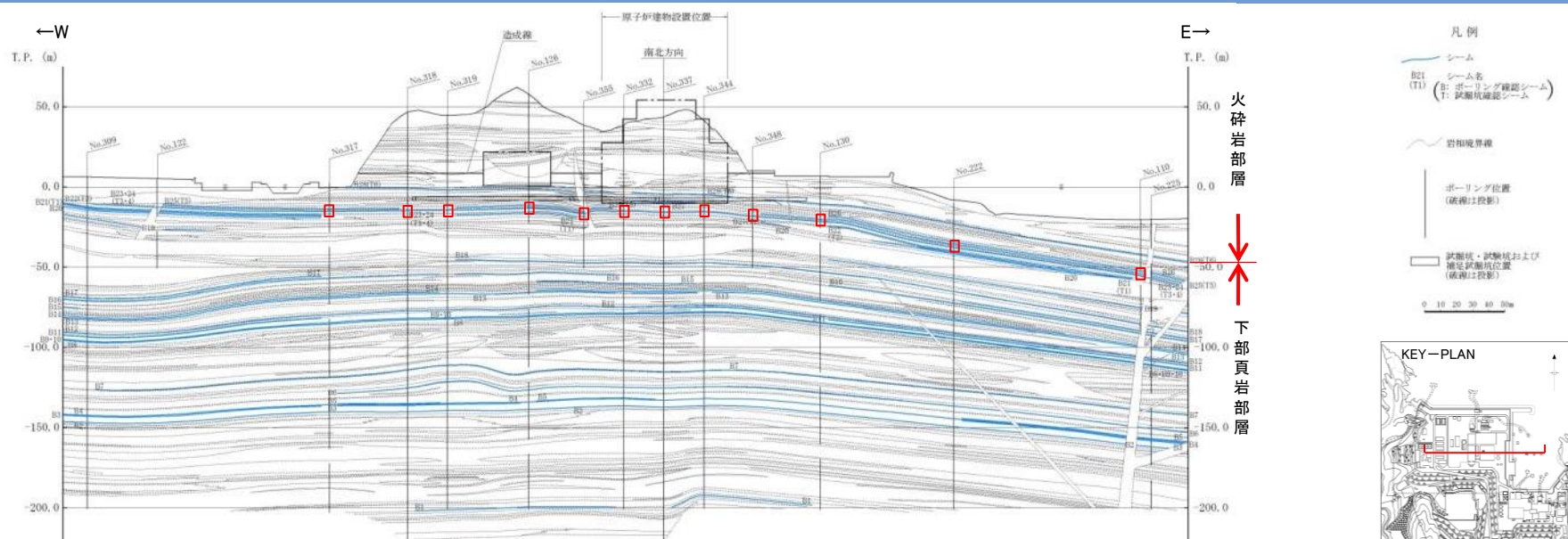
No. 213 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←1.0cm 凝灰質頁岩 N21° W55° E	No. 106 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←3.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N78° W14° N	No. 215 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←3.2cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N84° E16° N	No. 334 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←3.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N42° E16° NW	No. 128 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←2.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N86° E27° N	No. 335 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←2.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩
No. 336 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←1.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N80° W26° N	No. 337 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←3.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N84° W24° N	No. 338 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←0.1cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N67° W20° N	No. 339 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←2.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N49° W22° NE	No. 129 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 ←2.2cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N49° W9° NE	

※No.129の下位は割れ目を中心に風化の影響と思われる酸化汚染を受けている。

3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性 B23シームの類似性(ボーリングコアの観察, 東西方向)

第223回審査会合
資料2-2 p.16 加筆・修正

128



※走向傾斜はBTV解析による。

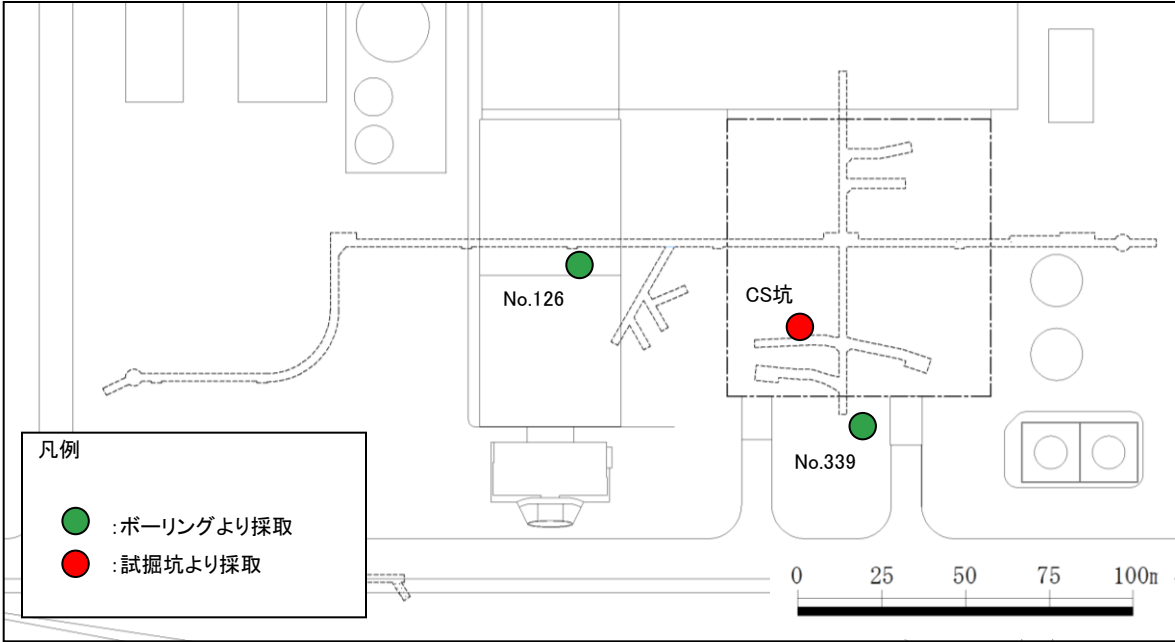
西から順に→

No. 317 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →0.9cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N79° W11° N	No. 318 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →5.6cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N86° E19° N	No. 319 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →1.5cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N79° E29° N	No. 126 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →3.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 EW23° N	No. 355 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →3.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N74° E22° N	No. 332 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →1.6cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N74° W17° N	No. 337 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →3.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N84° W24° N
No. 344 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →2.5cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N78° W20° N	No. 348 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →3.8cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 EW14° N	No. 130 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →1.0cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N64° W22° N	No. 222 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →4.4cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩 N30° W13° NE	No. 110 代表写真 模式図 凝灰質頁岩 層厚 →0.1cm 凝灰質頁岩 黒色頁岩		

※No.222の下位は割れ目を中心に風化の影響と思われる酸化汚染を受けている。

- ・最も連続性が高いB23シームは、主に凝灰岩もしくは凝灰質頁岩を上盤とし、黒色頁岩を下盤とするシームである。
- ・褶曲軸からの距離とシーム厚さの間に連関性は見られない。

B23シームのX線回折分析のチャート(実績総括表)



B23シーム及び周辺母岩のX線回折分析の試料採取位置図

X線回折分析 実績総括表

試料番号	試料採取位置	分析対象	X線回折分析 分析方法
CS14-X	CS坑(試掘坑)	B23シーム	- 不定方位 - 定方位(無処理) - 定方位(塩酸処理) - 定方位(エチレンジアミン処理)
No.126-B23-u	ボーリングコアNo.126	B23シーム上盤母岩	
No.126-B23-s		B23シーム	
No.126-B23-l		B23シーム下盤母岩	
No.339-B23-u	ボーリングコアNo.339	B23シーム上盤母岩	
No.339-B23-s		B23シーム	
No.339-B23-l		B23シーム下盤母岩	

3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性 X線回折分析のチャート(B23シーム, 不定方位)

第223回審査会合
資料2-2 p.20 再掲

130

凡例

[主要造岩鉱物類]

Qz : 石英

[沸石類]

Lmt : ローモンタイト

[粘土鉱物]

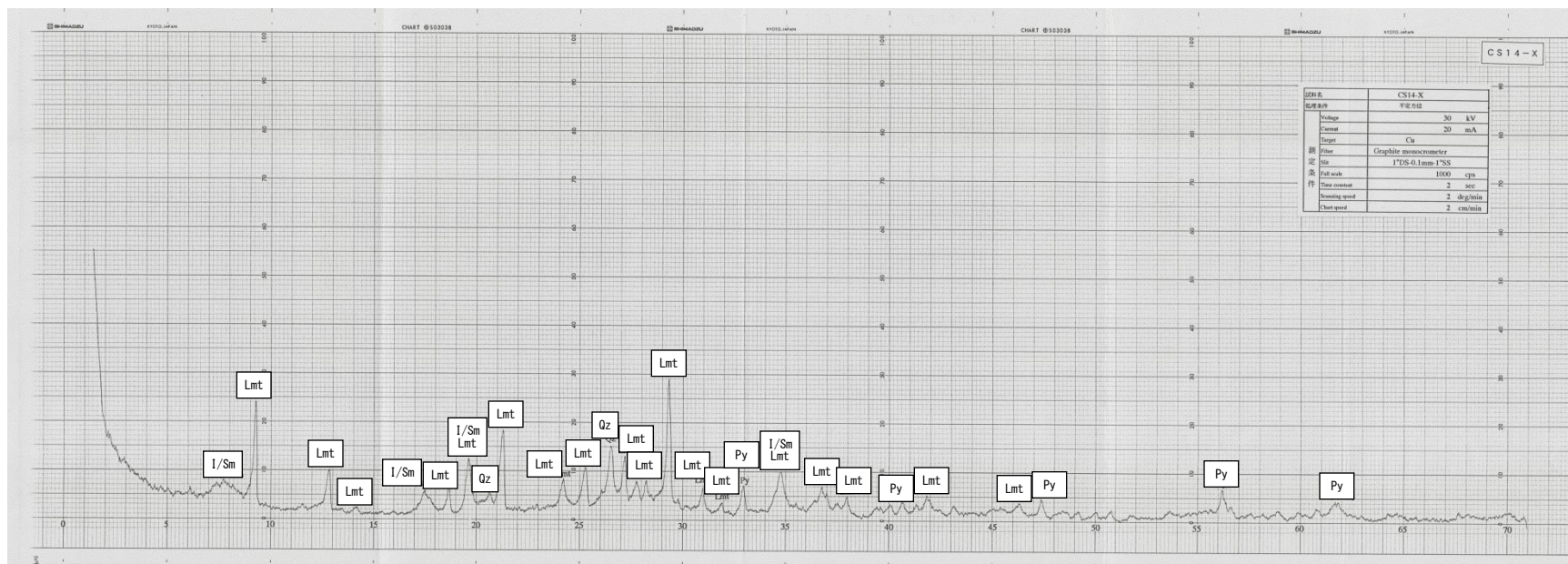
I/Sm : イライト/スメクタイト混合層鉱物

[硫化鉱物]

Py : 黄鉄鉱

試料名: CS14-X

Intensity (cps)



20/0 (°)

X線回折分析のチャート(B23シーム, 定方位)

凡例

[粘土鉱物]

I/Sm : イライト/スメクタイト混合層鉱物

試料名: CS14-X

Intensity (cps)



2θ/ (°)

X線回折分析のチャート(B23シーム, 定方位)

凡例

[粘土鉱物]

Sm : スメクタイト

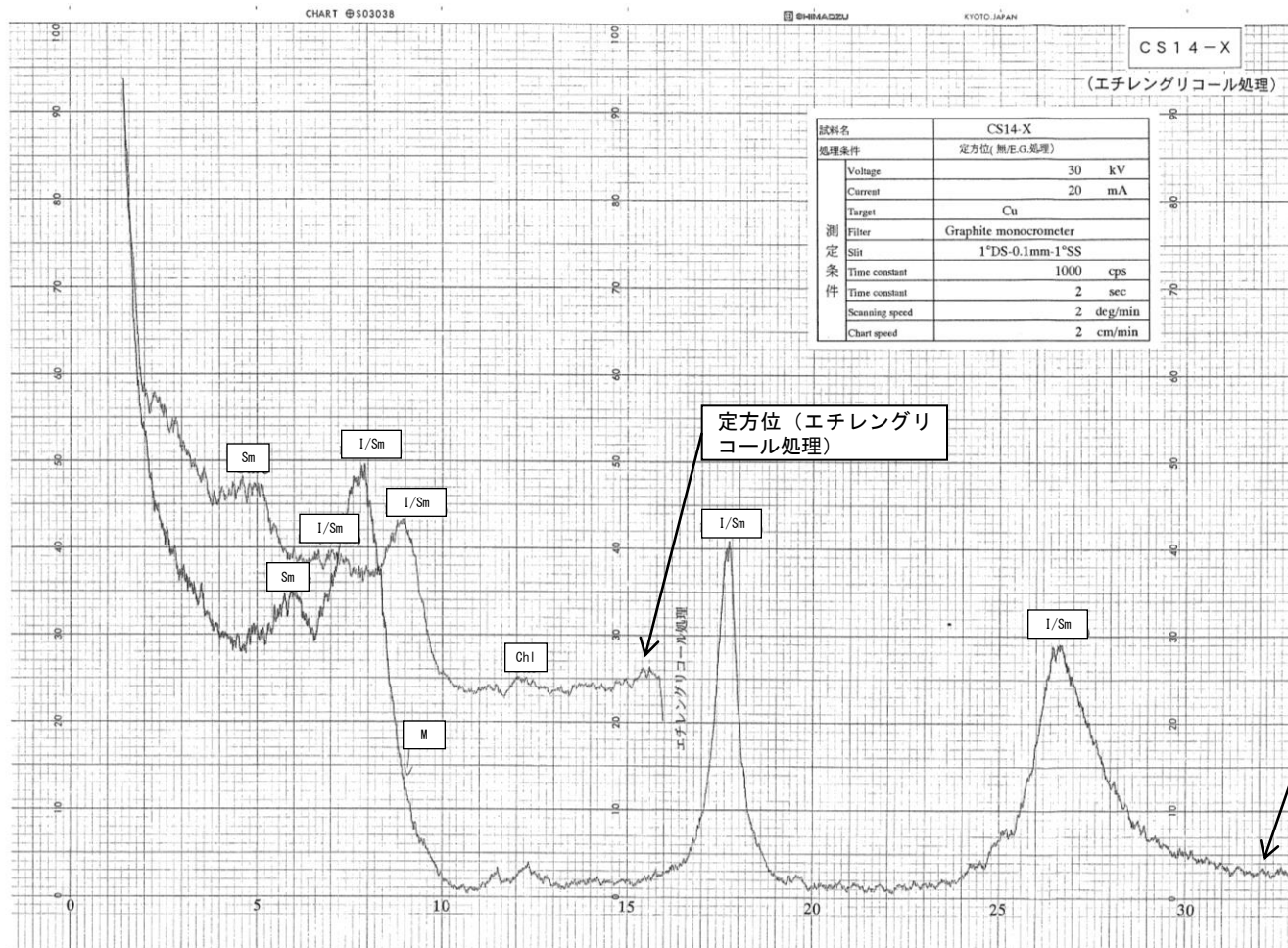
I/Sm : イライト/スメクタイト混合層鉱物

M : 雲母類

Chl : 緑泥石

試料名: CS14-X

Intensity (cps)

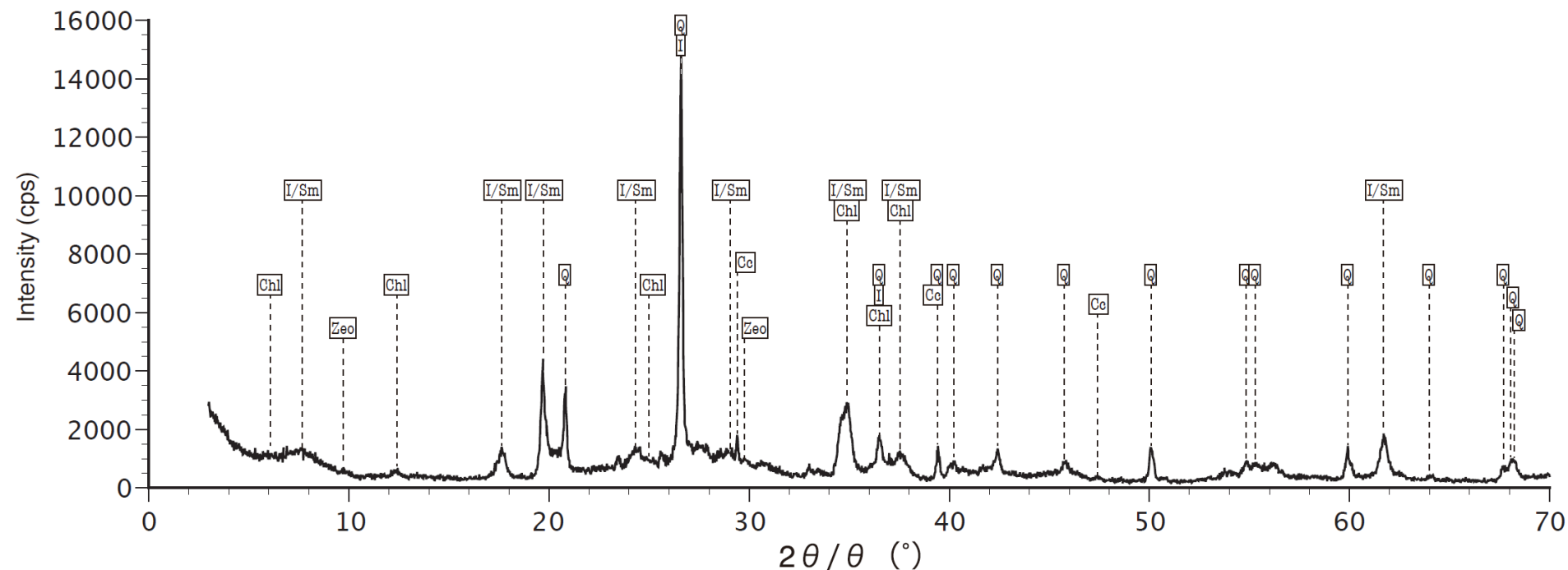


3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性
X線回折分析のチャート(B23シーム上盤母岩, 不定方位)

第223回審査会合
資料2-2 p.23 再掲

133

試料名: No.126-B23-u



凡例

— : 不定方位 (無処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

[粘土鉱物]

I : イライト

I/Sm : イライト/スメクタイト混合層鉱物

Chl : 緑泥石

[炭酸塩鉱物]

Cc : 方解石

[沸石類]

Zeo : 沸石

3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性
X線回折分析のチャート(B23シーム上盤母岩, 定方位)

第223回審査会合
資料2-2 p.24 再掲

134

試料名: No.126-B23-u

凡例

- : 定方位 (無処理)
- : 定方位 (エチレン glycol 処理)
- : 定方位 (塩酸処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

[粘土鉱物]

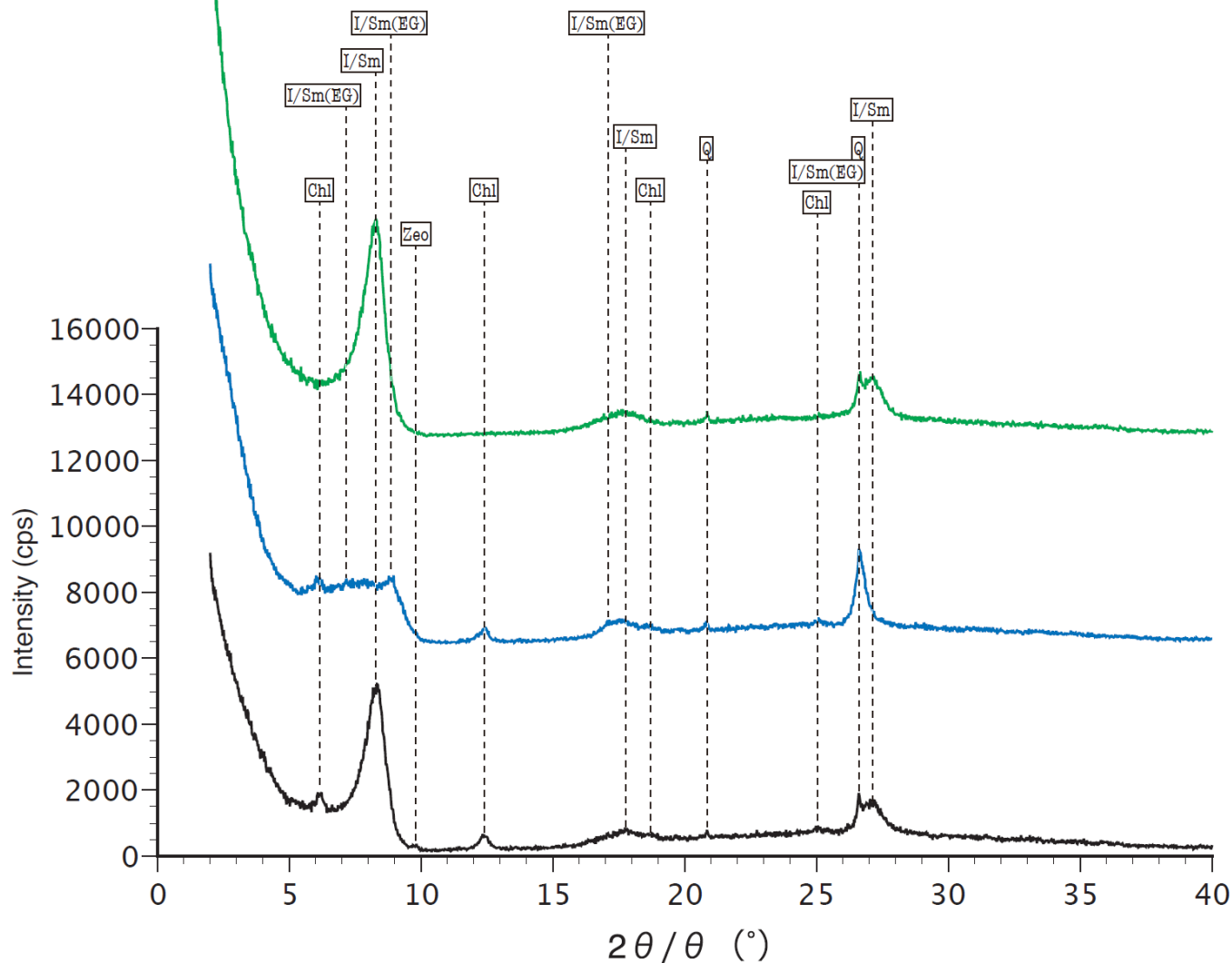
I/Sm : イライト/スメクタイト混合
層鉱物

I/Sm(EG) : イライト/スメクタイト混合
層鉱物 (エチレン glycol 処理後)

Chl : 緑泥石

[沸石類]

Zeo : 沸石

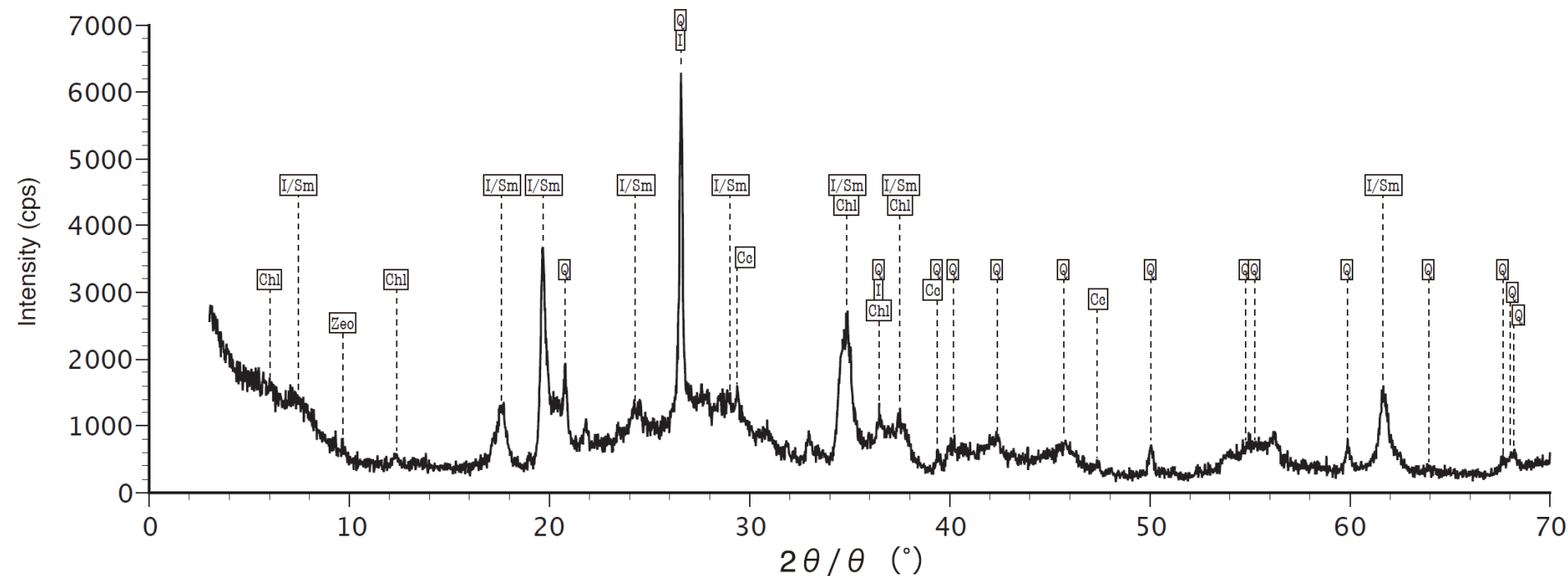


3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性
X線回折分析のチャート(B23シーム, 不定方位)

第223回審査会合
資料2-2 p.25 再掲

135

試料名: No.126-B23-s



凡例

— : 不定方位 (無処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

[粘土鉱物]

I : イライト

I/Sm : イライト/スメクタイト混合層鉱物

Chl : 緑泥石

[炭酸塩鉱物]

Cc : 方解石

[沸石類]

Zeo : 沸石

X線回折分析のチャート(B23シーム, 定方位)

試料名: No.126-B23-s

凡例

- : 定方位 (無処理)
- : 定方位 (エチレン glycol 処理)
- : 定方位 (塩酸処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

[粘土鉱物]

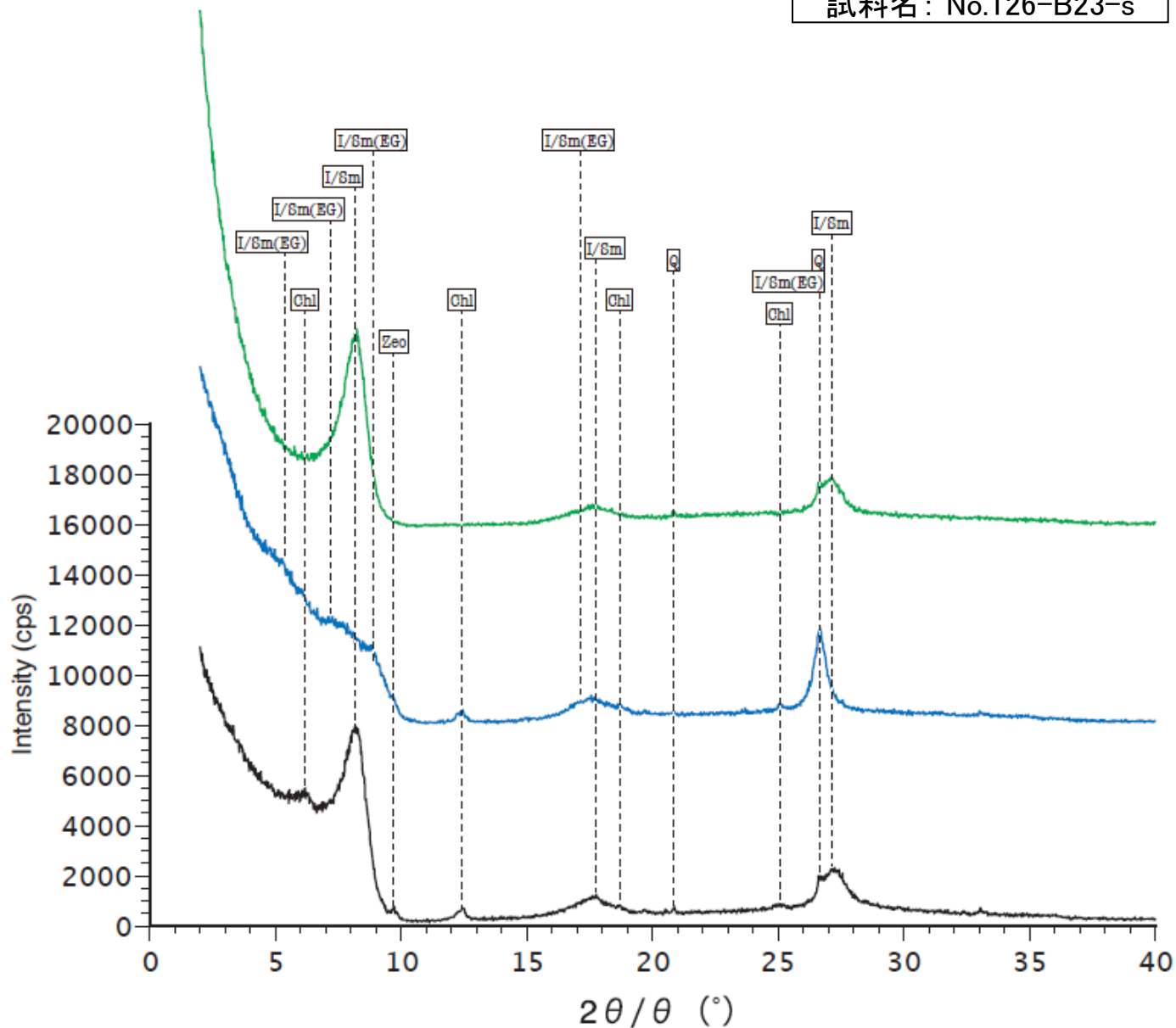
I/Sm : イライト/スメクタイト混合
層鉱物

I/Sm(EG) : イライト/スメクタイト混合
層鉱物 (エチレン glycol 処理後)

Chl : 緑泥石

[沸石類]

Zeo : 沸石

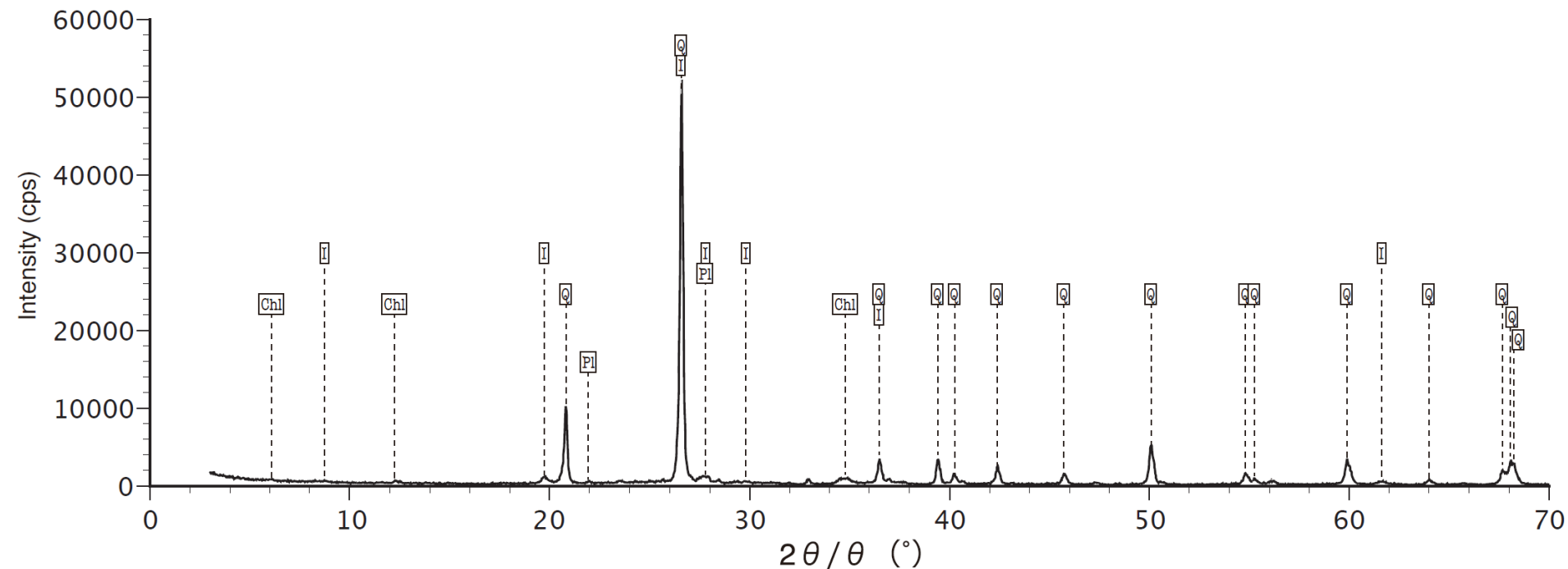


3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性
X線回折分析のチャート(B23シーム下盤母岩, 不定方位)

第223回審査会合
資料2-2 p.27 再掲

137

試料名: No.126-B23-I



凡例

— : 不定方位 (無処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

Pl : 斜長石

[粘土鉱物]

I : イライト

Chl : 緑泥石

X線回折分析のチャート(B23シーム下盤母岩, 定方位)

試料名: No.126-B23-I

凡例

- : 定方位 (無処理)
- : 定方位 (エチレン glycol 処理)
- : 定方位 (塩酸処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

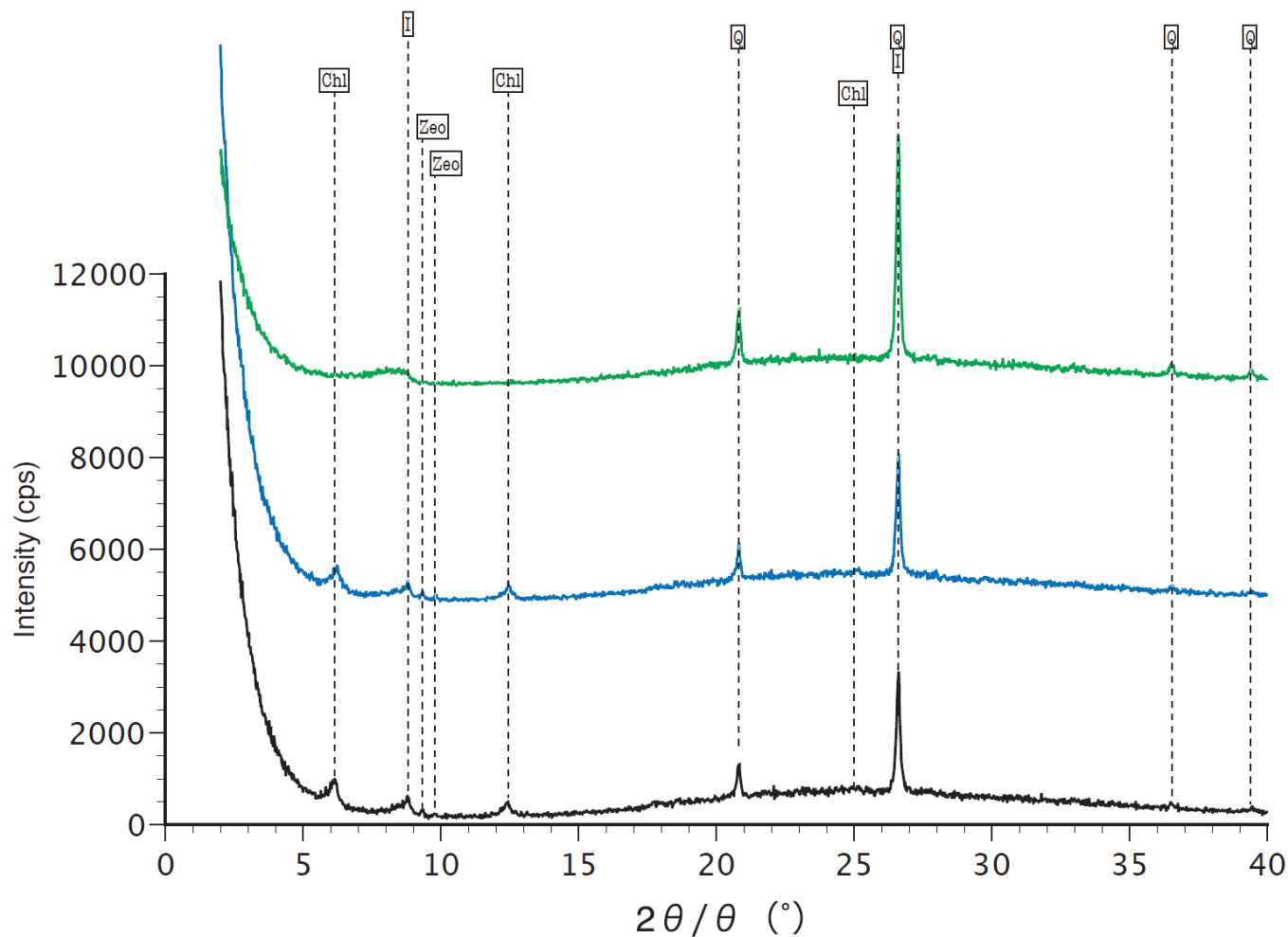
[粘土鉱物]

I : イライト

Chl : 緑泥石

[沸石類]

Zeo : 沸石

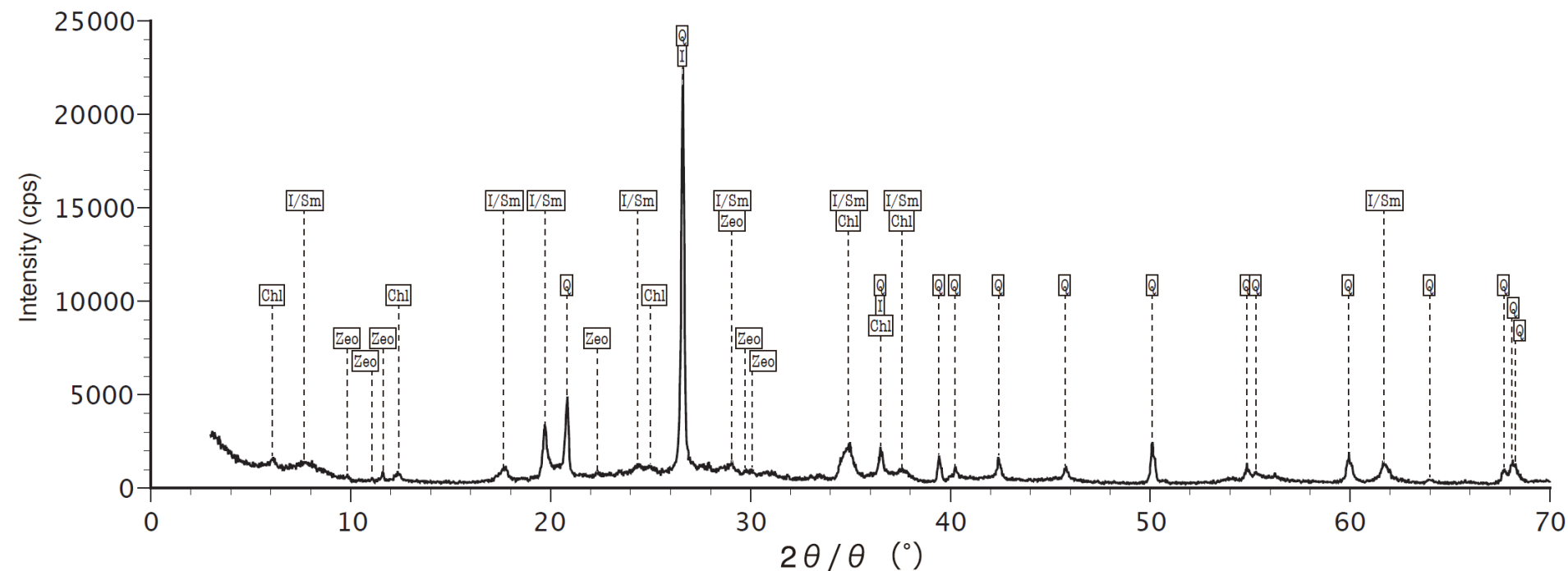


3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性
X線回折分析のチャート(B23シーム上盤母岩, 不定方位)

第223回審査会合
資料2-2 p.29 再掲

139

試料名: No.339-B23-u



凡例	[主要造岩鉱物類]	[粘土鉱物]	[沸石類]
— : 不定方位 (無処理)	Q : 石英	I : イライト	Zeo : 沸石
		I/Sm : イライト/スメクタイト混合層鉱物	
		Chl : 緑泥石	

X線回折分析のチャート(B23シーム上盤母岩, 定方位)

試料名: No.339-B23-u

凡例

- : 定方位 (無処理)
- : 定方位 (エチレン glycol 処理)
- : 定方位 (塩酸処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

[粘土鉱物]

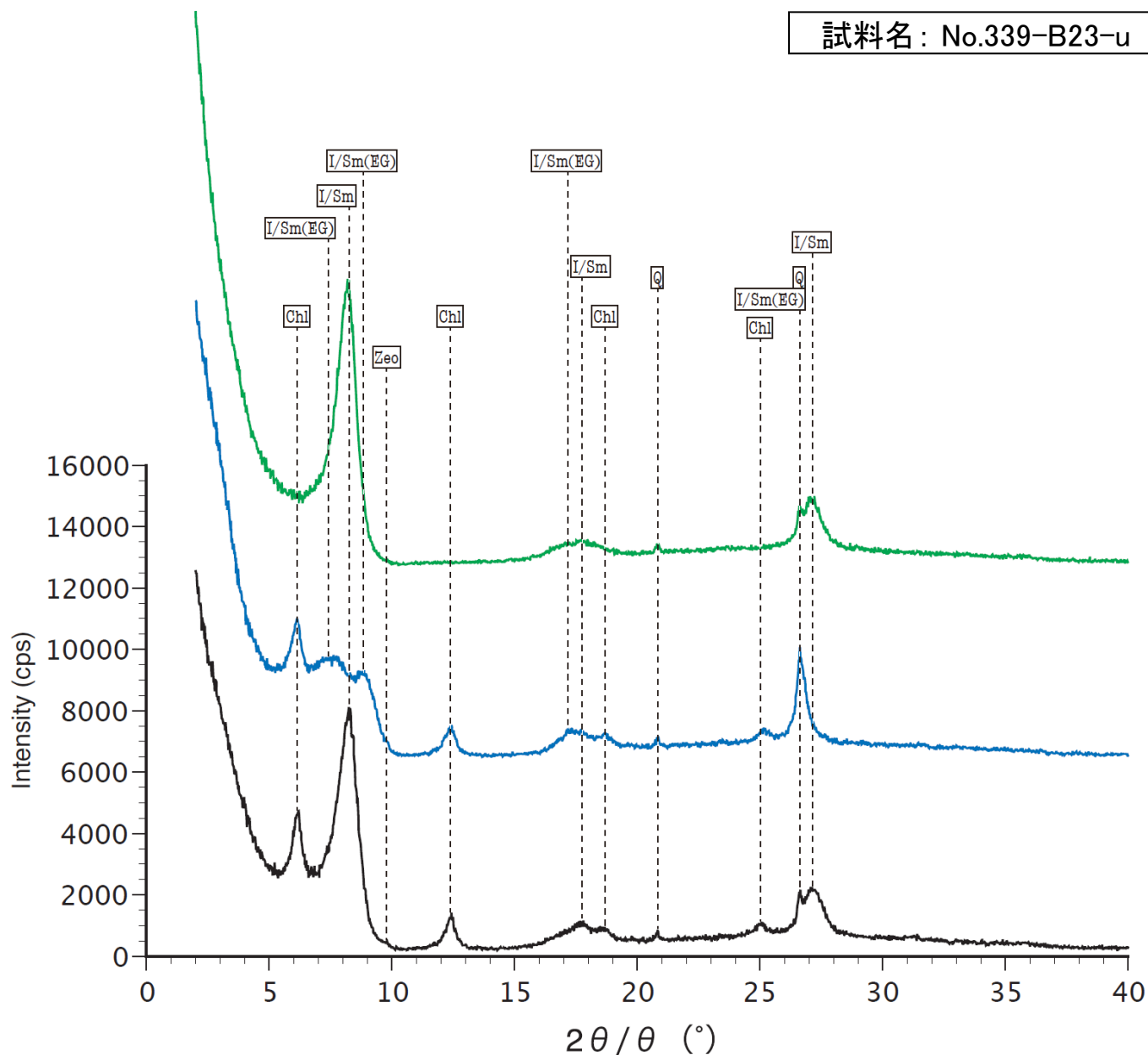
I/Sm : イライト/スメクタイト混合
層鉱物

I/Sm(EG) : イライト/スメクタイト混合
層鉱物 (エチレン glycol 処理後)

Chl : 緑泥石

[沸石類]

Zeo : 沸石

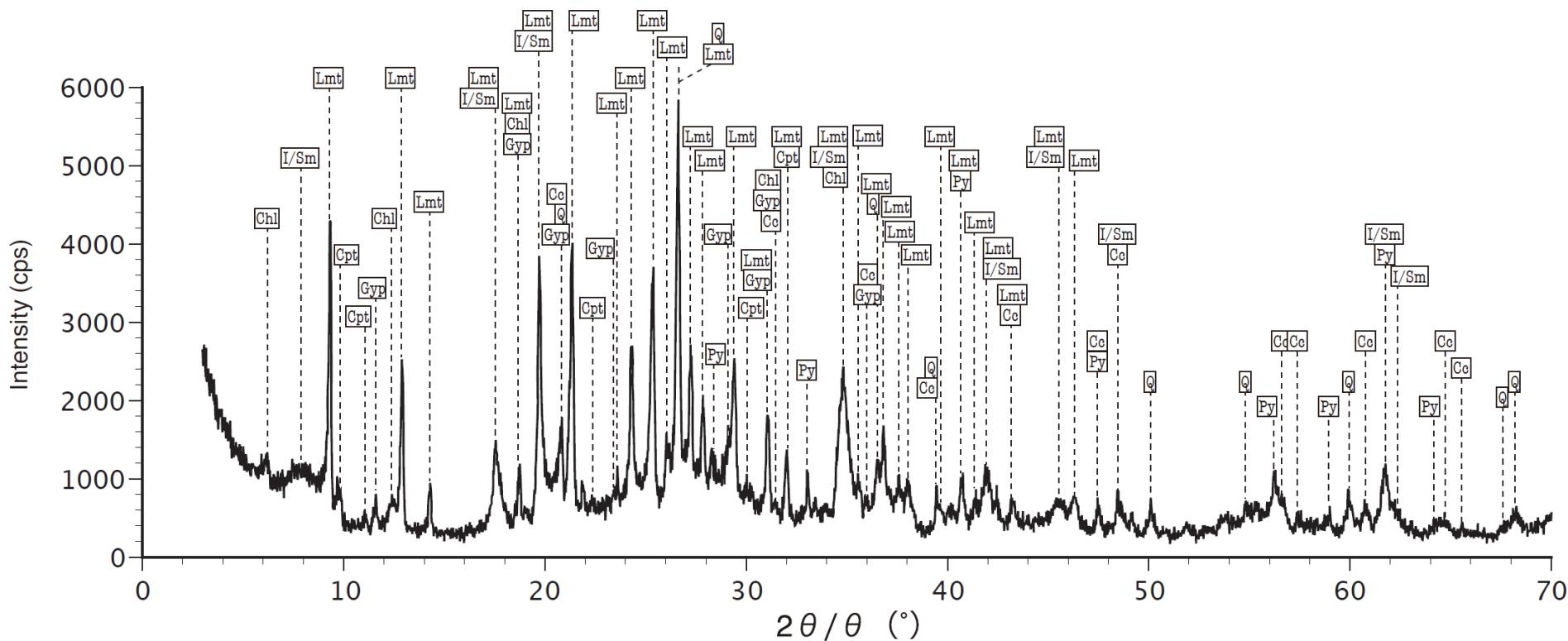


3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性
X線回折分析のチャート(B23シーム, 不定方位)

第223回審査会合
資料2-2 p.31 再掲

141

試料名: No.339-B23-s



凡例

—— : 不定方位 (無処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

[沸石類]

Cpt : 斜プロチロル沸石

Lmt : ローモンタイト

[粘土鉱物]

I/Sm : イライト/スメクタイト混合層鉱物

Chl : 緑泥石

[炭酸塩鉱物]

Cc : 方解石

[硫化鉱物]

Gyp : 石膏

Py : 黄鉄鉱

X線回折分析のチャート(B23シーム, 定方位)

試料名: No.339-B23-s

凡例

- : 定方位 (無処理)
- : 定方位 (エチレン glycol 処理)
- : 定方位 (塩酸処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

[粘土鉱物]

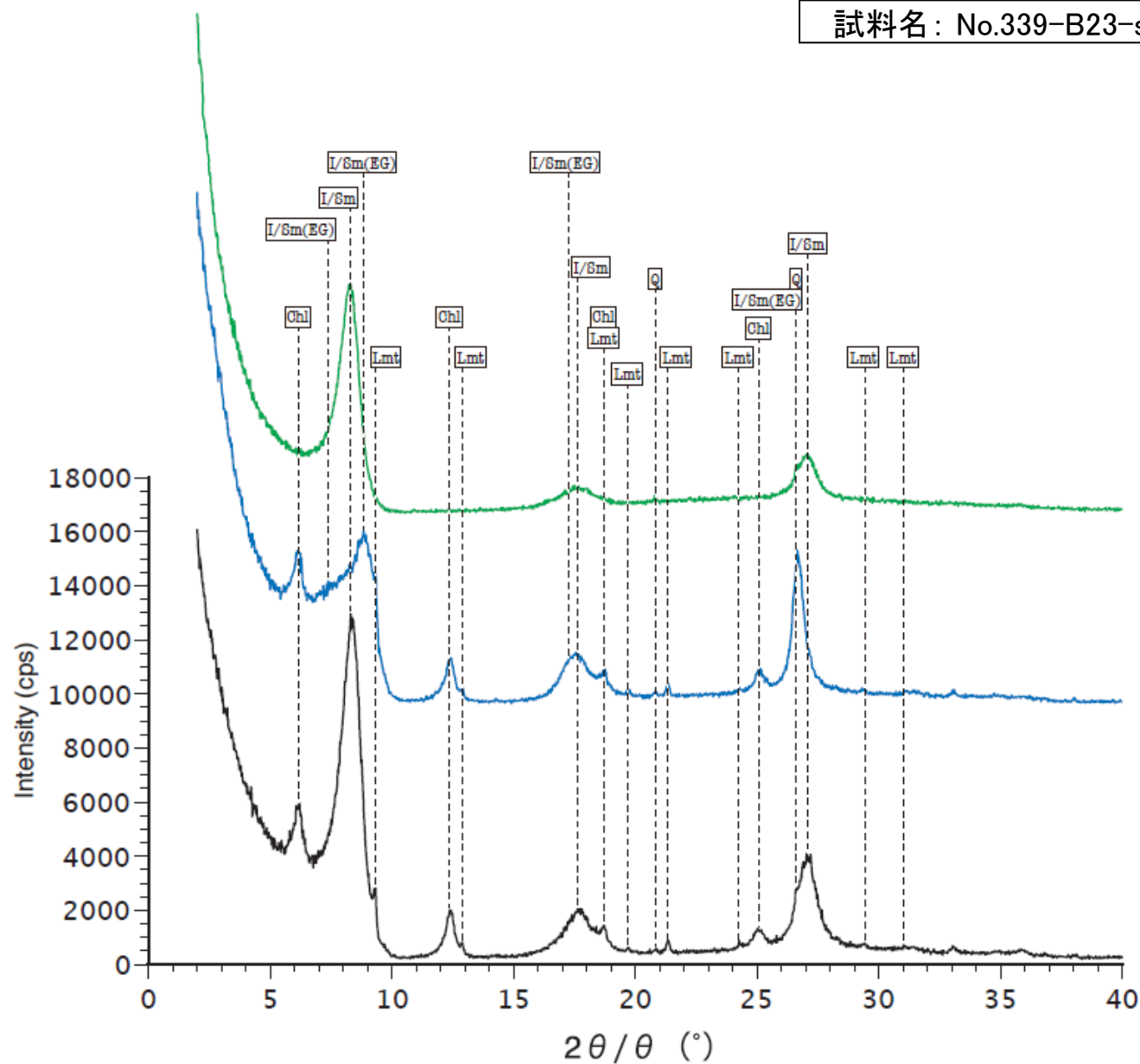
I/Sm : イライト/スメクタイト混合
層鉱物

I/Sm(EG) : イライト/スメクタイト混合
層鉱物 (エチレン glycol 処理後)

Chl : 緑泥石

[沸石類]

Lmt : ローモンタイト

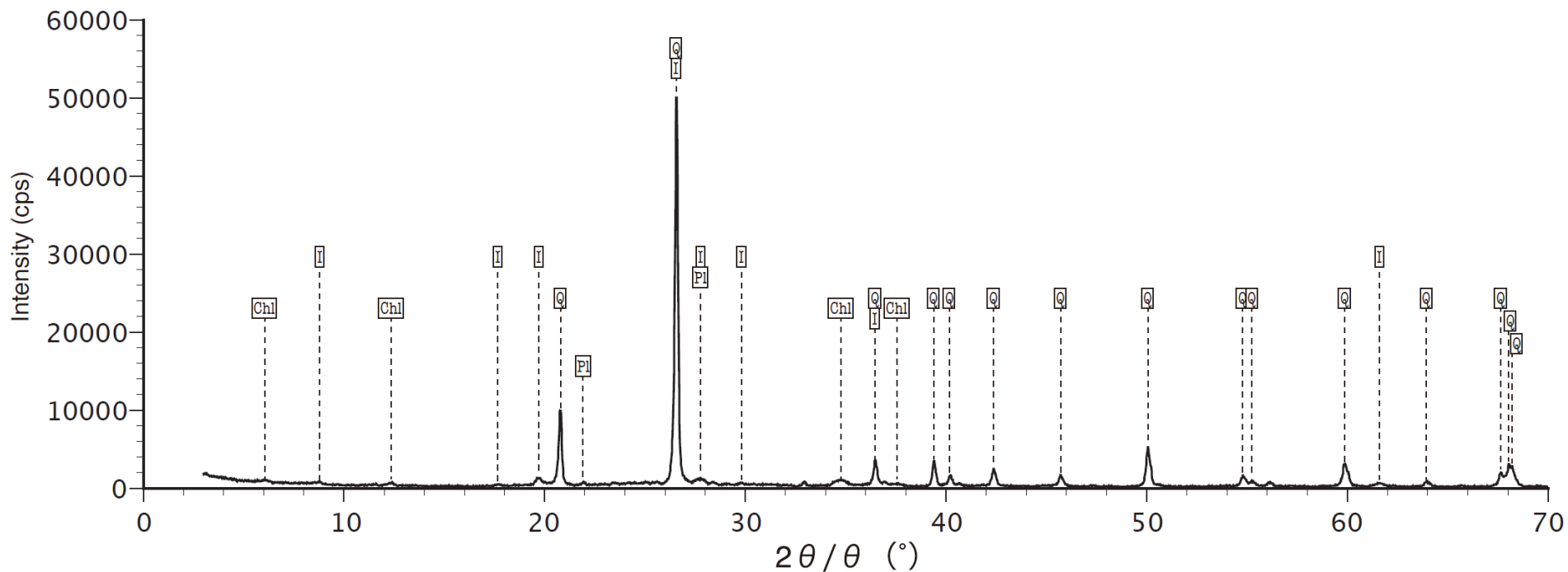


3. シームの活動性 (2)せん断面と鉱物脈との接触関係に着目した活動性評価 ②B23シームの類似性
X線回折分析のチャート(B23シーム下盤母岩, 不定方位)

第223回審査会合
資料2-2 p.33 再掲

143

試料名: No.339-B23-I



凡例

— : 不定方位 (無処理)

[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

Pl : 斜長石

[粘土鉱物]

I : イライト

Chl : 緑泥石

X線回折分析のチャート(B23シーム下盤母岩, 定方位)

試料名: No.339-B23-I

凡例

- : 定方位 (無処理)
- : 定方位 (エチレン glycol 処理)
- : 定方位 (塩酸処理)

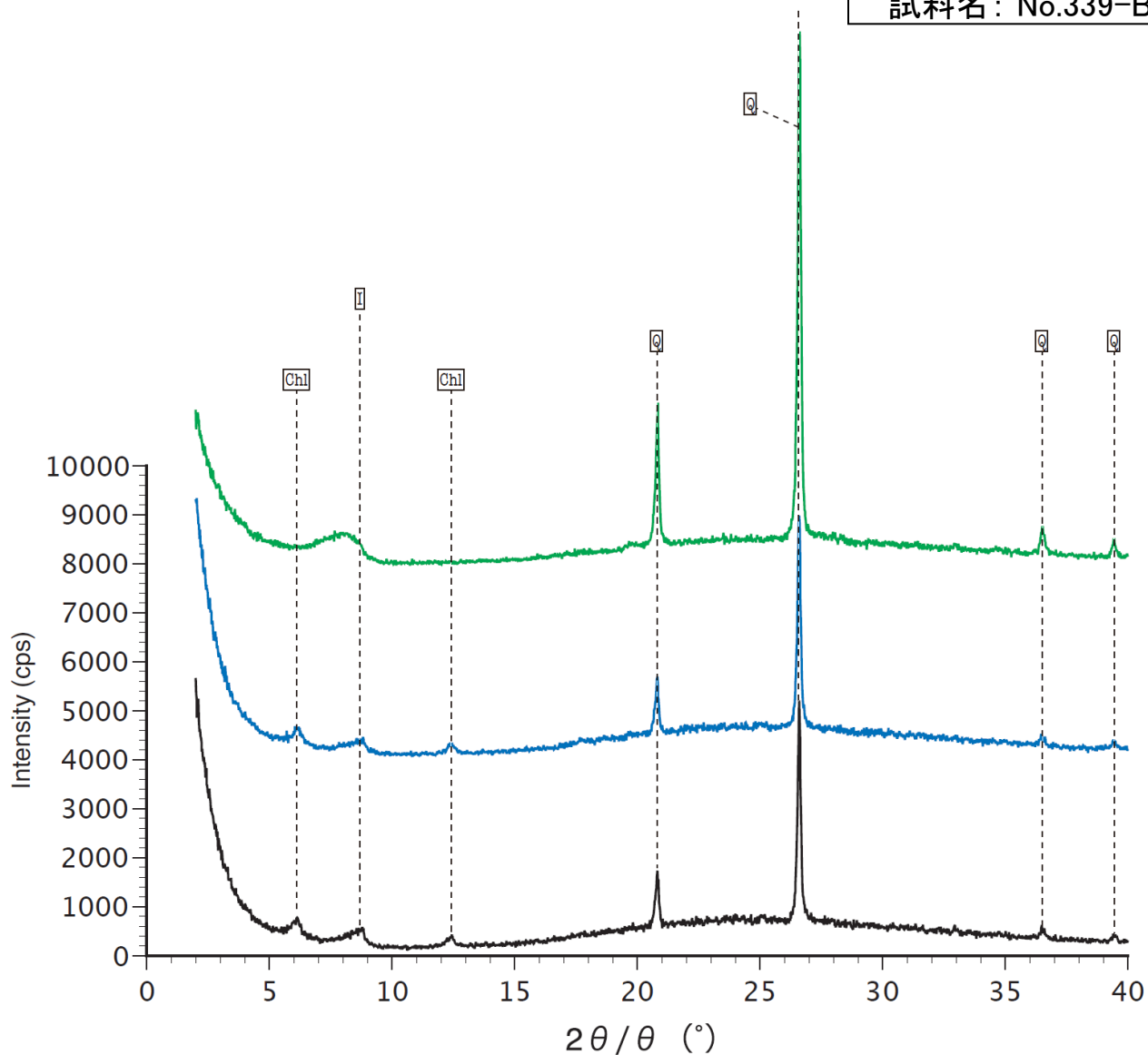
[主要造岩鉱物類]

Q : 石英

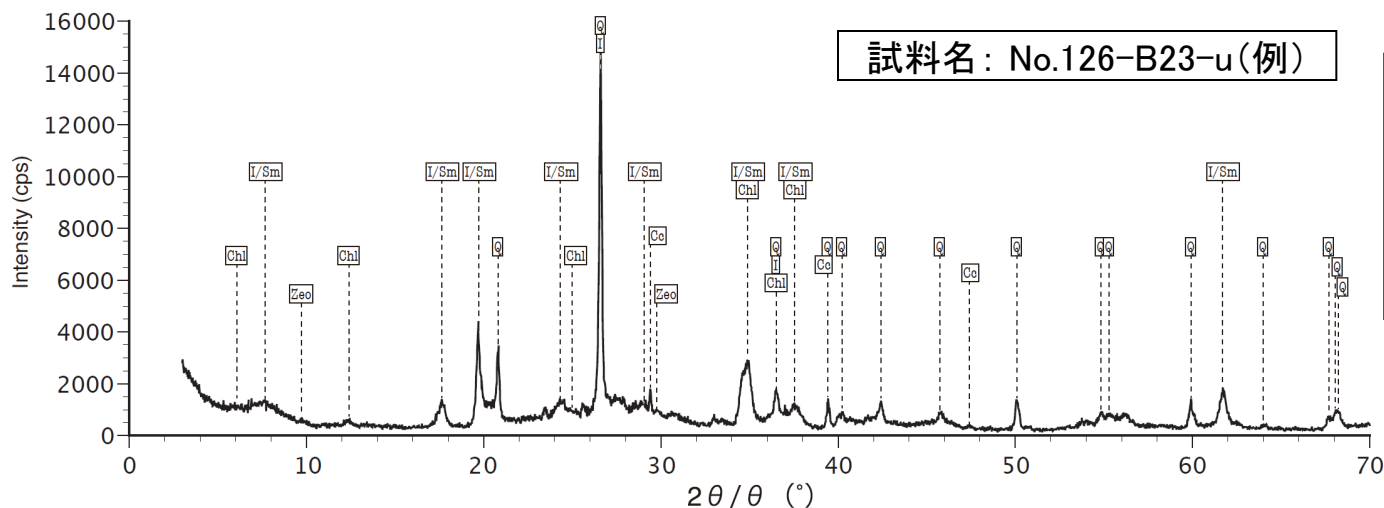
[粘土鉱物]

I : イライト

Chl : 緑泥石

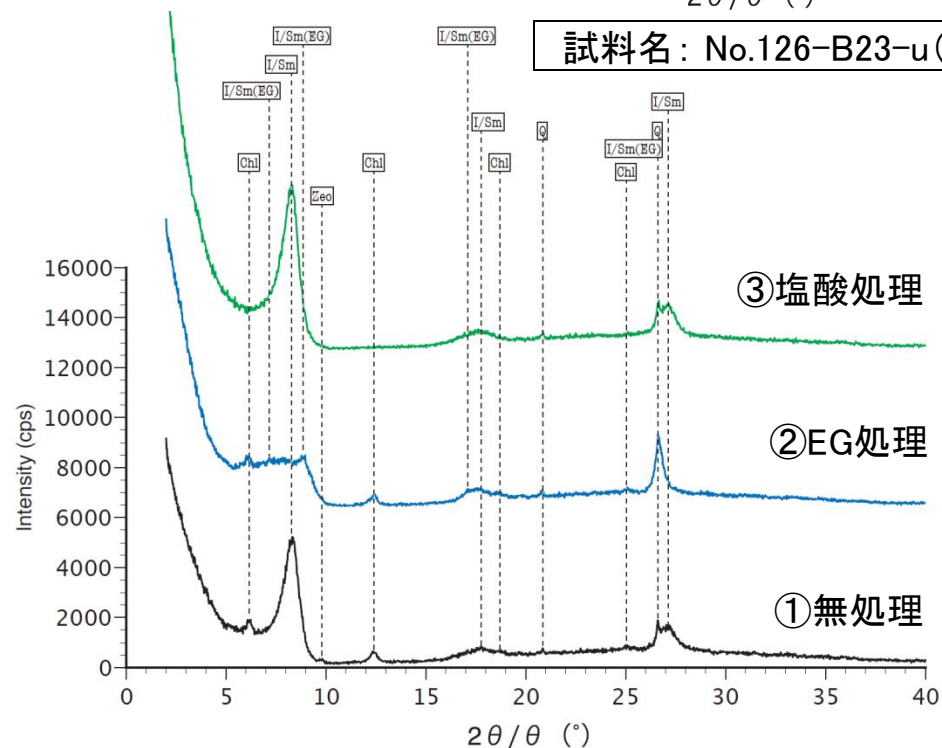


(参考)X線回折分析の分析方法



[不定方位法]

- ・通常の粉末法で測定した。
- ・得られたデータを既知のデータと比較し、含有される鉱物の種類を同定した。



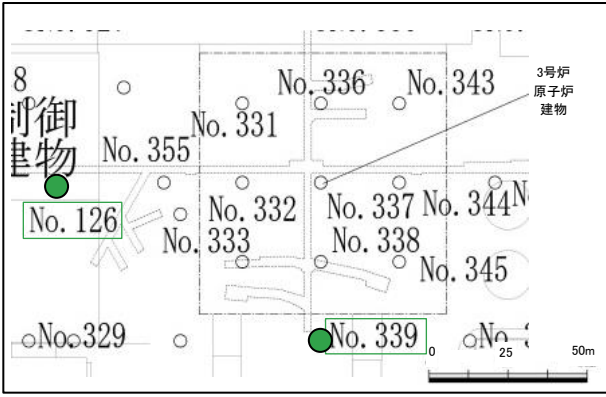
[定方位法]

- ・水ひ法により2μ m以下の粘土鉱物を濃集して測定した。
- ①無処理
粘土鉱物のピークが鮮明になる。
- ②エチレングリコール処理(EG処理)
エチレングリコール処理により、スメクタイトが膨潤し、その底面間隔が広がるため、イライト/スメクタイト混合層鉱物のピークが変化する。
- ③塩酸処理
塩酸処理により、緑泥石の結晶構造が破壊され、そのピークが消失する。

B23シームと周辺母岩のX線回折分析結果

シーム及び周辺母岩のX線回折分析 結果総括表

	試料名	126-B23-u	126-B23-s	126-B23-l	339-B23-u	339-B23-s	339-B23-l
	対象	母岩(上盤) 凝灰質頁岩	シーム	母岩(下盤) 黑色頁岩	母岩(上盤) 凝灰質頁岩	シーム	母岩(下盤) 黑色頁岩
主要造岩 鉱物類	石英	◎	○	◎	◎	△	◎
	斜長石			△			△
沸石	沸石類	△	△	△	△		
	斜プチロル沸石					△	
	ローモンタイト					○	
粘土鉱物	イライト/スメクタイト混合層鉱物	△	△		△	△	
	イライト			△			△
	緑泥石	△	△	△	△	△	△
炭酸塩鉱物	方解石	△	△			△	
硫化鉱物	石膏					△	
	黄鉄鉱					△	



シーム及び周辺母岩のX線回折分析試料採取位置図

※ B23シームの薄片観察結果は3.(1)③章を参照

凡例

[薄片観察結果]

局所的に確認できる鉱物

全体的に認められる鉱物

[X線回折分析結果]

シームと上盤母岩(凝灰質頁岩)の両方で確認された鉱物

シームと上盤母岩(凝灰質頁岩)のどちらかで確認された鉱物

◎ 多量

△ 少量

○ 中量

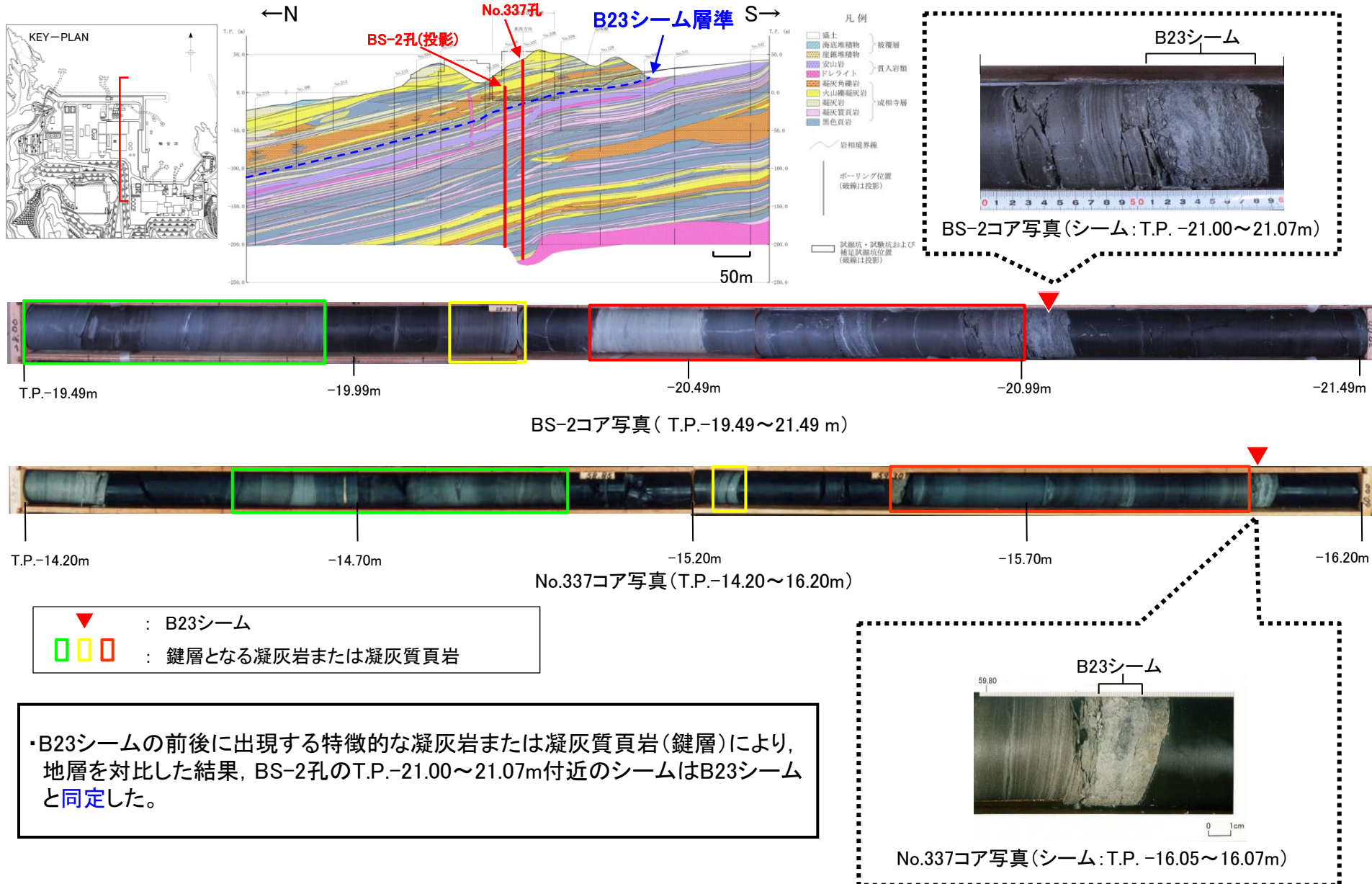
+ 微量

- ・薄片観察結果より、シームとその周辺母岩の色調等から、B23シームの母岩は凝灰質頁岩であると**同定した**。
- ・ボーリングコアからB23シームとその周辺母岩の試料を採取し、X線回折分析を実施した結果、
 - ①下盤母岩(黑色頁岩)では、シームで認められるイライト/スメクタイト混合層鉱物が認められず、シームで認められないイライト及び斜長石が確認できる。
 - ②上盤母岩(凝灰質頁岩)では、シームの薄片観察で局所的に確認されている変質鉱物の方解石、黄鉄鉱及びローモンタイトを除くと、シームと概ね同様の鉱物組成であり、薄片観察結果と整合的である。

シームの特定(BS-2, B23シーム)

第318回審査会合
資料2 p.36 加筆・修正

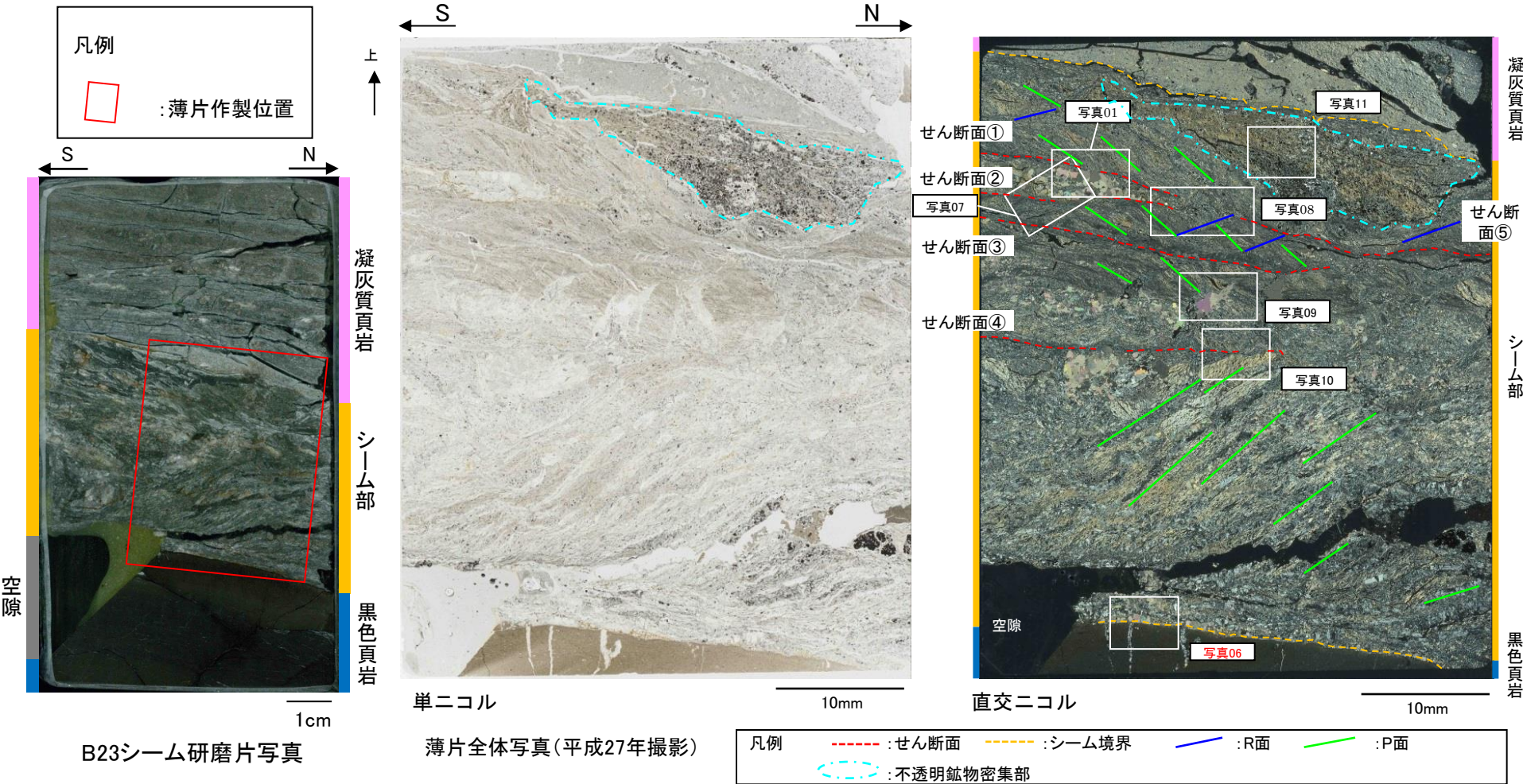
147



薄片観察結果 BS2-B23 薄片全体写真

第318回審査会合
資料2 p.90 加筆・修正

148

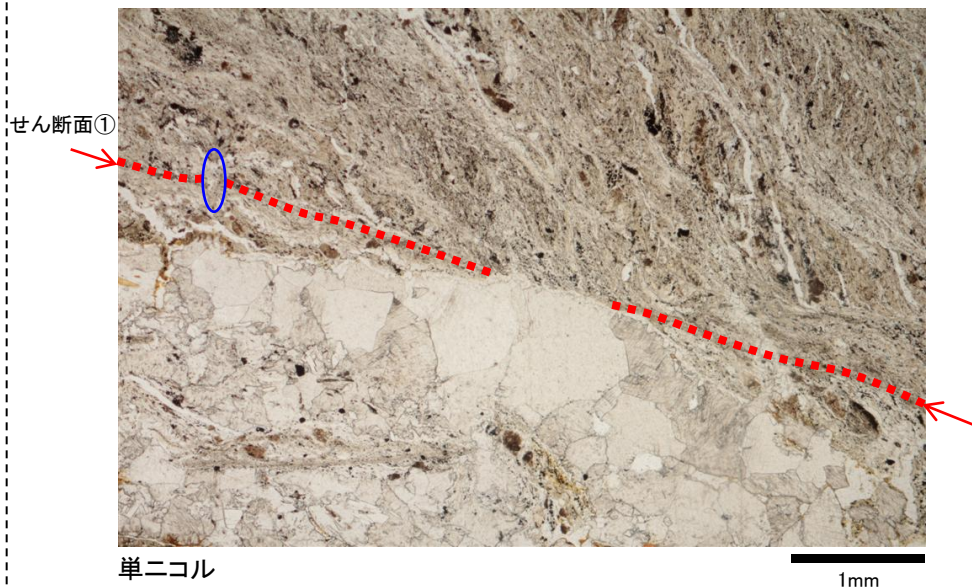


- ・薄片全体を横断するようなせん断面は認められないが、細粒化しているせん断面のうち、比較的直線性・連続性が高い5本のせん断面を抽出した。
- ・シーム内のせん断面④付近を境に上部に左横ずれセンス(逆断層センス), 下部に右横ずれセンス(正断層センス)が認められる。
- ・シームと上盤母岩の境界部には、不透明鉱物の密集部が認められる。

薄片観察結果 BS2-B23

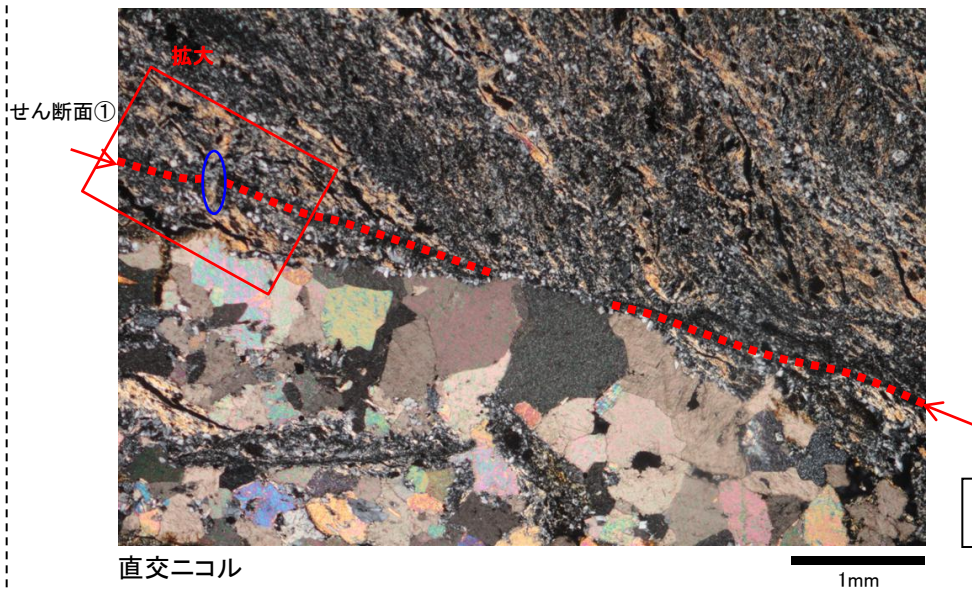
第318回審査会合
資料2 p.91 再掲

149



【写真01】

- ・自形鉱物が晶出してせん断面①は途切れている。自形鉱物
は変位・変形を受けていない。



凡例

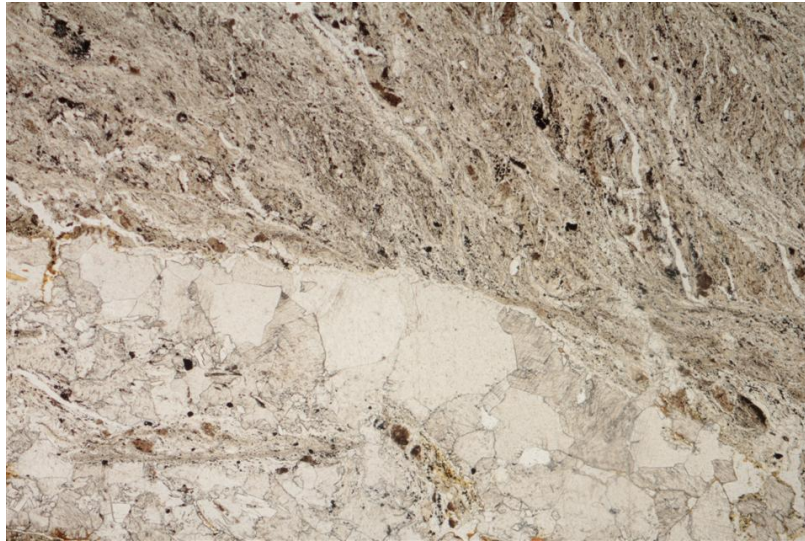
.....	せん断面
○	濁沸石

(平成27年撮影)

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

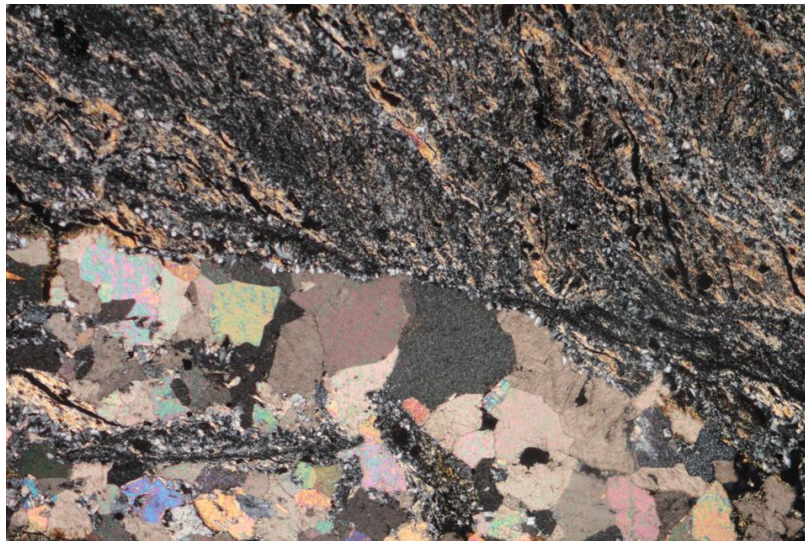
第318回審査会合
資料2 p.92 再掲

150



単ニコル

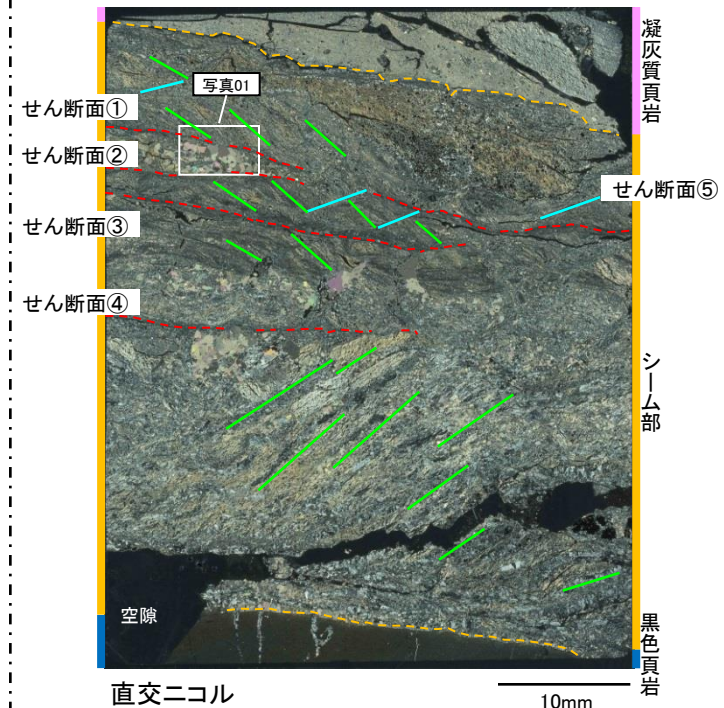
1mm



直交ニコル

1mm

KEY-PLAN



直交ニコル

10mm

凡例	--- : せん断面	--- : シーム境界
	--- : R面	--- : P面

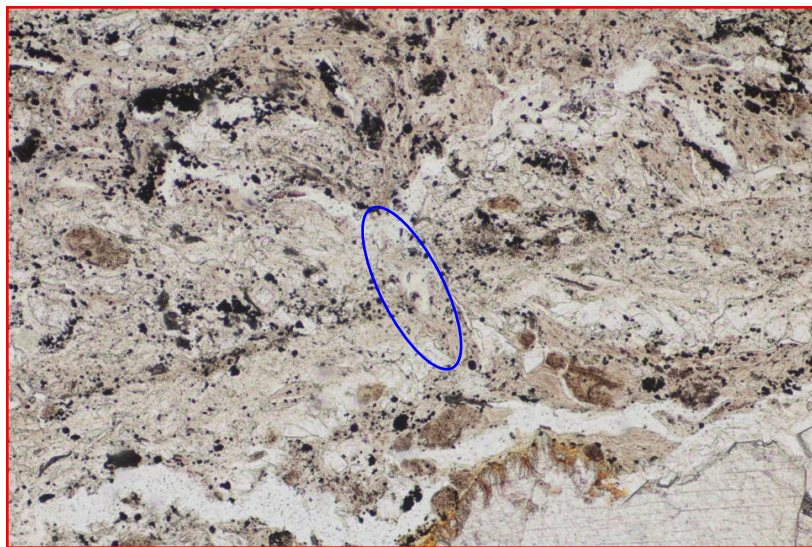
薄片観察結果 BS2-B23

第318回審査会合
資料2 p.93 加筆・修正

151

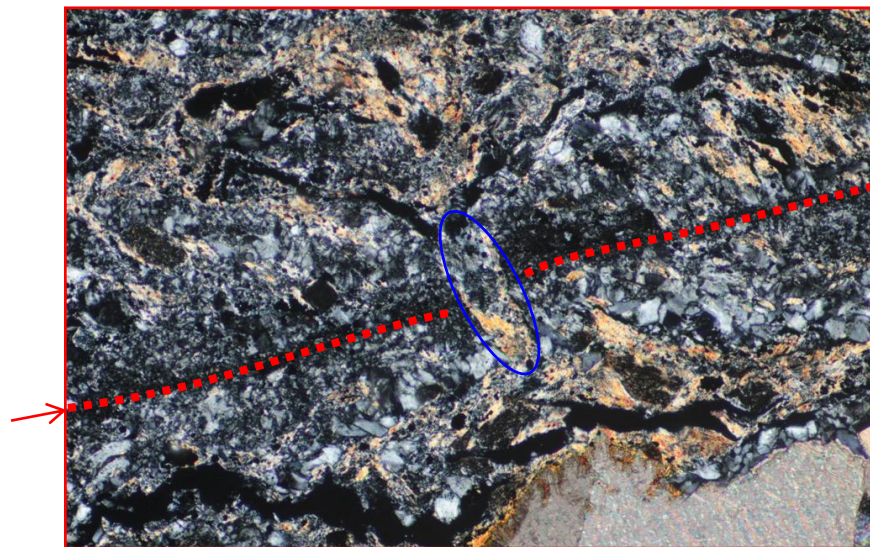
【写真01 拡大】

- ・せん断面①を横切るように晶出する鉱物は、単ニコルで無色、板状で劈開が顕著であり、直交ニコルで複屈折が小さく、消光角も小さいことから、X線回折分析の結果を踏まえ、濁沸石と同定した。
- ・濁沸石は変位・変形を受けていない。



単ニコル

0.5mm



直交ニコル

0.5mm

せん断面①

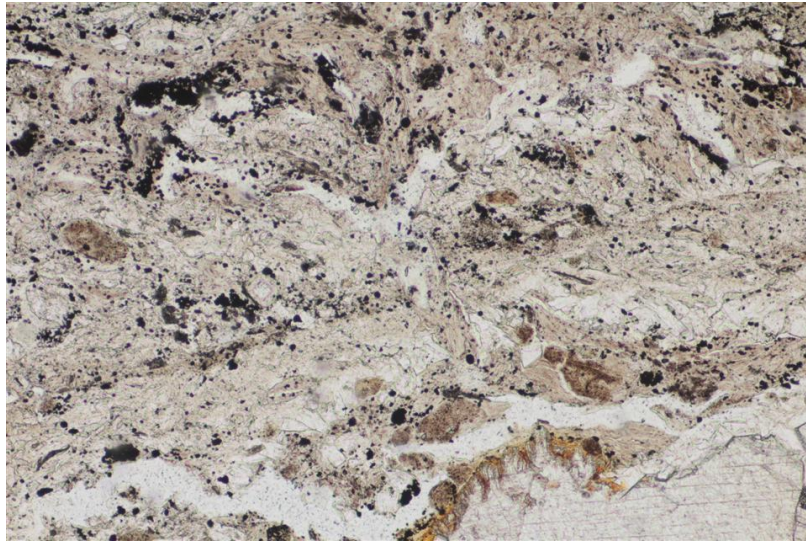
凡例
..... : せん断面
○ : 濁沸石

(平成27年撮影)

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

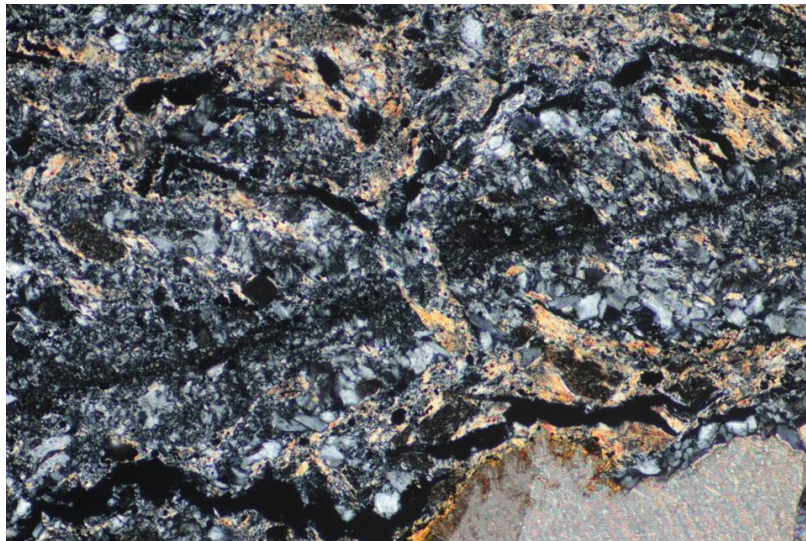
第318回審査会合
資料2 p.94 再掲

152



単ニコル

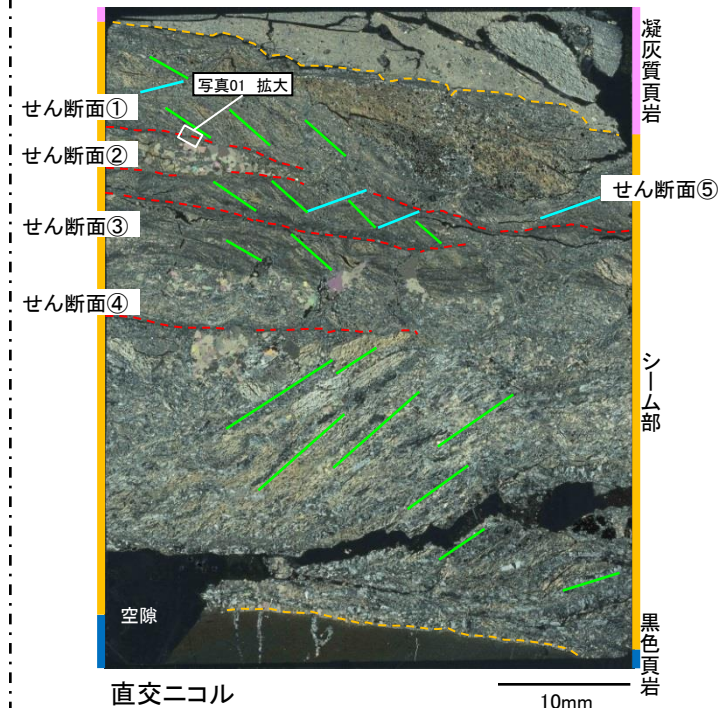
0.5mm



直交ニコル

0.5mm

KEY-PLAN



直交ニコル

10mm

凡例	--- : せん断面	--- : シーム境界
	--- : R面	--- : P面

薄片観察結果 BS2-B23

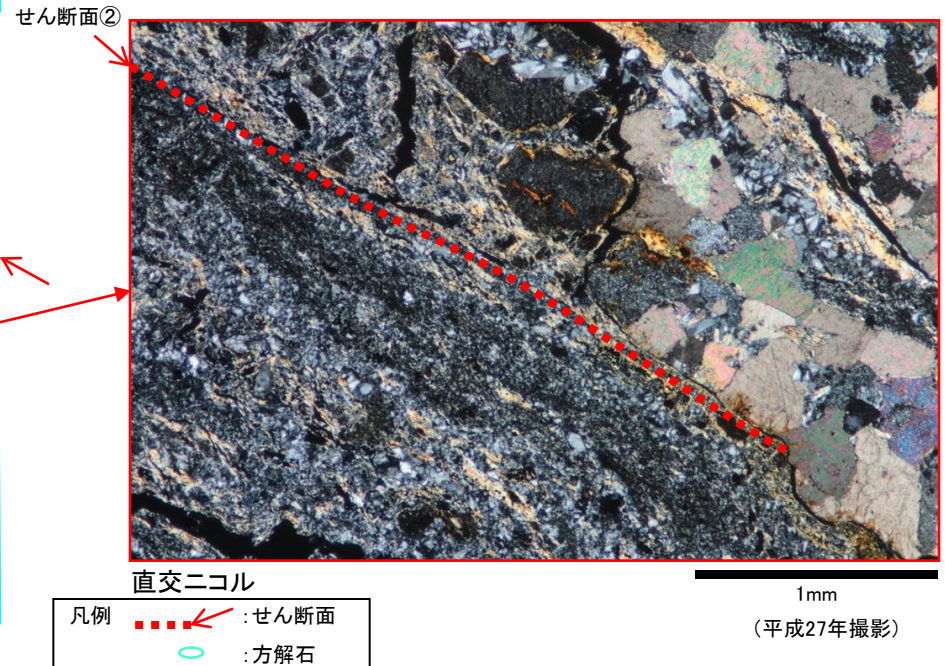
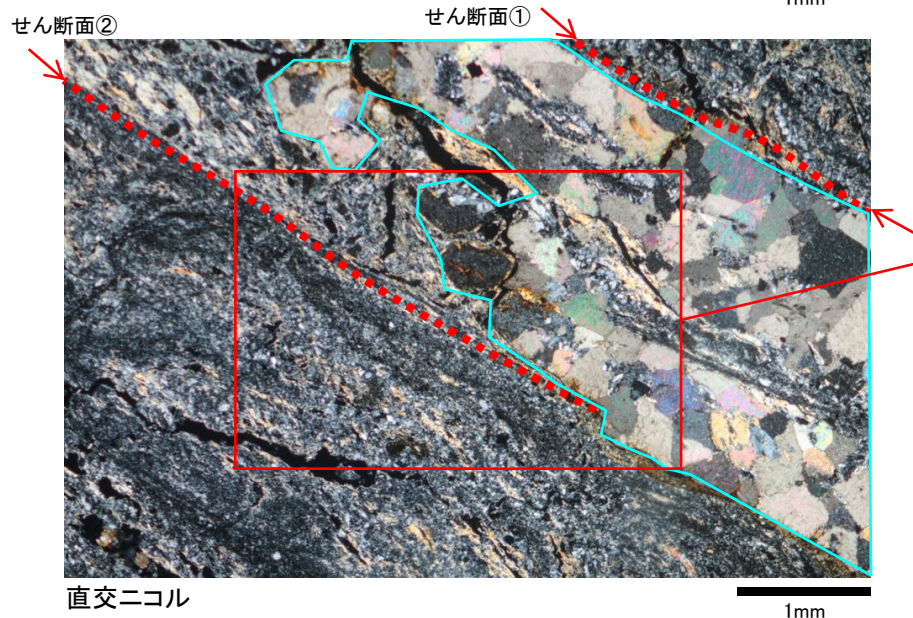
第318回審査会合
資料2 p.95 加筆・修正

153



【写真07】

- ・自形鉱物が晶出してせん断面②は途切れている。自形鉱物
は変位・変形を受けていない。
- ・自形鉱物は、単ニコルで無色で劈開が顕著であり、直交ニコ
ルで高次の干渉色を示すことから、X線回折分析結果を踏ま
え、方解石と**同定した**。



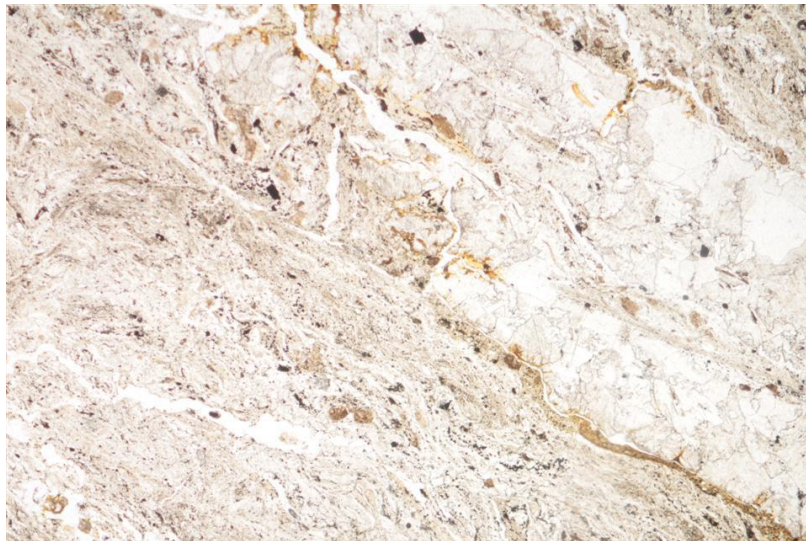
凡例
--- : せん断面
○ : 方解石

(平成27年撮影)

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

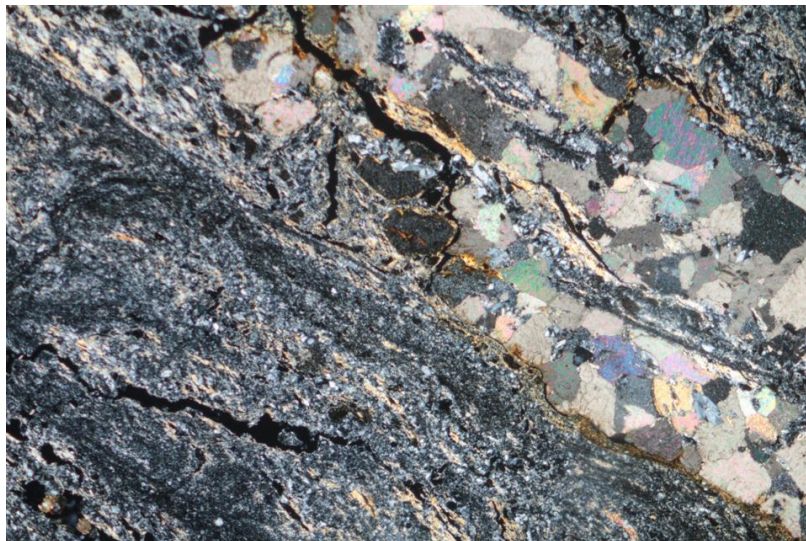
第318回審査会合
資料2 p.96 再掲

154



単ニコル

1mm

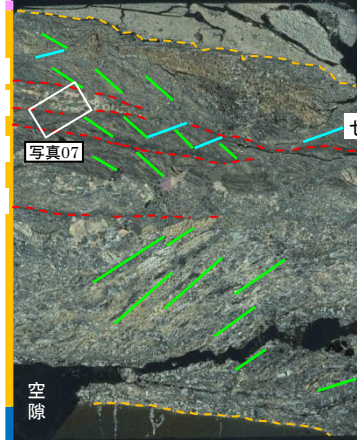


直交ニコル

1mm

KEY-PLAN

せん断面①
せん断面②
せん断面③
せん断面④



凝灰質頁岩

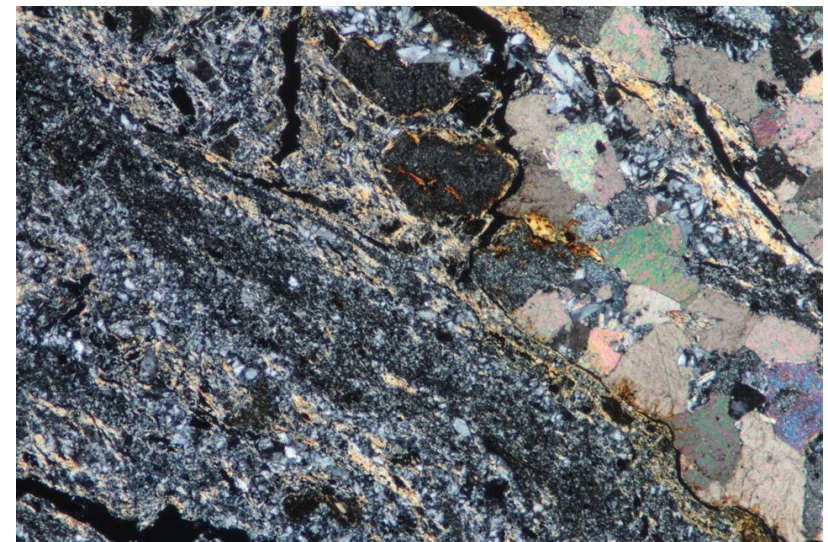
せん断面⑤

シーム部

黒色頁岩

凡例

- : せん断面
- : シーム境界
- : R面
- : P面



直交ニコル

1mm

(平成27年撮影)

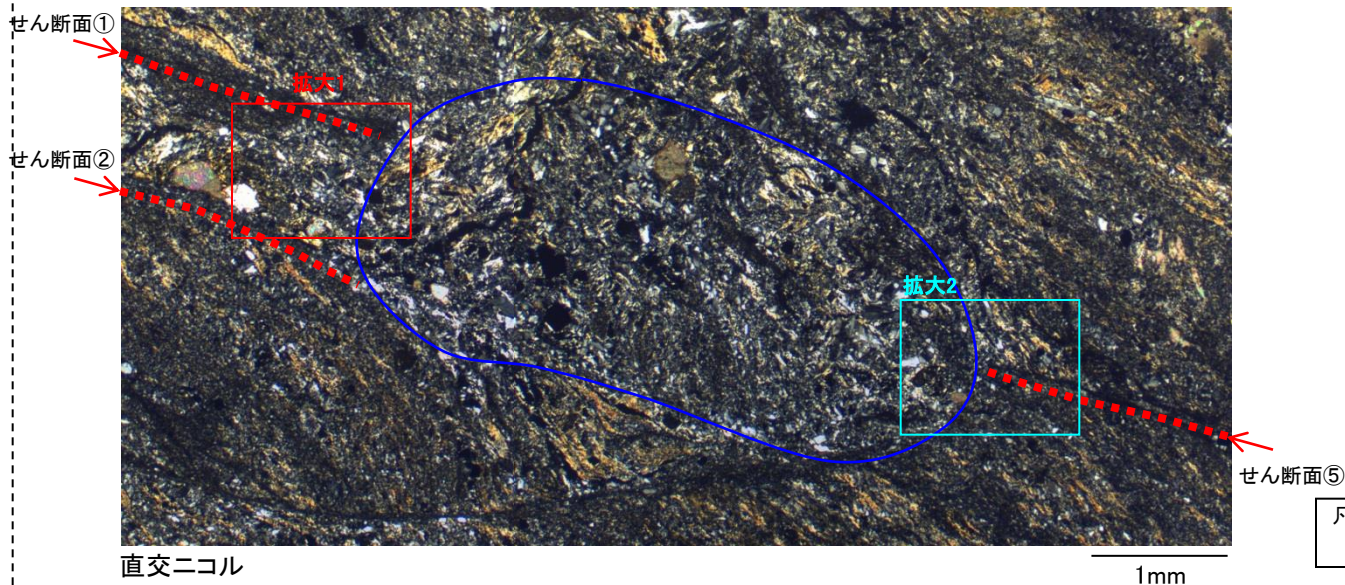
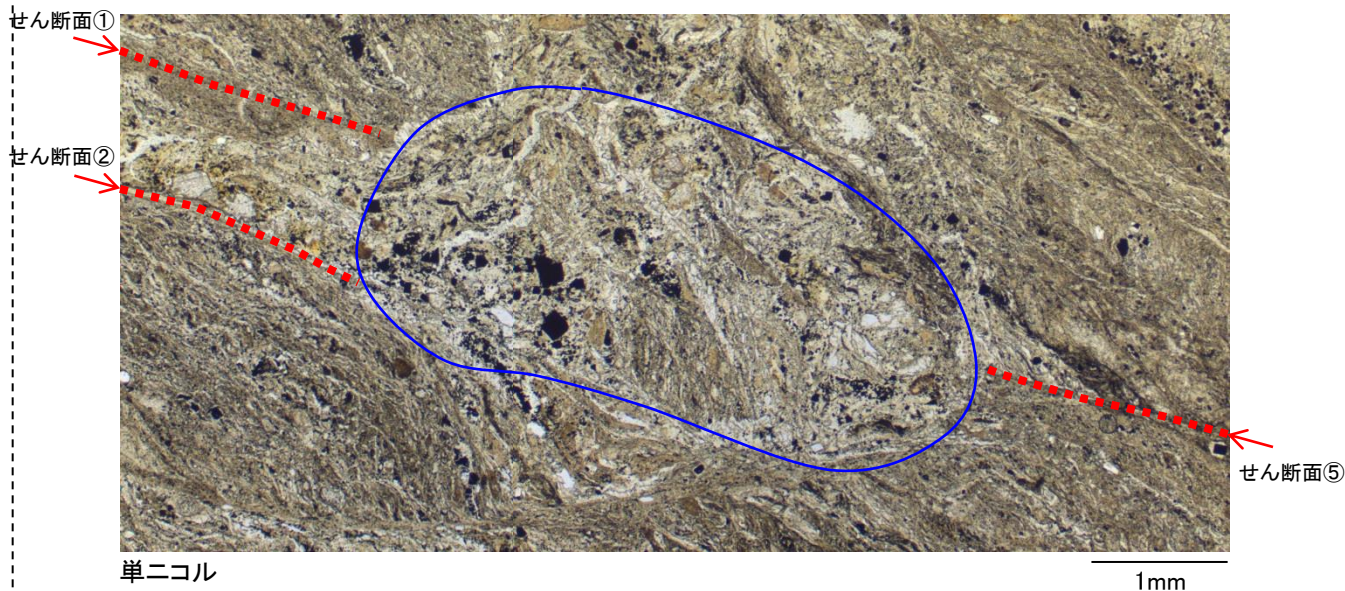
薄片観察結果 BS2-B23

第318回審査会合
資料2 p.97 再掲

155

【鏡下写真08】

- ・せん断面①, ②及び⑤を横切るように, 鉱物が晶出しており, 変位・変形を受けていない。



凡例

..... : せん断面

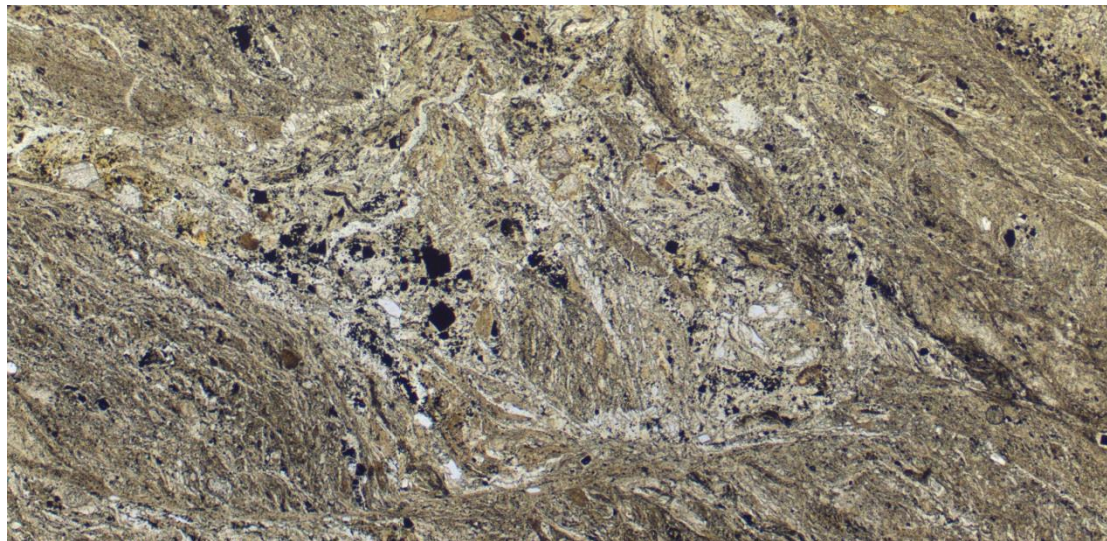
○ : 濁沸石

(平成27年撮影)

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

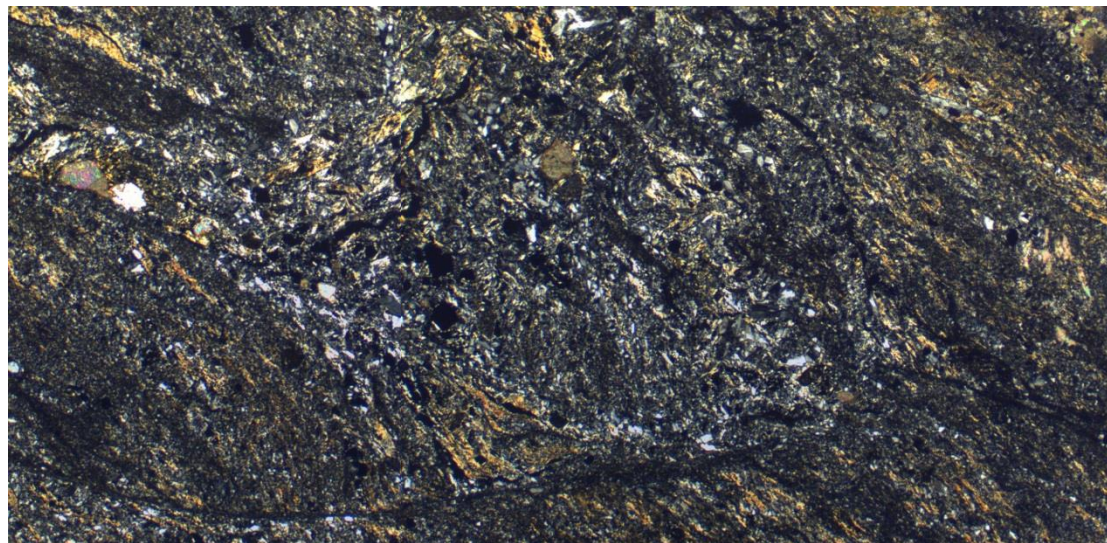
第318回審査会合
資料2 p.98 再掲

156



単ニコル

1mm



直交ニコル

1mm

KEY-PLAN

せん断面①

せん断面②

せん断面③

せん断面④

せん断面⑤

シーム部

凝灰質頁岩
黑色頁岩



直交ニコル

10mm

凡例

- : せん断面
- : シーム境界
- : R面
- : P面

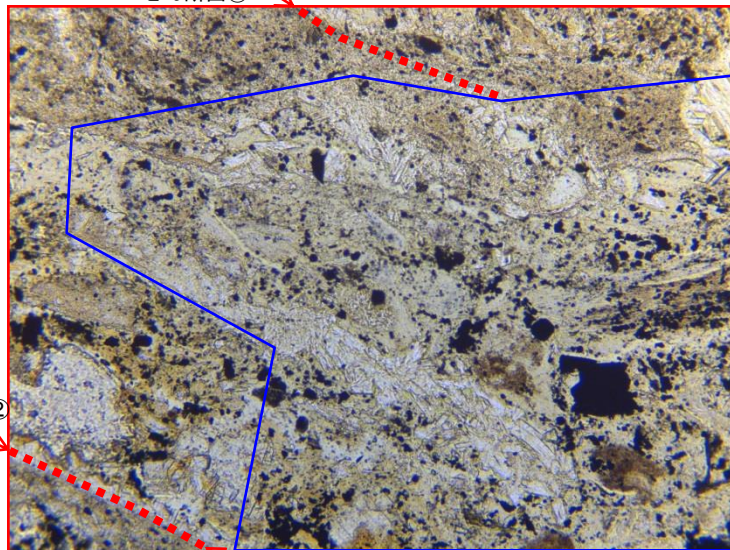
薄片観察結果 BS2-B23

第318回審査会合
資料2 p.99 加筆・修正

157

せん断面①

せん断面②

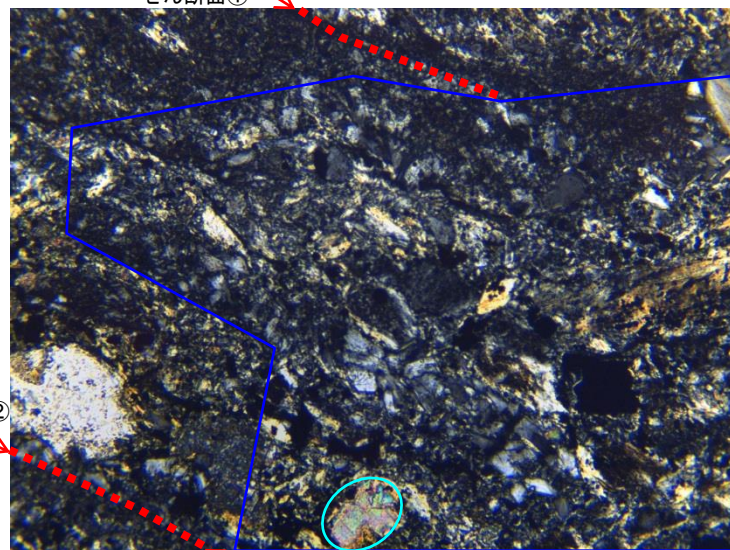


単ニコル

0.5mm

せん断面①

せん断面②



直交ニコル

0.5mm

【鏡下写真08 拡大1】

- ・せん断面①を横断するように晶出する鉱物脈は、単ニコルで無色、板状で劈開が顕著であり、直交ニコルで複屈折が小さく、消光角も小さいことから、X線回折分析の結果を踏まえ、濁沸石と**同定した**。
- ・濁沸石は変位・変形を受けていない。

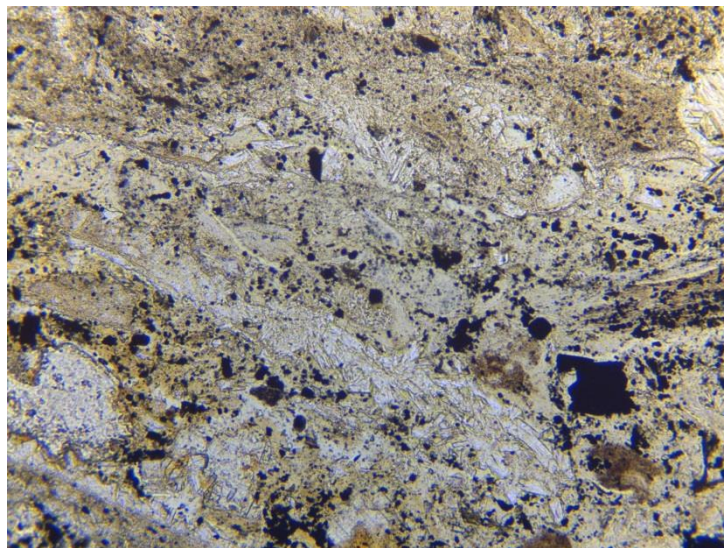
凡例
: せん断面
: 方解石
: 濁沸石

(平成27年撮影)

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

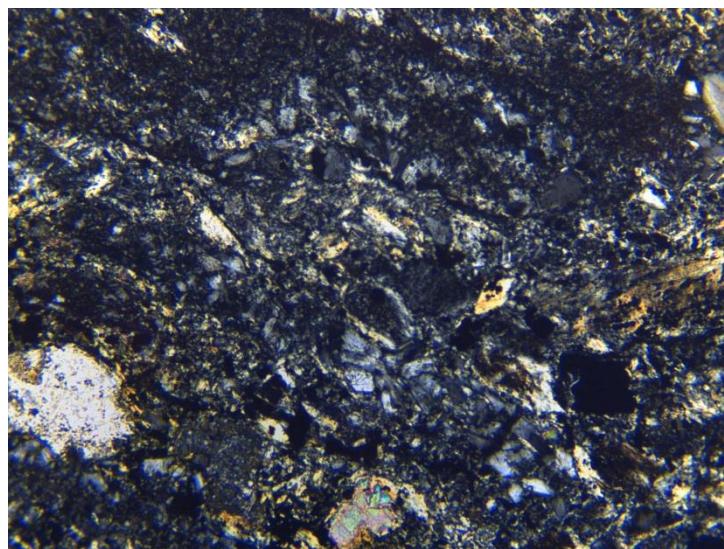
第318回審査会合
資料2 p.100 再掲

158



単ニコル

0.5mm



直交ニコル

0.5mm

KEY-PLAN

せん断面①
せん断面②
せん断面③
せん断面④



凝灰質頁岩

せん断面⑤

シーム部

黒色頁岩

直交ニコル

10mm

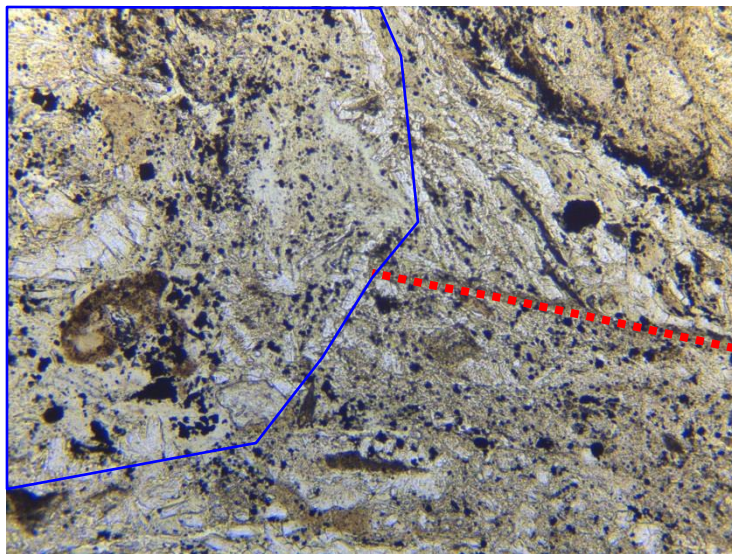
凡例

- : せん断面
- : シーム境界
- : R面
- : P面

薄片観察結果 BS2-B23

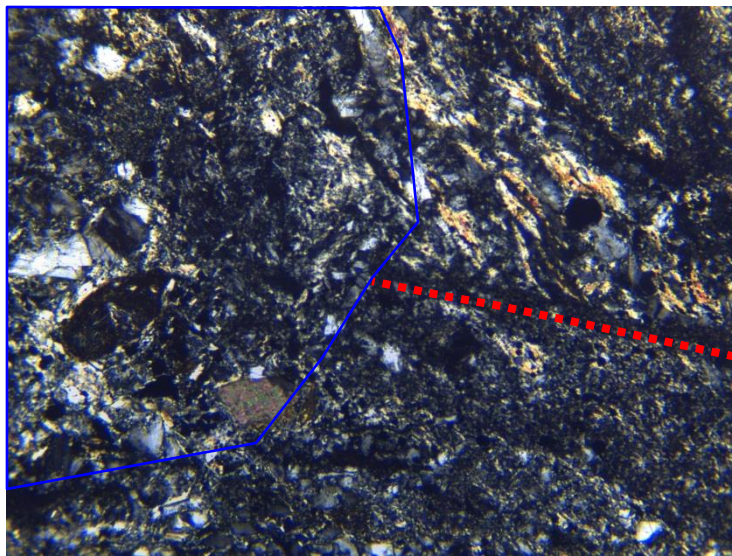
【鏡下写真08 拡大2】

- ・せん断面⑤を横断するように晶出する鉱物脈は、単ニコルで無色、板状で劈開が顕著であり、直交ニコルで複屈折が小さく、消光角も小さいことから、X線回折分析の結果を踏まえ、濁沸石と**同定した**。
- ・濁沸石は変位・変形を受けていない。



単ニコル

0.5mm



直交ニコル

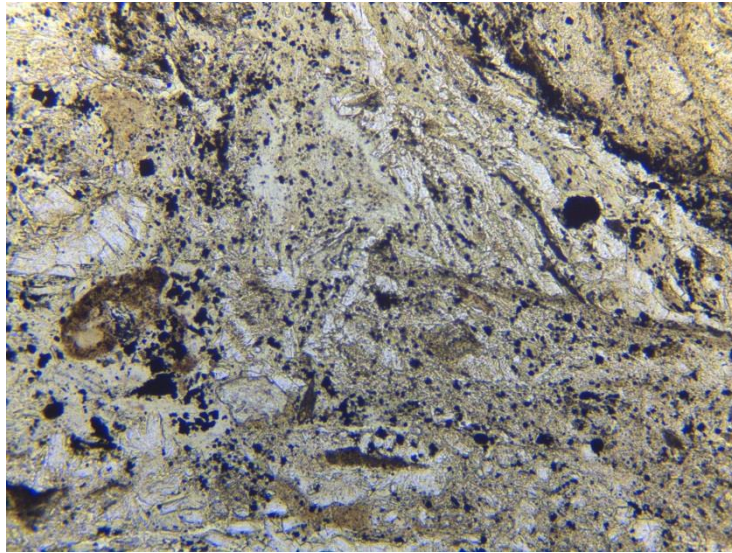
0.5mm

凡例
--- : せん断面
○ : 濁沸石

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

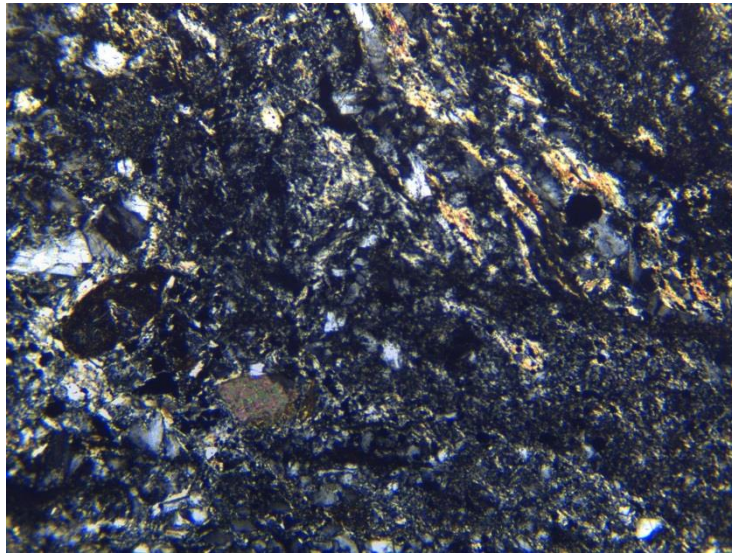
第318回審査会合
資料2 p.102 再掲

160



単ニコル

0.5mm



直交ニコル

0.5mm

KEY-PLAN

せん断面①

せん断面②

せん断面③

せん断面④

凝灰質頁岩

せん断面⑤

シーム部

黒色頁岩



直交ニコル

10mm

凡例

- : せん断面
- - - : シーム境界
- : R面
- : P面

薄片観察結果 BS2-B23

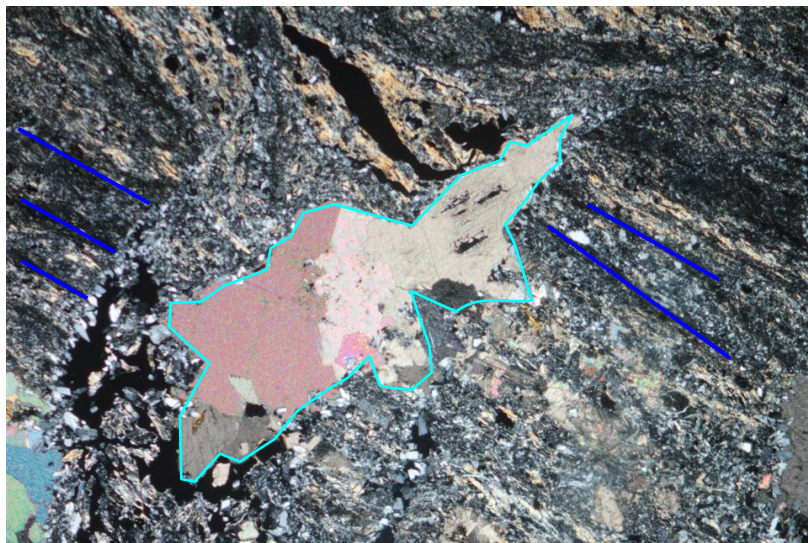
第318回審査会合
資料2 p.103 加筆・修正

161



単ニコル

1mm



直交ニコル

1mm

【写真09】

- ・シーム内に葉状の面構造(P面)が確認できる。P面の方向と薄片作製方向から、逆断層センスと評価した。
- ・P面を横切るように鉱物が晶出しており、変位・変形を受けていない。
- ・P面を横切るように晶出する鉱物は、単ニコルで無色で劈開が顕著であり、直交ニコルで高次の干渉色を示すことから、X線回折分析結果を踏まえ、方解石と同定した。

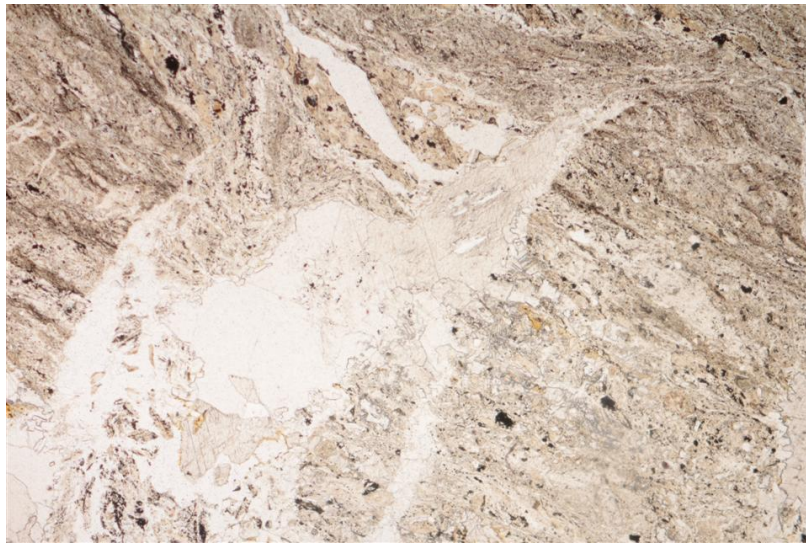
凡例 ○ : 方解石 〃 : P面

(平成27年撮影)

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

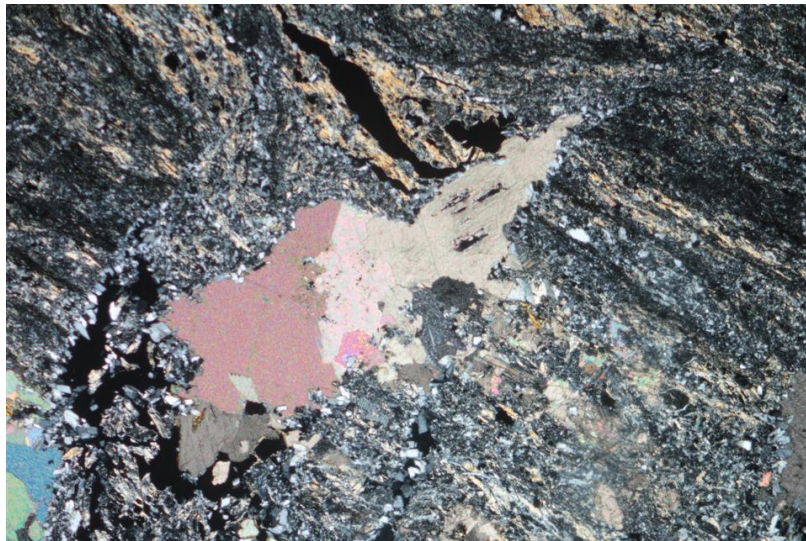
第318回審査会合
資料2 p.104 再掲

162



単ニコル

1mm

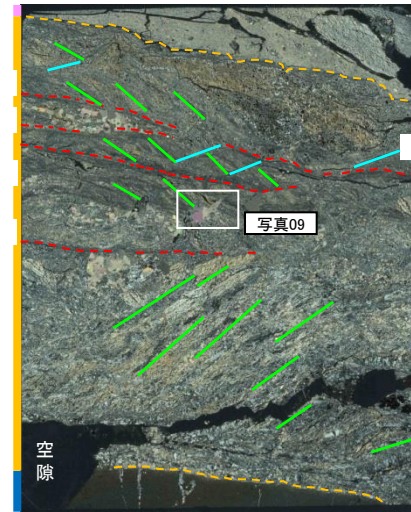


直交ニコル

1mm

KEY-PLAN

せん断面①
せん断面②
せん断面③
せん断面④



凝灰質頁岩

せん断面⑤

シーム部

黒色頁岩

直交ニコル

10mm

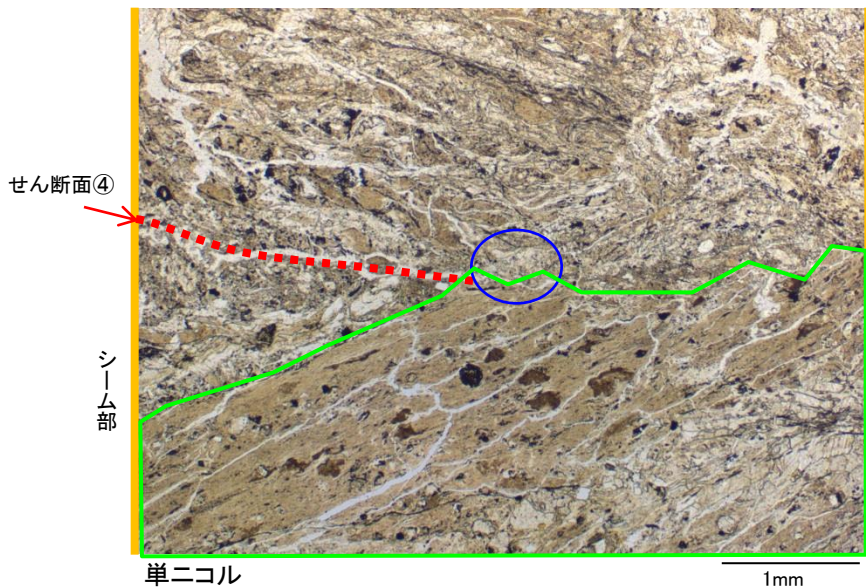
凡例

- : せん断面
- : シーム境界
- : R面
- : P面

薄片観察結果 BS2-B23

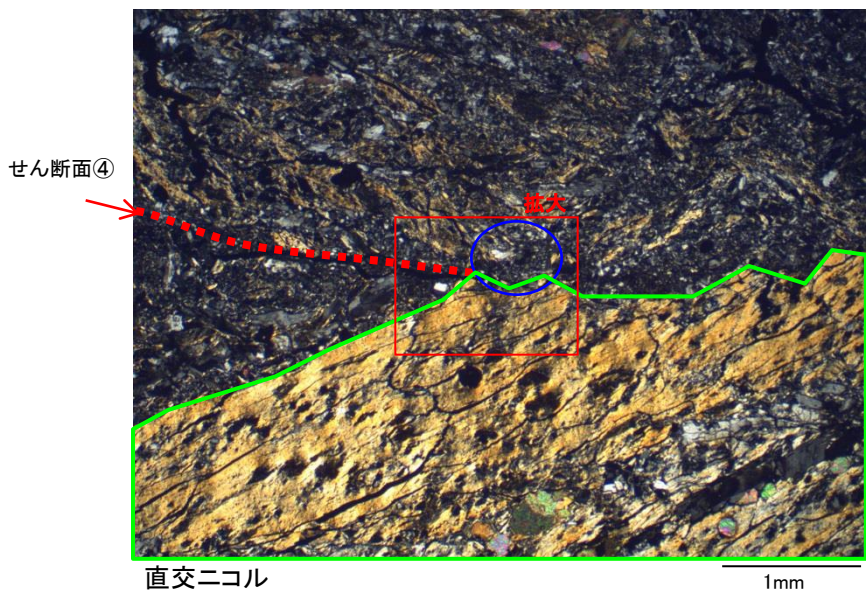
第318回審査会合
資料2 p.105 再掲

163



【写真10】

- ・せん断面④上部には左横ずれセンス(逆断層センス), 下部には右横ずれセンス(正断層センス)が認められる。
- ・せん断面④の下側には, 直交ニコルで黄金色のイライト/スメクタイト混合層鉱物が確認できるが, 上部の逆断層センスの構造に切断されている。



凡例

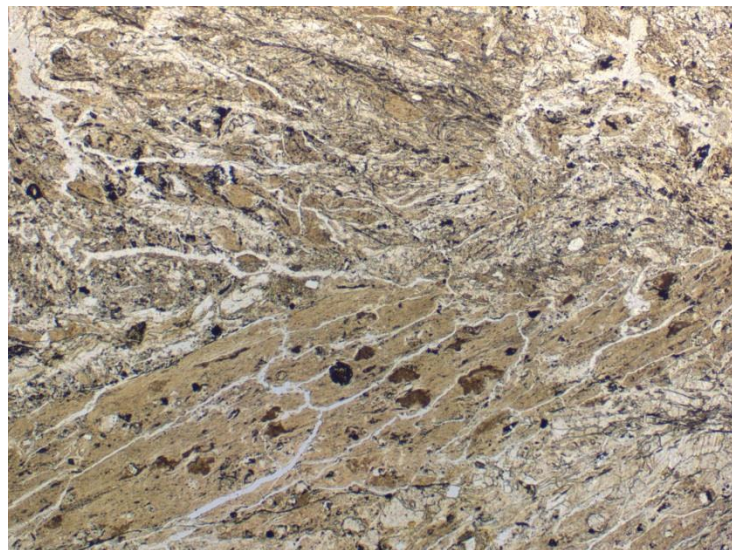
- ← : せん断面
- : 濁沸石
- : イライト/スメクタイト混合層鉱物

(平成27年撮影)

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

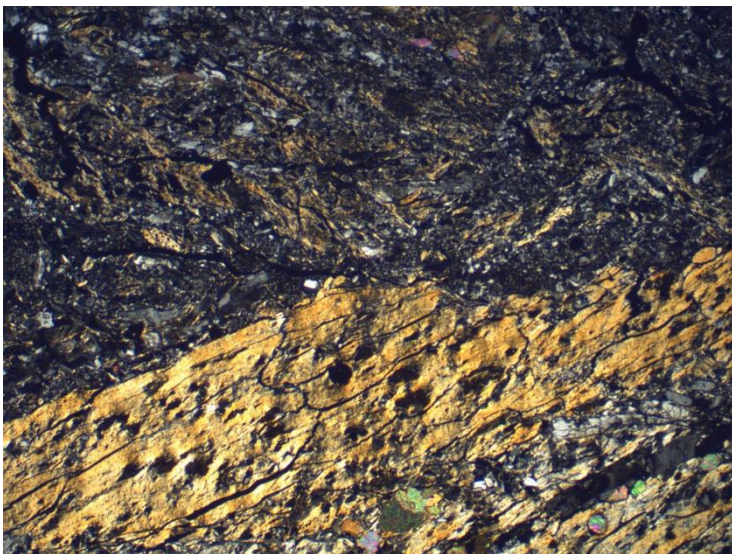
第318回審査会合
資料2 p.106 再掲

164



単ニコル

1mm



直交ニコル

1mm

KEY-PLAN

せん断面①

せん断面②

せん断面③

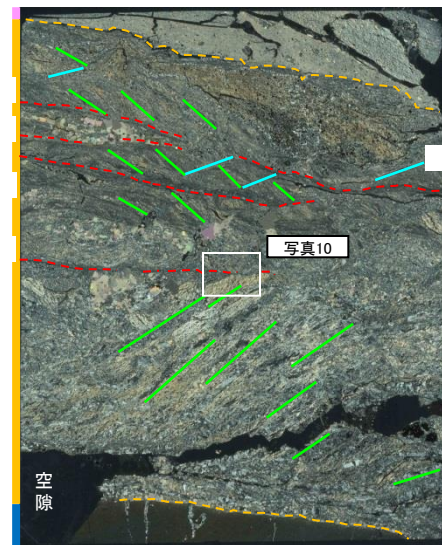
せん断面④

凝灰質頁岩

せん断面⑤

シーム部

黒色頁岩



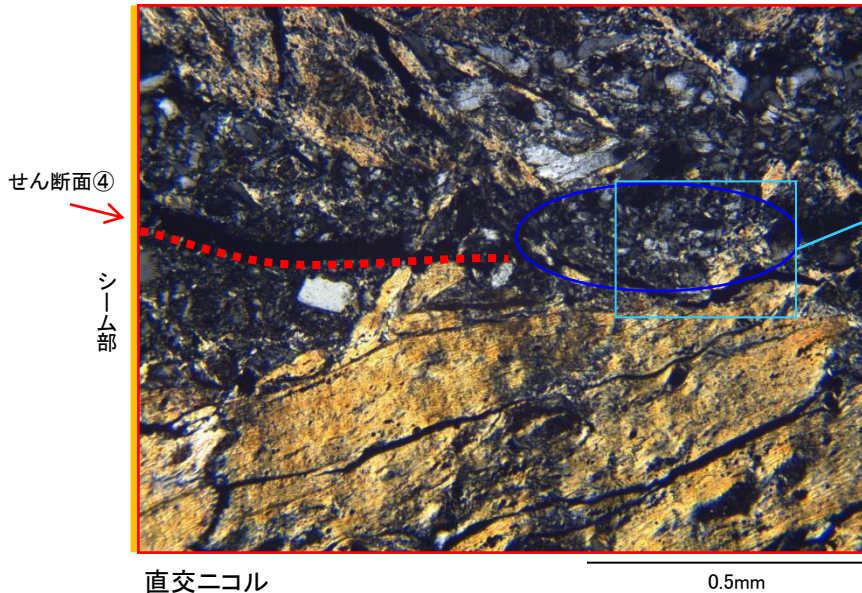
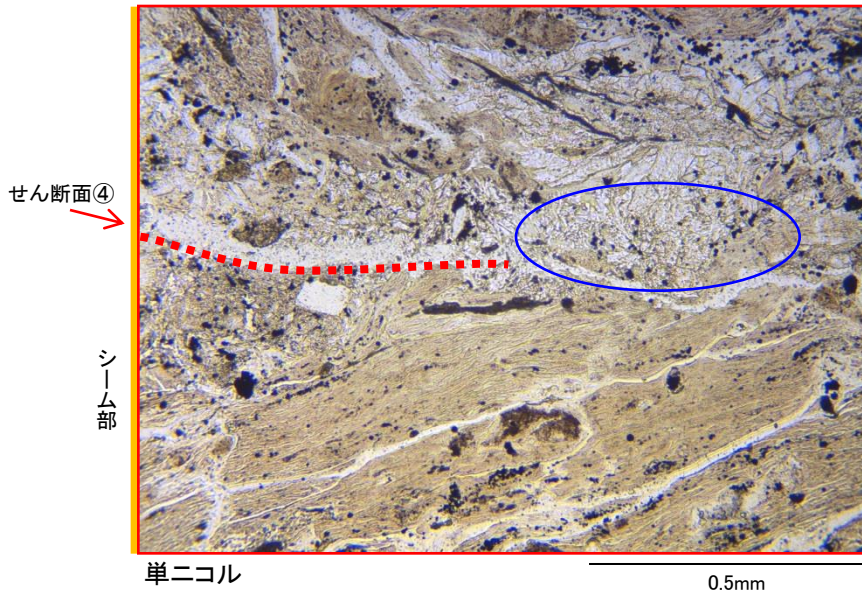
直交ニコル

10mm

凡例

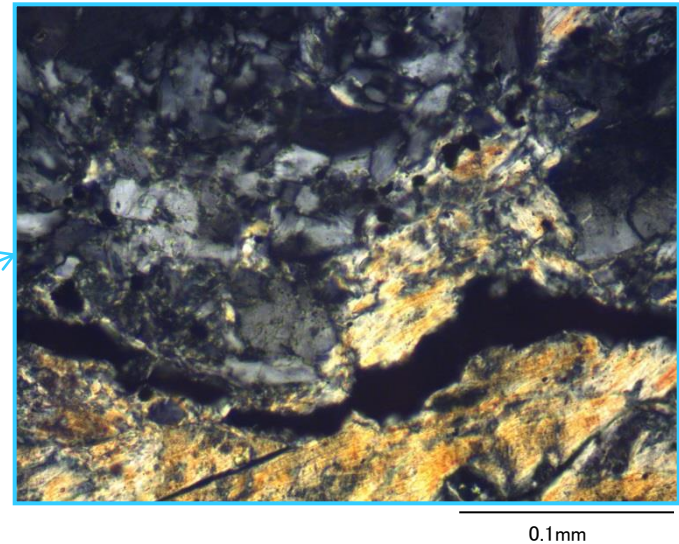
- : せん断面
- : シーム境界
- : R面
- : P面

薄片観察結果 BS2-B23



【写真10 拡大】

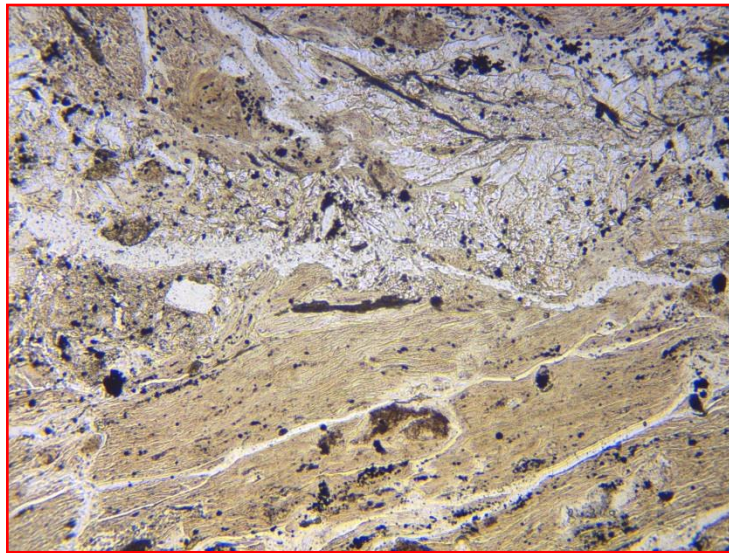
- ・せん断面④を止めるように自形鉱物が横断しており、変位・変形を受けていない。
- ・せん断面④を止めるように晶出する鉱物脈は、単ニコルで無色、板状で劈開が顕著であり、直交ニコルで複屈折が小さく、消光角も小さいことから、X線回折分析の結果を踏まえ、濁沸石と**同定した**。



凡例

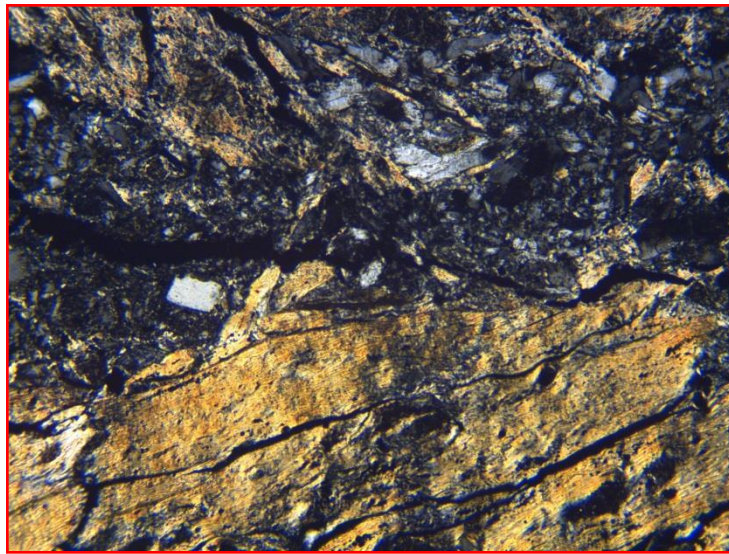
- ← : せん断面
- : 濁沸石

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)



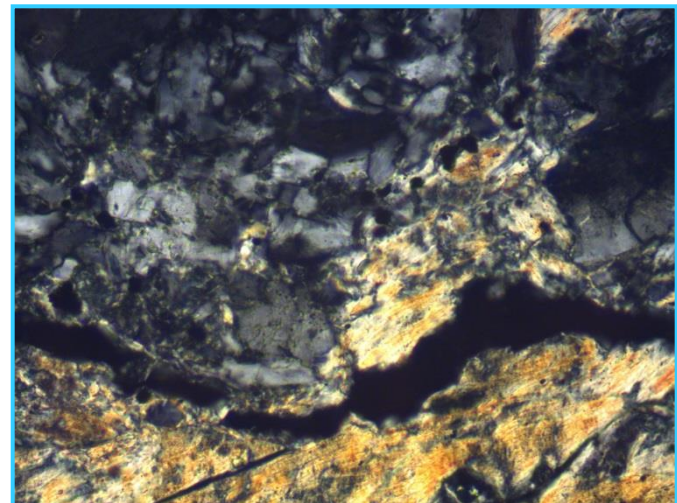
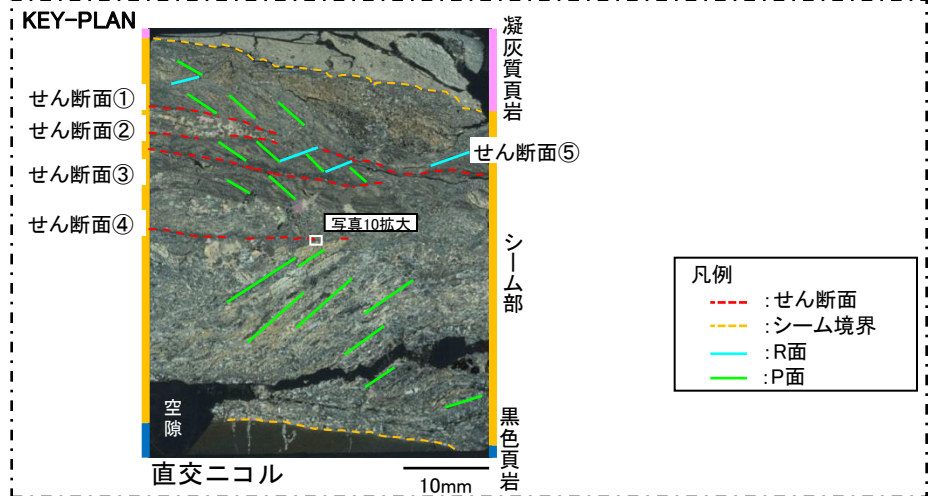
単ニコル

0.5mm



直交ニコル

0.5mm

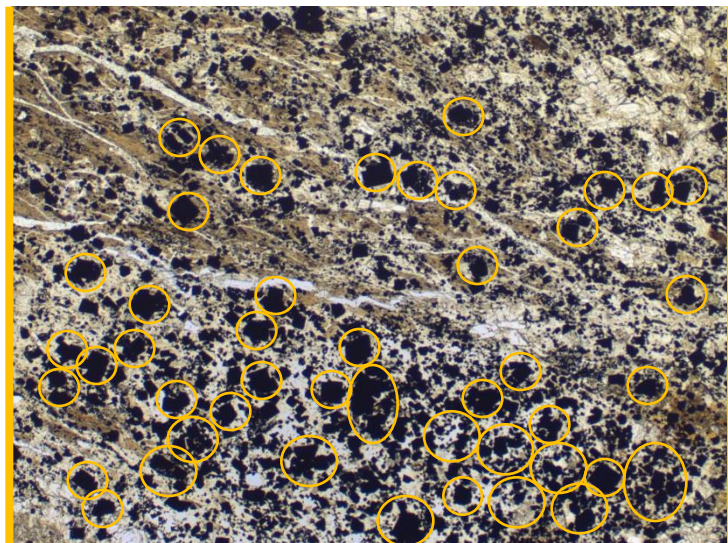


薄片観察結果 BS2-B23

第318回審査会合
資料2 p.107 再掲

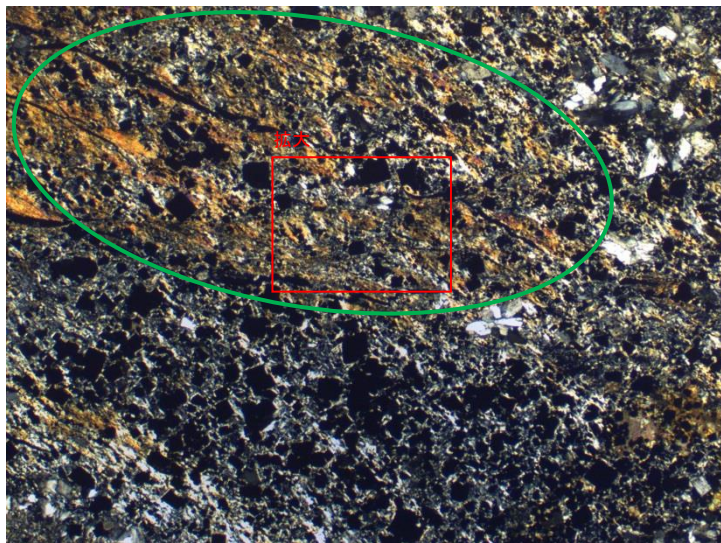
167

シーム部



単ニコル

1mm



直交ニコル

1mm

【写真11】

- ・シームと上盤母岩の境界部付近のシーム内部には、不透明鉱物が密集して晶出する部分が認められる。
- ・これらの鉱物は、単ニコル、直交ニコルで不透明であり、角張った方形であることから、X線回折分析結果を踏まえ、黄鉄鉱と**同定した**。

凡例



: 黄鉄鉱

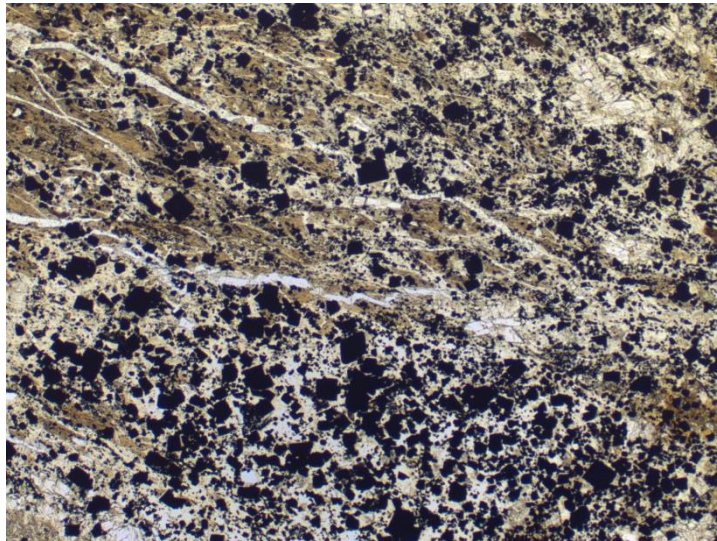


: イライト/スメクタイト混合層鉱物

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

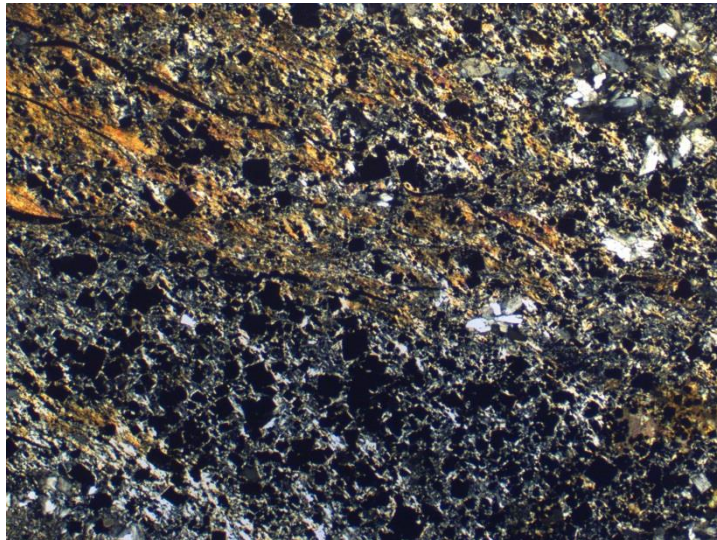
第318回審査会合
資料2 p.108 再掲

168



単ニコル

1mm

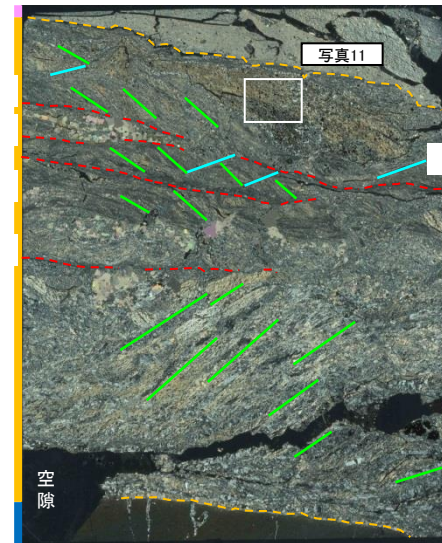


直交ニコル

1mm

KEY-PLAN

せん断面①
せん断面②
せん断面③
せん断面④



凝灰質頁岩

せん断面⑤

シーム部

黒色頁岩

凡例

- : せん断面
- : シーム境界
- : R面
- : P面

直交ニコル

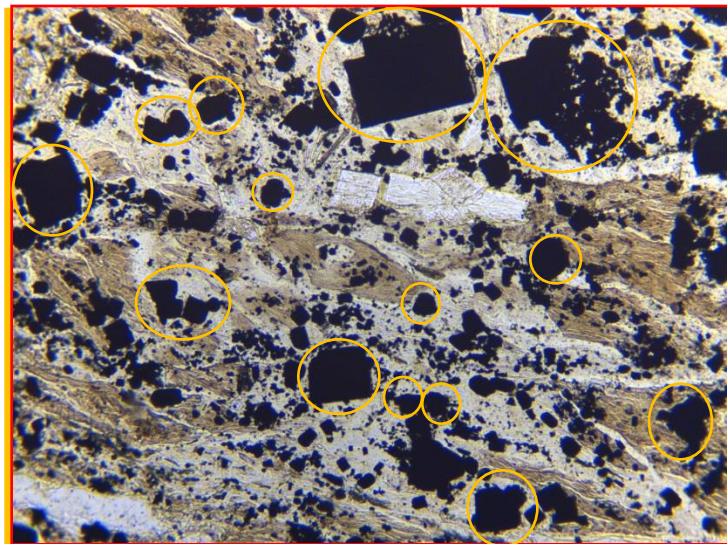
10mm

薄片観察結果 BS2-B23

第318回審査会合
資料2 p.109 再掲

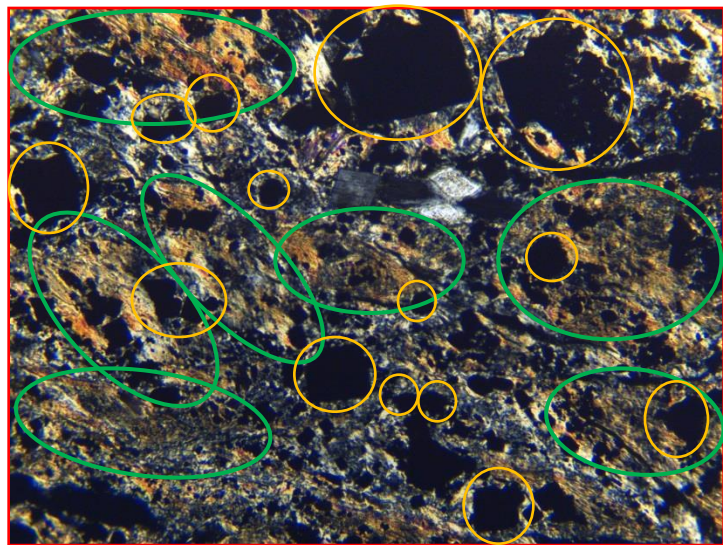
169

シーム部



単ニコル

0.5mm



直交ニコル

0.5mm

【写真11 拡大】

- ・黄鉄鉱は方形の結晶も認められるが、多くは角がとれて円摩されている。
- ・角が取れた黄鉄鉱の多くはイライト/スメクタイト混合層鉱物に取り込まれていることから、イライト/スメクタイト混合層鉱物の生成前に生成された鉱物と評価した。

以上のことから、黄鉄鉱は凝灰質頁岩の初生鉱物であると評価した。

凡例

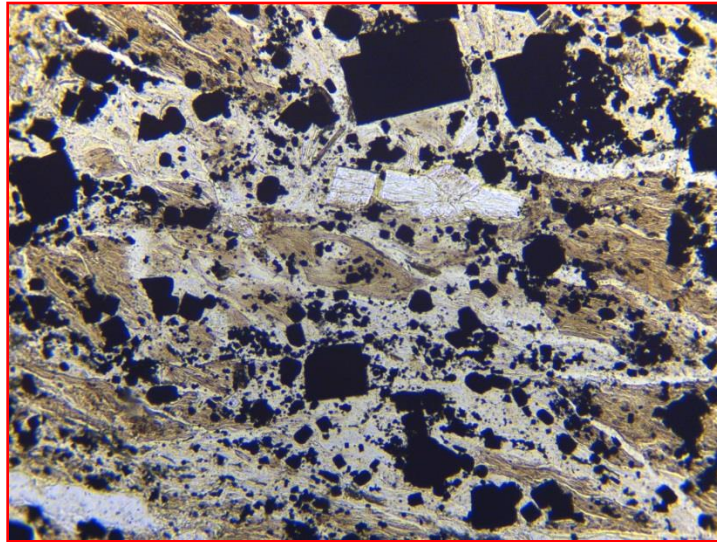
○ : 黄鉄鉱

○ : イライト/スメクタイト混合層鉱物

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

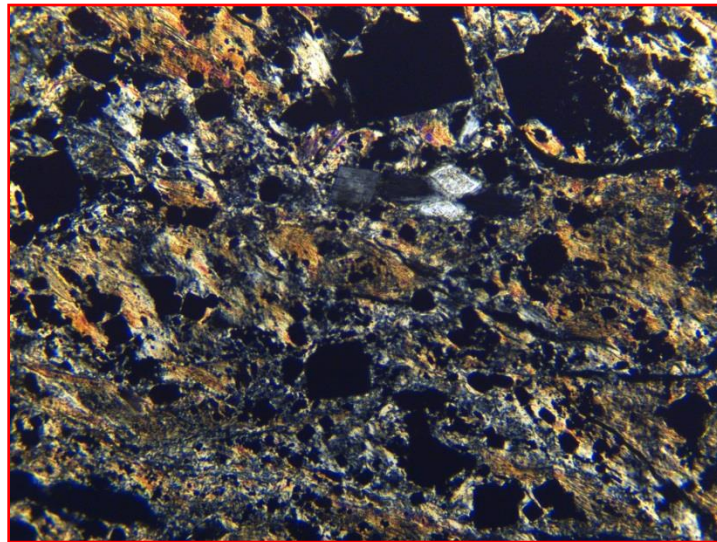
第318回審査会合
資料2 p.110 再掲

170



単ニコル

0.5mm

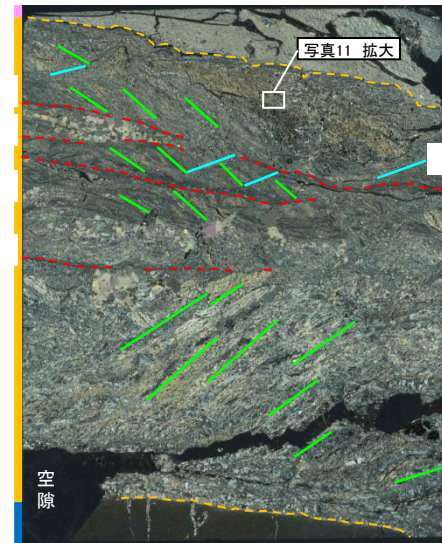


直交ニコル

0.5mm

KEY-PLAN

せん断面①
せん断面②
せん断面③
せん断面④



凝灰質頁岩

せん断面⑤

シーム部

黒色頁岩

直交ニコル

10mm

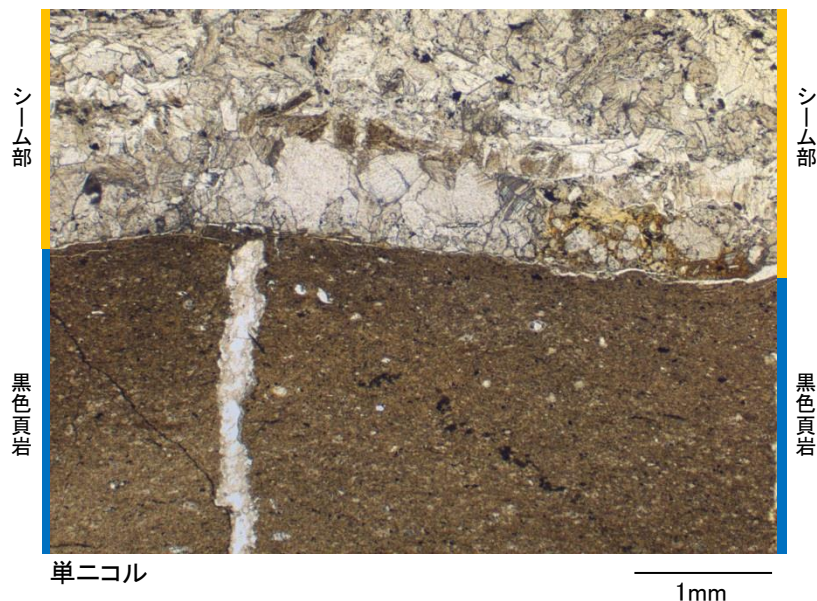
凡例

- : せん断面
- - - : シーム境界
- : R面
- : P面

薄片観察結果 BS2-B23

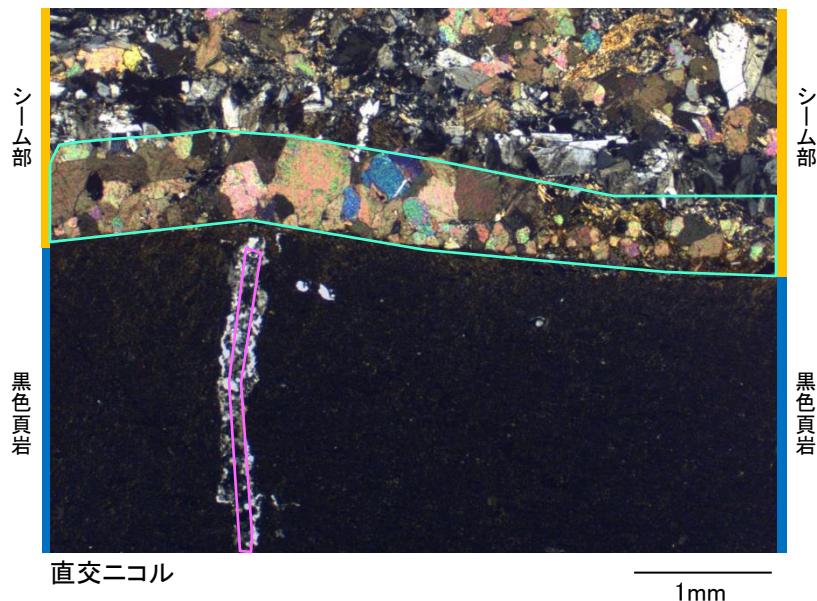
第318回審査会合
資料2 p.71 加筆・修正

171



【写真06】

- ・シームと下盤母岩において、細粒化が認められないことから、シームと下盤母岩(黒色頁岩)の境界部にはせん断面は認められない。
- ・シーム境界上側のシームに晶出する鉱物に破碎が認められない。この鉱物は、単ニコルで無色で劈開が顕著であり、直交ニコルで高次の干渉色を示すことから、X線回折分析結果を踏まえ、方解石と同定した。
- ・シーム境界下側の黒色頁岩の節理に充填された鉱物はせん断による破碎が認められない。単ニコルで無色で劈開がなく、直交ニコルで複屈折が小さく、消光角も小さいことから、X線回折分析の結果を踏まえ、石英と同定した。



以上のことから、シームと下盤母岩(黒色頁岩)の境界部にはせん断面は認められないが、せん断面があったとしても、方解石等が境界部に晶出しており、破碎が認められないことから、これらの鉱物が晶出して以降、活動していないと評価した。

凡例

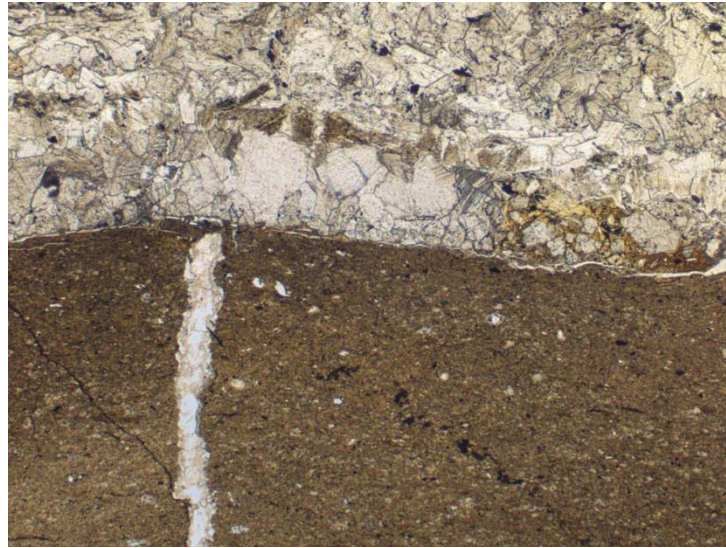
○ : 方解石

○ : 石英

薄片観察結果 BS2-B23(解釈線なし)

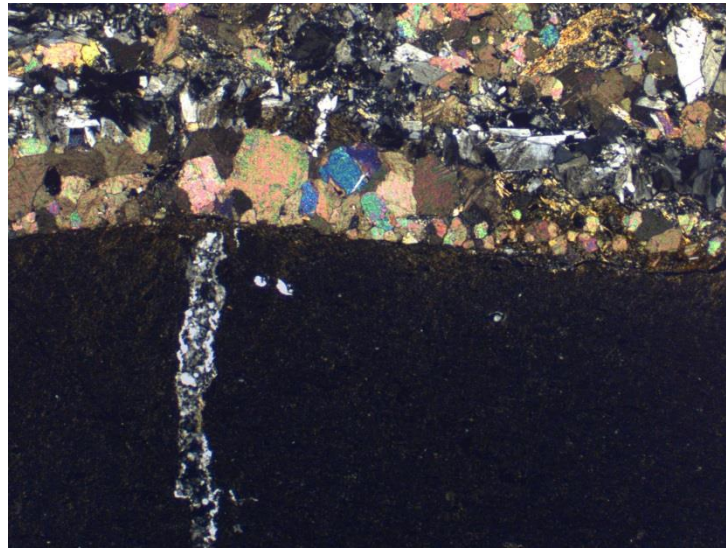
第318回審査会合
資料2 p.72 再掲

172



単ニコル

1mm



直交ニコル

1mm

KEY-PLAN

せん断面①
せん断面②
せん断面③
せん断面④



凝灰質頁岩

せん断面⑤

シーム部

黒色頁岩

凡例

- : せん断面
- : シーム境界
- : R面
- : P面

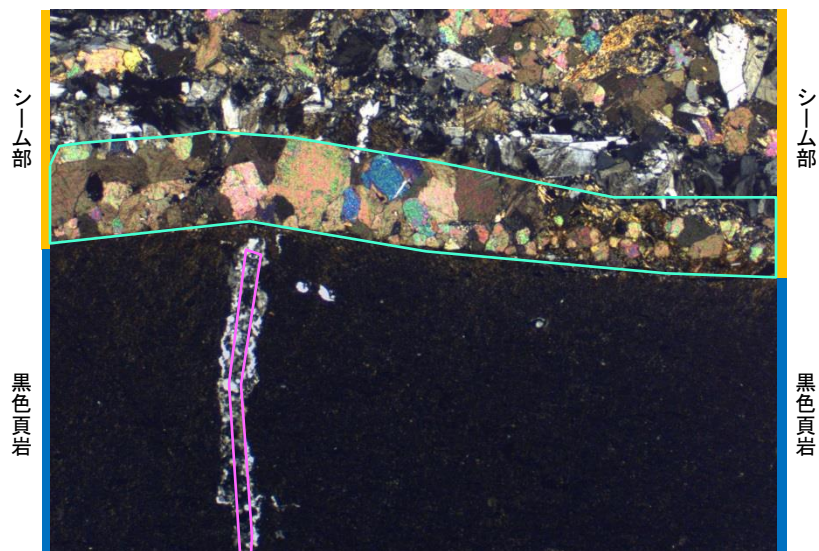
直交ニコル

10mm

EPMA分析結果 BS2-B23

第318回審査会合
資料2 p.73 加筆・修正

173



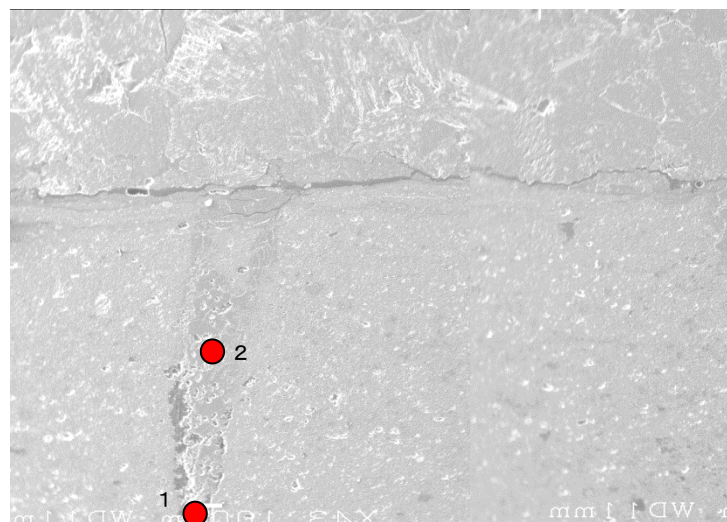
薄片写真(直交ニコル)

1mm

凡例

○ : 方解石

○ : 石英



EPMA分析位置(SEM画像)

● EPMA定量ポイント 直径10μm

【写真06 EPMA分析結果】

- ・黒色頁岩の節理に充填された鉱物脈の種類を詳細に同定するため、EPMA分析を行った。
- ・ SiO_2 が支配的であったため、薄片観察での同定結果と同様、この鉱物は石英と**同定した**。

EPMA分析結果

Mass (%)

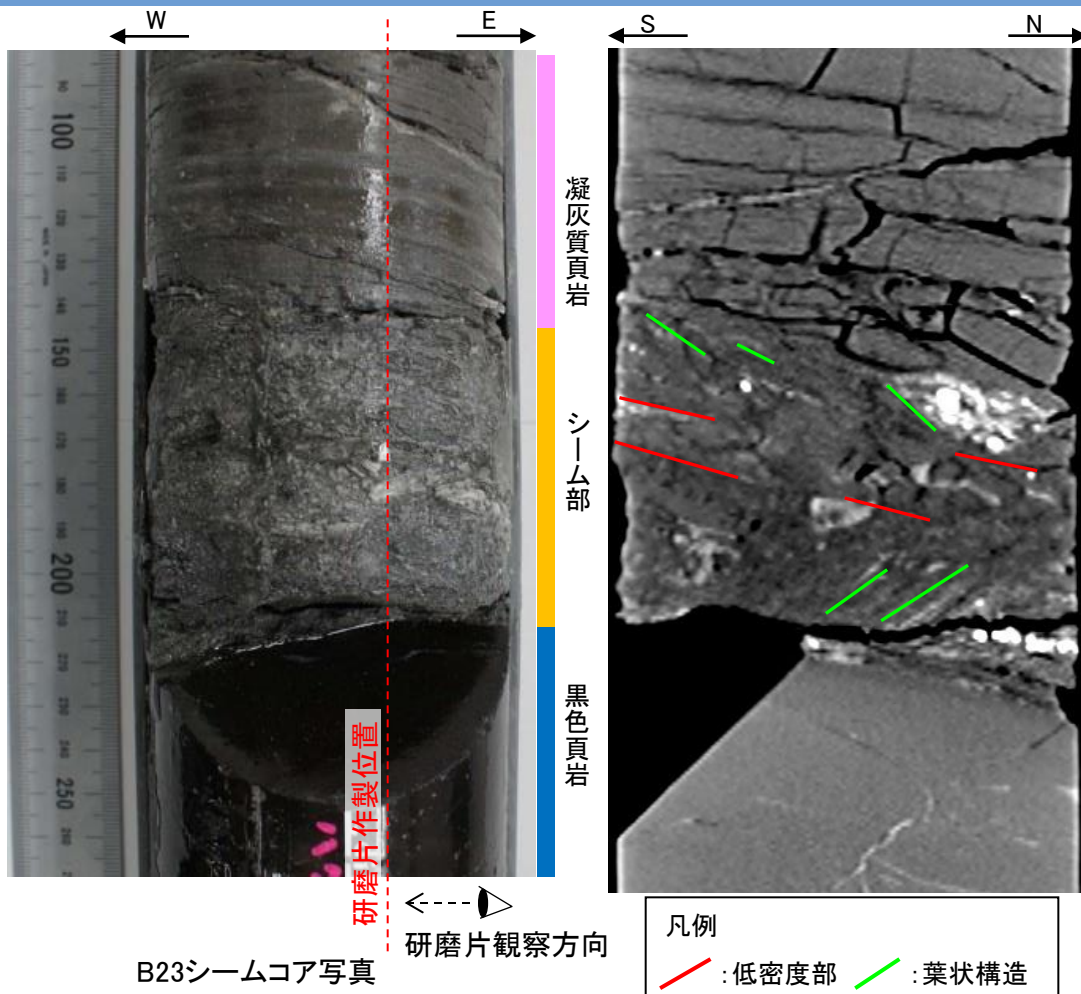
分析位置	1	2
SiO_2	95.657	95.674
TiO_2	0.006	0.041
Al_2O_3	0.432	0.392
Fe_2O_3	0.059	0.026
MnO	0.000	0.014
MgO	0.013	0.010
CaO	0.079	0.066
K_2O	0.045	0.052
Na_2O	0.053	0.058
Cr_2O_3	0.033	0.000
SO_3	0.009	0.029
OH	3.614	3.639
Total	100.000	100.001

(平成27年撮影)

研磨片観察とCT観察の対比

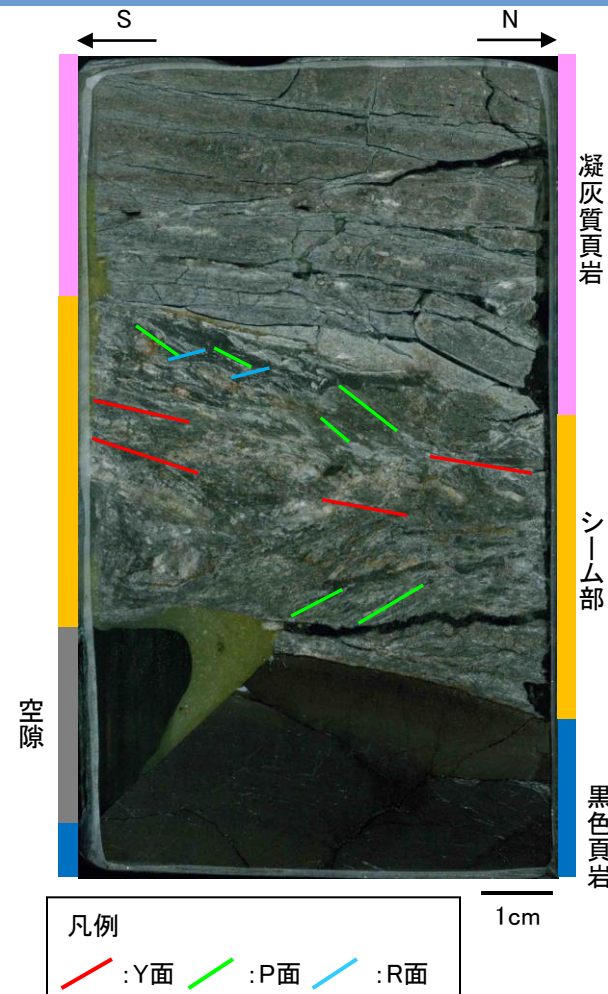
第318回審査会合
資料2 p.43 再掲

174



B23シームコア写真

B23シームCT画像(研磨片作製断面)



B23シーム研磨片写真

- ・CT画像では、シームに平行な低密度部(図の赤線)に斜交する鉱物の配列方向を葉状構造として認定している。
- ・B23シームのCT画像で認められる低密度部及び葉状構造は、研磨片のY面及びP面と概ね対応している。

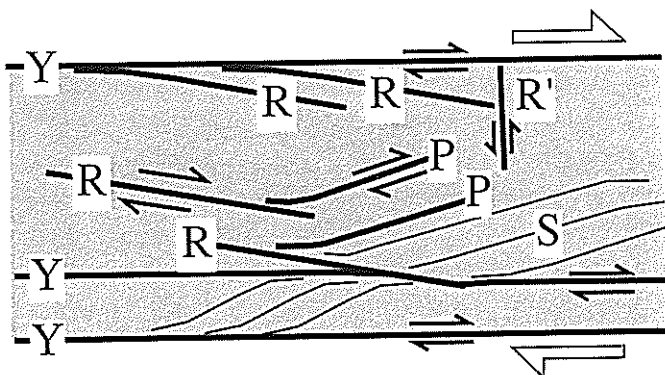
(参考)複合面構造の考え方

第318回審査会合
資料2 p.44 再掲

175

脆弱断層帯で最もよく見られる

リーデルせん断面



Y : Yせん断面(主せん断面)

R : Rせん断面

R' : R'せん断面

P : Pせん断面

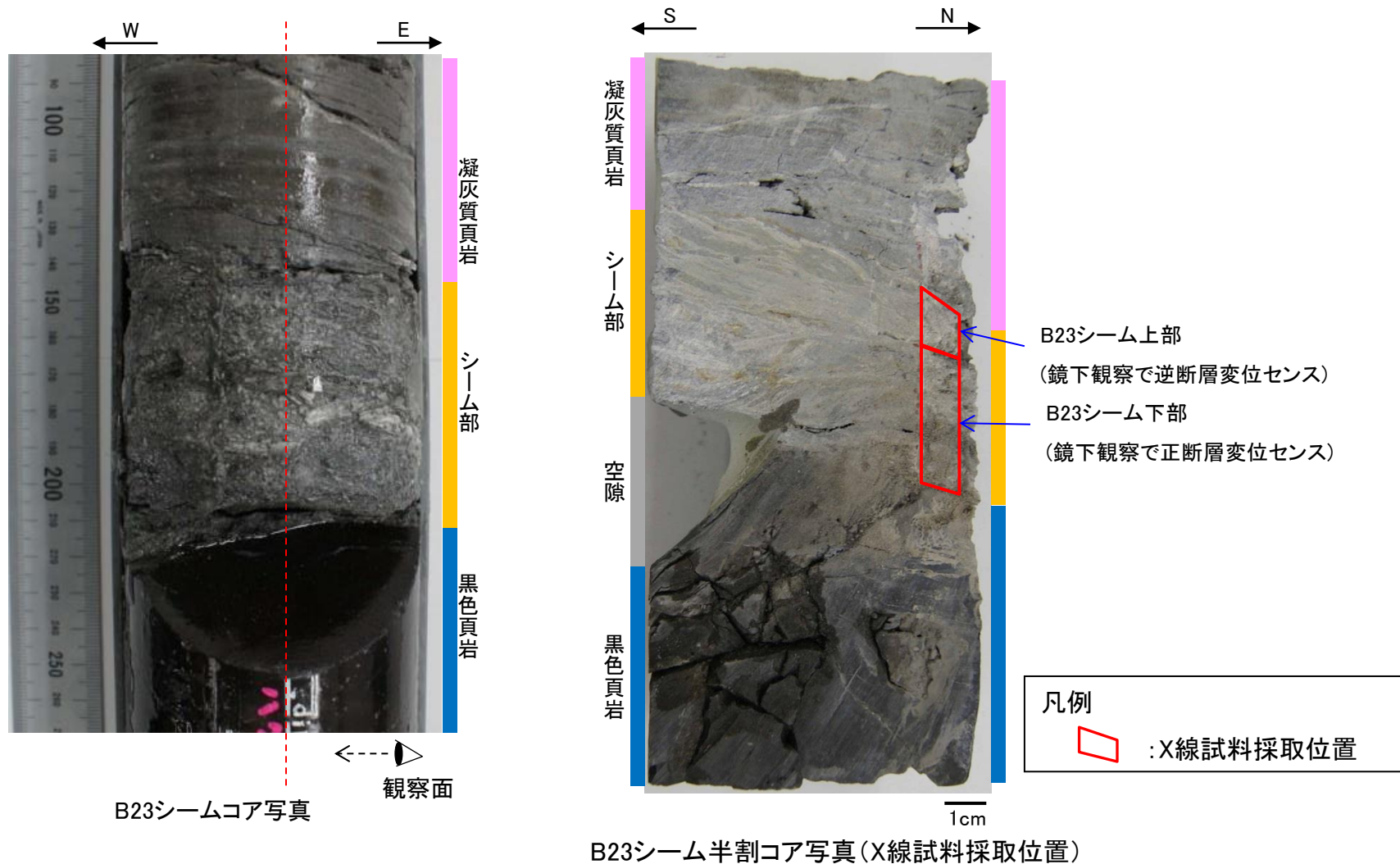
C. パスキエほか(1999)を加筆・修正

C. パスキエほか(1999)⁽⁶⁾ 及び狩野・村田(1998)⁽⁷⁾による複合面構造の考え方

複合面構造	特徴
Y面	・シームの走向に平行な主せん断面
R面	・Y面に対して時計回りに0° から30° 程度斜交し、右横ずれの場合、右横ずれ変位と多少の開口成分をもつ左雁行状の破断面
P面	・Y面に対して反時計回りに0° から30° 程度斜交し、密に発達する葉状の面構造 ・面に沿って破碎された粒子や、続成・弱変成作用によって生じた細粒の雲母粘土鉱物が配列する。

- ・C. パスキエほか(1999)によると、右横ずれの脆弱性破碎帯が形成される際、特徴的な方位とせん断センスを持つ、リーデルせん断面(Rせん断面、R'せん断面、Pせん断面等)が見られ、せん断センスは、古いリーデルせん断面(RによるPやYの屈曲)や面構造により、せん断センスを決定できるとしている。
- ・狩野・村田(1998)によると、P面は密に発達する葉状の面構造であり、面に沿って破碎された粒子等が配列することで特徴付けられる。

X線回折分析試料採取位置 BS-2, B23シーム

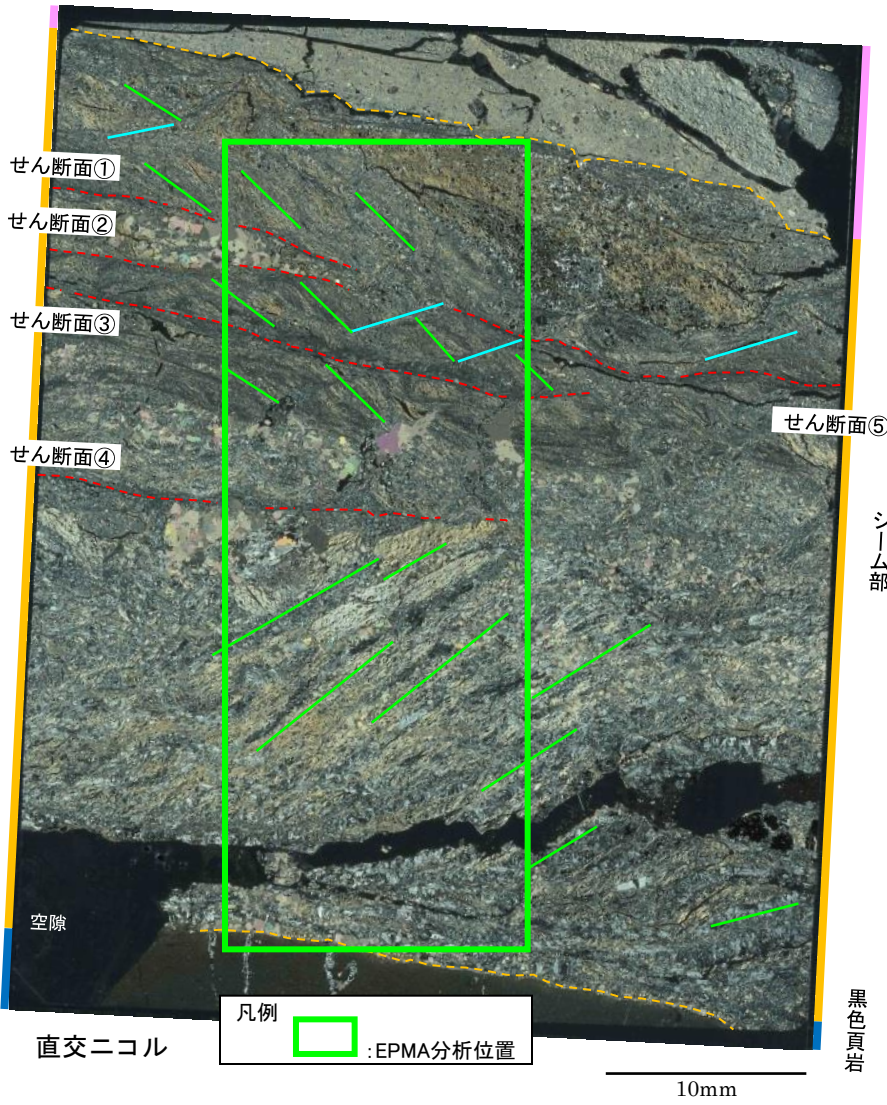


・B23シームは、コア観察及びCT観察において確認された、せん断センスが異なる上部と下部でそれぞれ試料を採取した。

EPMA分析結果 BS2-B23

第318回審査会合
資料2 p.75 再掲

177



凝灰質頁岩

シーム部

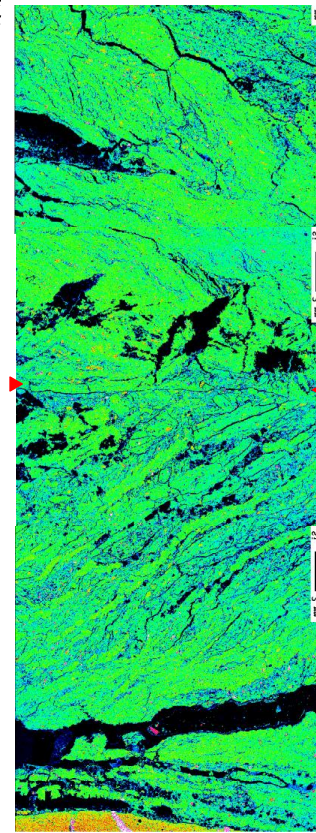
黒色頁岩

青:濁沸石

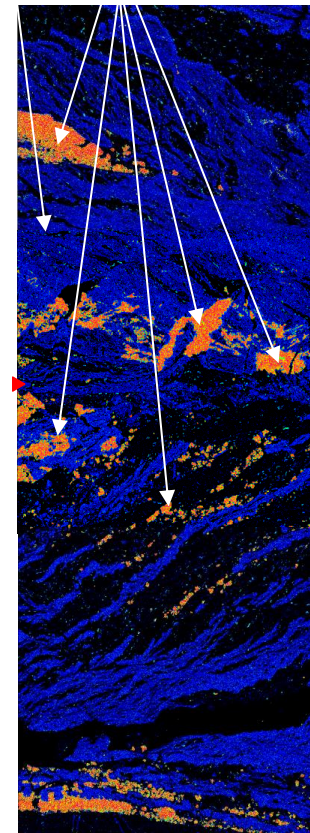
橙色:方解石

水色:I/Sm

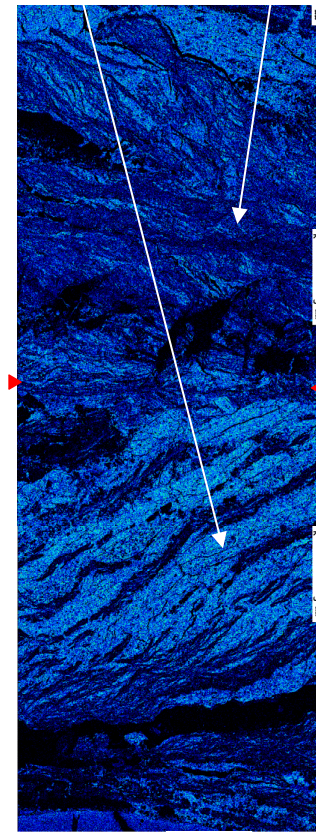
紺:濁沸石



Si



Ca



K

凡例 ▶ : せん断面④

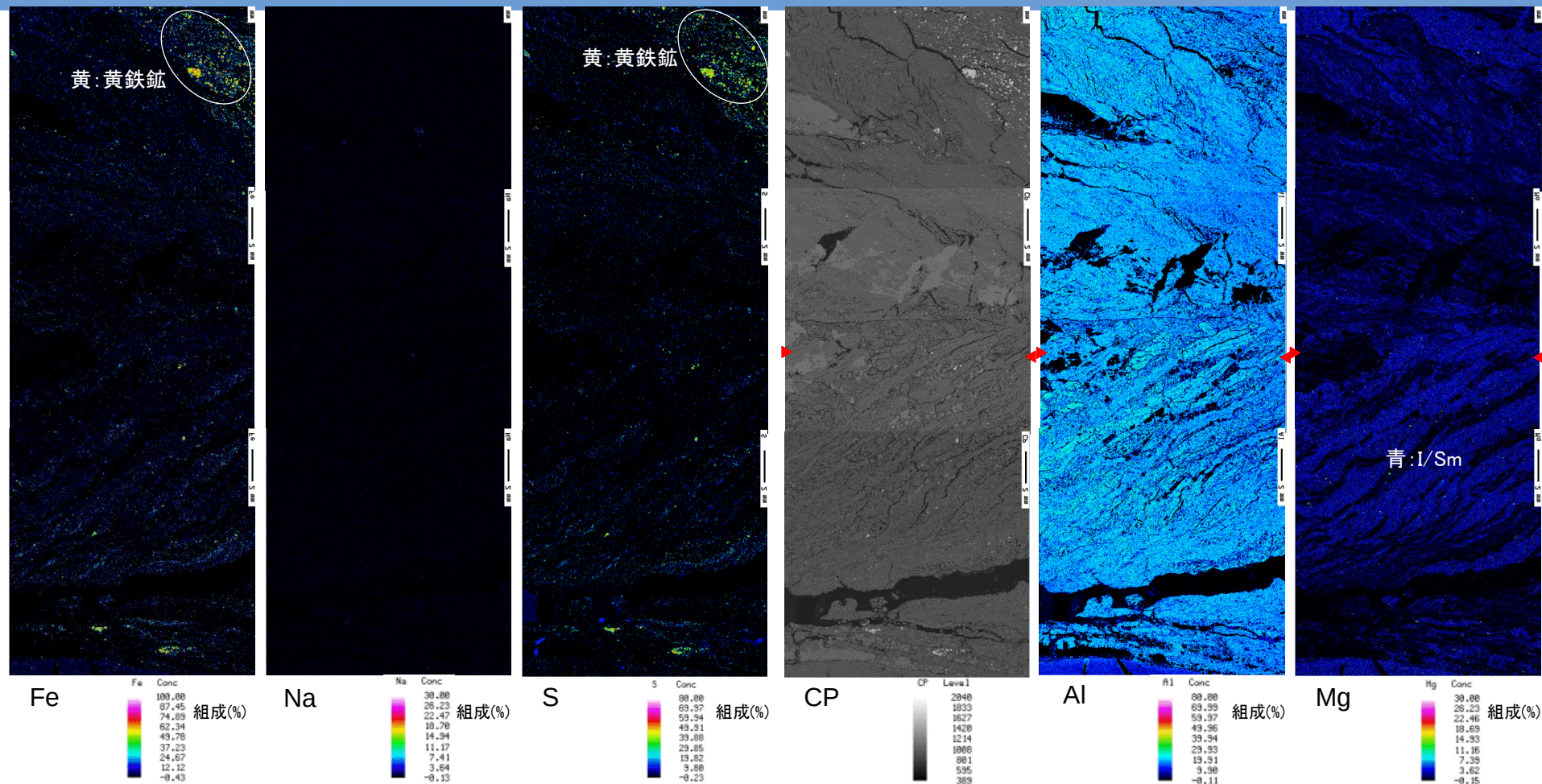
凡例 --- : せん断面 --- : シーム境界 --- : R面 --- : P面

・B23シームの全体の鉱物組成を確認するため、EPMA分析(マッピング)を行った。

EPMA分析結果 BS2-B23

第318回審査会合
資料2 p.76 加筆・修正

178



- ・ほぼCaのみが検出される範囲には、方解石(CaCO_3)が晶出している。方解石は、せん断面④下部のP面沿い、せん断面④上部のR面沿いに分布する。
- ・Si, Ca, Alが検出される範囲には、濁沸石($\text{CaAl}_2\text{Si}_4\text{O}_{12} \cdot 4\text{H}_2\text{O}$)が晶出している。
- ・K, Mgが検出される範囲には、イライト/スメクタイト混合層鉱物(※)が晶出している。イライト/スメクタイト混合層鉱物は、せん断面④の上部・下部のP面沿いに晶出しており、下部に多い傾向がある。
- ・Fe, Sが検出される範囲には、黄鉄鉱(FeS_2)が晶出している。

※ イライト: $\text{K}_{1-1.5}\text{Al}_4(\text{Si}_{7-6.5}\text{Al}_{1-1.5}\text{O}_{20})(\text{OH})_4$,スメクタイト: $\text{Na}_{0.7}(\text{Al}_{3.3}\text{Mg}_{0.7}\text{Si}_8\text{O}_{20})(\text{OH})_4 \cdot n\text{H}_2\text{O}$